

2024年度
観光ビジネス学科
シラバス

■目次

1. 学修成果(到達目標)	4
2. 教育課程(カリキュラムマップ)	5
3. カリキュラムツリー	6
4. 1年生 年間予定表	7
5. 1年生 シラバス	9

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	9	ブライダルビジネス実務	29
英語 I	10	秘書実務	30
コミュニケーション論	11	旅行業法	31
情報処理	12	旅行業約款	32
数理リテラシー	13	国内運賃・旅費計算	33
経営学入門	14	旅行業務演習	34
マーケティング	15	旅程管理	35
観光概論	16	韓国語会話 I	36
観光ビジネス論	17	英会話基礎	37
国内観光地理	18	英会話応用	38
実践文章作成演習	19	観光英語	39
フィールドワーク概論	20	TOEIC演習	40
英語 II	21	観光インターンシップ	41
ビジネスマナー	22	海外研修	42
情報機器演習	23	基礎キャリア形成ゼミ	43
エアラインビジネス実務	24	実践キャリア形成ゼミ	44
エアラインサービス	25	初年次ゼミ	45
鉄道ビジネス実務	26	観光研修 I	46
宿泊ビジネス実務	27	観光ゼミ I	47
ホテル・ブライダルサービス	28		

6. 学修成果(到達目標)	52
7. 教育課程(カリキュラムマップ)	53
8. カリキュラムツリー	54
9. 読替表	55
10. 2年生年間予定表	56
11. 2年生 シラバス	58

開講科目	頁	開講科目	頁
東北学	58	国内観光資源	70
歴史と文化	59	海外観光地理	71
法律入門	60	東南アジアの言語と文化	72
現代の社会	61	韓国語会話 II	73
国際観光論	62	中国語会話 I	74
観光史と観光文化	63	中国語会話 II	75
金融リテラシー入門	64	フランス語会話	76
観光ビジネス英会話	65	おもてなし英語	77
旅行ビジネス実務	66	観光英語ガイド基礎	78
ホテル経営	67	観光研修 II	79
旅と文学	68	観光ゼミ II	80
テーマパークビジネス	69	観光ゼミ III	84

12. ナンバリング	90
13. 学科教員一覧	93
14. オフィスアワー	93
15. 成績評価	93
16. 実務経験を有する教員の一覧	94

観光ビジネス学科 1年生 (2024年度入学生)

- 学修成果（到達目標）
- 教育課程（カリキュラムマップ）
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

学修成果（到達目標）

1【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

広い視野を持ち、深い知識と技能を修得し、観光ビジネスの現場で活かすことができる。

- ①総合的な判断力の基礎を養うことができる。
- ②多角的な視野から物事を思考し、本質を見極め、問題解決に取り組むことができる。

2【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力

複雑化する現代社会において、豊かな教養を身につけ、職業人として多角的に物事を見つめることができる。

- ①基本的なビジネスマナーを身につけ観光ビジネスの現場で実践することができる。
- ②収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。

3【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

豊かなコミュニケーション能力を身に付け、職業人として自己の能力を発揮することができる。

- ①積極的かつ意図的にコミュニケーションを作り出すことができる。
- ②他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べることができる。

4【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力

継続してキャリアを積むことにより、さらなる業務遂行能力をはじめとする人間的成長ができる。

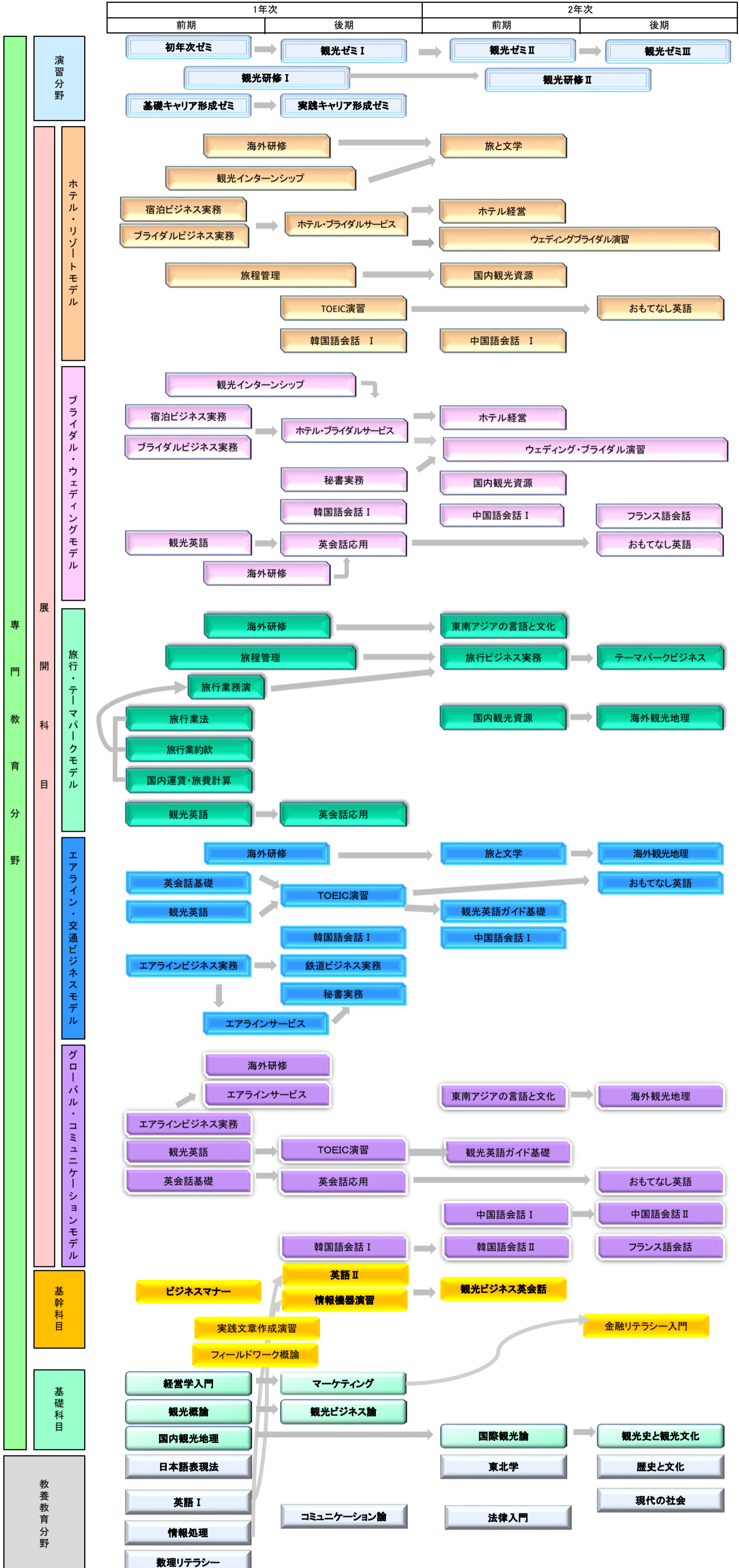
- ①生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身につける。
- ②時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。

5【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

職業人として地域社会の活性化に貢献することができる。

- ①職業や勤労に対する理解を深め、地域で意欲的に働くことができる。
- ②地域での活動に積極的に参加し、役割に即した活動の成果をあげることができる。
- ③東北地方の歴史、文化、社会、経済、観光資源について理解し、地域社会に貢献することができる。

凡例	科目名太字	必修科目
	科目名細字	選択科目



2024年度 観光ビジネス学科1年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土					
4月		1		2		3	入学式	4	オリエンテーション	5	オリエンテーション	6	
	7	8	健康診断	9	①	10	①	11	①	12	①	13	
	14	15	①	16	②	17	②	18	②	19	②	20	
	21	22	②	23	③	24	③	25	③	26	③	27	
	28	29		30	④	1	④	2	④	3		4	
5月	5	6		7	⑤	8	⑤	9	⑤	10	④	11	
	12	13	③	14	⑥	15	⑥	16	⑥	17	⑤	18	
	19	20	④	21	⑦	22	⑦	23	⑦	24	⑥	25	
	26	27	⑤	28	⑧	29	⑧	30	⑧	31	⑦	1	
6月	2	3	⑥	4	⑨	5	⑨	6	⑨	7	⑧	8	
	9	10	⑦	11	⑩	12	⑩	13	⑩	14	⑨	15	
	16	17	⑧	18	⑪	19	⑪	20	⑪	21	⑩	22	
	23	24	⑨	25	⑫	26	⑫	27	⑫	28	⑪	29	
	30	1	⑩	2	⑬	3	⑬	4	⑬	5	⑫	6	
7月	7	8	⑪	9	⑭	10	⑭	11	⑭	12	⑬	13	
	14	15		16	⑮	17	⑮	18	⑮	19	⑭	20	
	21	22	⑫	23	月⑬	24	月⑭	25		26	⑮	27	
	28	29	⑮	30	予備日	31	定期試験	1	定期試験	2	定期試験	3	
8月	4	5	定期試験	6		7		8		9	不合格者発表	10	
	11	12		13		14		15		16		17	
	18	19	集中講義	20	集中講義	21	集中講義	22	集中講義	23	集中講義	24	
	25	26	集中講義	27	集中講義	28	集中講義	29	集中講義	30	集中講義	31	
9月	1	2	再試験	3	再試験	4	海外研修	5	海外研修	6	海外研修	7	
	8	9	海外研修	10	海外研修	11	海外研修	12		13		14	
	15	16		17	集中講義	18	集中講義	19	集中講義	20	集中講義	21	
	22	23		24		25		26		27	後期オリエンテーション	28	
	29	30	①										

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2024年度 観光ビジネス学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土						
10月				1	①	2	①	3	①	4	①	5		
	6		7	②	8	②	9	②	10	②	11	②	12	
	13		14		15	③	16	③	17	③	18	③	19	
	20		21	③	22	④	23	④	24	④	25	せいよう祭 準備	26	せいよう祭
	27		28	④	29	⑤	30	⑤	31	⑤	1	④	2	
11月	3		4		5	⑥	6	⑥	7	⑥	8	⑤	9	
	10		11	⑤	12	⑦	13	⑦	14	⑦	15	⑥	16	
	17		18	⑥	19	⑧	20	⑧	21	⑧	22	⑦	23	
	24		25	⑦	26	⑨	27	⑨	28	⑨	29	⑧	30	
12月	1		2	⑧	3	⑩	4	⑩	5	⑩	6	⑨	7	
	8		9	⑨	10	⑪	11	⑪	12	⑪	13	⑩	14	
	15		16	⑩	17	⑫	18	⑫	19	⑫	20	⑪	21	
	22		23	⑪	24	⑬	25	⑬	26	⑬	27	⑫	28	
	29		30		31		1		2		3		4	
1月	5		6	⑫	7	⑭	8	⑭	9	⑭	10	⑬	11	
	12		13		14	⑮	15	⑮	16	⑮	17	⑭	18	
	19		20	⑬	21	月⑭	22	月⑮	23	金⑮	24	予備日	25	
	26		27	定期試験	28	定期試験	29	定期試験	30	定期試験	31	追試験	1	
2月	2		3		4		5		6	不合格者発表	7		8	
	9		10		11		12	再試験	13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		1	
3月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18	卒業式	19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
	30		31											

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●							
科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田 幸雄		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。 									
学修者への期待等	日本語を知ることは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴				日本語と英語との相違を考えてみよう。(20分程度)					
2	日本語の歴史				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
3	ことばと表現①(熟語、語句)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
4	ことばと表現②(ことわざ、故事成語)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
5	敬語表現①(敬語の基本)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
6	敬語表現②(尊敬語と謙譲語)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
7	話してみよう①:インタビューとショートスピーチ				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
8	話してみよう②:グループディスカッション				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
9	修飾語と被修飾語との関係①(原則論)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
10	修飾語と被修飾語との関係②(練習問題)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
11	句読点の打ち方(原則論)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
12	句読点の打ち方と文章要約①(境界の点)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
13	句読点の打ち方と文章要約②(逆転の点)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
14	句読点の打ち方と文章要約③(自由の点)				前回のチェック・テストの復習。(20分程度)					
15	文章の構成									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著（朝日新聞出版） 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著（風間書房）									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語 I				単位認定者	吉野 千乃		試験 (筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。									
到達目標	私たちの日常でよく用いられる英語表現を習得し、平易な英語で基本的なコミュニケーションがとれるようになる。また、海外旅行を中心とした観光に関する英語表現について学び、希望の進路を実現するための力を身につける。									
学修者への期待等	授業にはテキスト、辞書を持参すること。授業前には該当箇所の音声ダウンロードし、予習を行うこと。各回に行うペアワーク、会話練習やロールプレイに積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について/事前学修・事後学修の方法				シラバス記載の内容を確認しておく(概ね20分)。					
2	Unit 1 At the airport-1 語彙と内容理解				Unit 1 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
3	Unit 1 At the airport-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
4	Unit 2 On the plane-1 語彙と内容理解				Unit 2のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
5	Unit 2 On the plane-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
6	Unit 3 Arrival-1 語彙と内容理解				Unit 3 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
7	Unit 3 Arrival-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
8	Unit 4 Checking in at the hotel-1 語彙と内容理解				Unit 4のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
9	Unit 4 Checking in at the hotel-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
10	Unit 5 Getting information and sightseeing-1 語彙と内容理解				Unit 5 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
11	Unit 5 Getting information and sightseeing-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
12	Unit 6 Ordering fast food-1 語彙と内容理解				Unit 6 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
13	Unit 6 Ordering fast food-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
14	Unit 7 Going to the theater-1 語彙と内容理解				Unit 7 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
15	Unit 7 Going to the theater-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回到学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
教科書	Takeuchi, M., Nakai, N., & Sugawara, C. (2015). <i>Enjoy Your Trip! English you need abroad</i> . Nan'un-do.									
参考文献	資料は随時LMSより配信する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをLMSにReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進捗や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HSO-01				
	●		●							
科目名	コミュニケーション論				単位認定者	佐藤 和美		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	コミュニケーションは、対人関係を構築していくために重要な社会的行為であるが、現代社会においては、コミュニケーションの取り方が大きく変化し、また複雑になっている。本科目においては、コミュニケーションの基礎的な理論について社会的な視点から考察し、対人スキルの向上へと結びつくコミュニケーションの在り方について理解することを目的とする。									
到達目標	現代のコミュニケーションの特徴を理論的に捉えたうえで、現代人が人間関係を円滑に構築していくためのコミュニケーションスキルについて考察し、活用できるようにする。									
学修者への期待等	授業では社会に出てから必要になるビジネスコミュニケーションも念頭に置いての講義となるが、学生同士の日常生活でもその考え方やスキルを応用して、より良い人間関係の構築に役立てて欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	コミュニケーションとはなにか					【事後】配布資料を参考に重要事項についてまとめる(概ね30分)				
2	安心・安全な場の創作のためのコミュニケーション～組織やチームを停滞させるコミュニケーションとは					【事後】2回目授業内容について、日常生活や時事的事象で観察し記録する(概ね1時間)				
3	関係性を創作する聴き方①～友人、家族、ストレス緩和(授業の一部でグループワークを実施)					【事後】日常のコミュニケーションを観察し、3回目授業内容を実践的に活用してみる。その結果を振り返る(概ね1時間)				
4	関係性を創作する聴き方②～顧客、上司、ビジネス編(授業の一部でグループワークを実施)					【事後】日常のコミュニケーションを観察し、4回目授業内容を実践的に活用してみる。その結果を振り返る(概ね1時間)				
5	自分も相手も大切に伝える伝え方(授業の一部でペアワークを実施)					【事後】5回目授業時の配布資料を参考に課題に取り組む(概ね1時間)				
6	インテンショナルメッセージ①～メッセージの創作(授業の一部でペアワークを実施)					【事後】6回目授業資料を復習し資料内設問に取り組む(概ね30分)				
7	インテンショナルメッセージ②～主体的な行動を導く、アサーションの包含(授業の一部でペアワークを実施)					【事後】7回目授業内容について実践し、その結果を記録する(概ね1時間)				
8	上司とのコミュニケーション～報告、模擬会議、アジェンダ作成(授業の一部でグループワークを実施)					【事後】8回目授業資料をもとにした復習・記録の作成(概ね1時間)				
9	チームで働く～チームに必要なコミュニケーション(授業の一部でディスカッションを実施)					【事後】9回目授業資料をもとにした復習・チームで取り組んだ体験の考察と記録(概ね1時間)				
10	ビジネスコミュニケーション関連テストと解説					【事後】解説を振り返る(概ね1時間)				
11	自己とコミュニケーション～コンフォートゾーンバイアスの理解					【事後】11回目授業資料復習と資料内設問への取り組み(概ね30分)				
12	世代別コミュニケーション～心身の変化の理解と適切な対応について(授業の一部でロールプレイを実施)					【事後】12回目授業資料復習と資料内設問への取り組み(概ね30分)				
13	社会とのコミュニケーション～社会の中の一人として(授業の一部でディベート・グループワークを実施)					【事後】13回目授業資料復習と資料内設問への取り組み(概ね30分)				
14	メディアとコミュニケーション・異文化理解(授業の一部でディベート・グループワークを実施)					【事後】メディアとコミュニケーションについて整理しておく(概ね1時間)				
15	情報化社会・コロナ禍がもたらした人間関係の変化					【事後】人間関係と社会の相関について考察する(概ね1時間)				
教科書	特になし									
参考文献	「大学1年生からのコミュニケーション入門」 中村美香(著)、ナカニシヤ出版 「即戦力になるビジネスコミュニケーション第2版」 箱田忠昭(著)、日経BP社									
備考	受講者の理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●	●								
科目名	情報処理				単位認定者	佐々 順子		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	コンピュータの基本操作を習得し、一般的な業務に通用するWord・Excel・PowerPointの操作スキルを身につけることを目標とする。 Word：基本的なビジネス文書の作成、表現効果を上げる表や画像を使用した文書の作成。 Excel：数式、グラフを含む表計算ソフトの基本操作と応用的な機能の習得。 PowerPoint：プレゼンテーションソフトの基本操作と目的に沿ったスライドの作成。									
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作技術とともに、利用上のマナーや注意点などを含むコンピューター・リテラシーを身につけることを目標にして欲しい。コンピューター操作経験者も基本事項の再確認や、これまで自己流で感覚的に行っていた部分を正確な知識・技能に高準化するのための見直しとして意欲的に臨むこと。また、操作がわからない者へのアドバイスや受講者間での相談等の協調によるスキルアップも大切にしていきたい。欠席や遅刻をせず、1回1回の授業に積極性を持って「参加」すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	オリエンテーション ノートPCを使用する受講の事前準備、基本操作・注意事項確認 LMSからのデータダウンロード、課題アップロードについて等				次回までの予習：p 33～43Wordによる基本的な入力の確認					
2	Word：文書の作成とファイルの保存、ページ設定、基本的な書式設定、印刷設定、編集操作、ビジネス文書の基本・・・①				○予習について ・マウス操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、継続的な練習を行う。特に入力操作が苦手な場合はローマ字入力のタイピング、基本的なマウス操作（テキストp6参照）の練習を行って授業に臨む（30分程度）。 ・上記以外に指示された予習を次回までに行うこと。					
3	Word：文書の作成とファイルの保存、ページ設定、基本的な書式設定、印刷設定、編集操作、ビジネス文書の基本・・・②									
4	Word：表の作成・編集									
5	Word：画像や図形の活用									
6	Word：文書作成									
7	PowerPoint：プレゼンテーションの基本操作と作成				○復習について ・各授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにしておく。 ・授業時間内に完成しなかった課題や指定課題は次回授業までに完成させる（30～90分程度）。					
8	PowerPoint：グラフ、SmartArt、アニメーション、表、画像									
9	PowerPoint：表や画像、ワードアートの活用、その他の機能									
10	Excel：Excelの基本操作、ブックの保存、入力、編集、計算式									
11	Excel：関数の基本、小数点に関わる関数と操作									
12	Excel：相対参照と絶対参照、比率と割合、罫線操作									
13	Excel：グラフ作成、さまざまな関数①									
14	Excel：さまざまな関数②、便利な機能									
15	Word, Excel, PowerPointの連携操作									
教科書	「30時間でマスター Office2021 Windows11対応」小田良次 実教出版									
参考文献	授業内容に応じて資料プリント配付（配布プリントはすべてファイリングすること。）									
備考	○アプリ操作性の向上と、授業課題の保存・移動のため、授業開始時までに各自次のものを準備してください。 全学科必須：USBメモリー（他の科目と共用可）ノートPCの仕様によりUSBポートがない場合はコネクタも必要） 私物PCによる授業を行う学科必須：私物ノートPC用マウス （情報処理室で授業の学科は任意） ○私物ノートPC使用の授業では事前に充電を済ませておくこと。（授業中に充電を行わない。） ○本科目は2クラスに分けて実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HSC-01				
	●	●								
科目名	数理リテラシー				単位認定者	本田 俊夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	<p>職業生活においては、様々な数字に囲まれて仕事をするようになる。本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、ビジネスだけでなく、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取る力を身につける。</p> <p>キャリア形成に必要な不可欠な数学的、論理的な考え方を効果的に学ぶ。</p>									
到達目標	<p>数学の基礎・基本を身に付け、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。</p>									
学修者への期待等	<p>日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	分数や小数の計算・四則計算				テキストのテーマ5～7(分数や小数の計算・四則計算)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
2	割合・比の計算				テキストのテーマ9～10(割合・比の計算)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
3	和と差、割合に関する問題				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
4	割合と百分率①～損益算				テキストのテーマ16(損益算)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
5	割合と百分率②～仕事算・濃度算				テキストのテーマ21(仕事算)、23(濃度算)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
6	速さ①～速さ・時間・距離、旅人算(相対速度の利用)				テキストのテーマ18(速さ・時間・距離、旅人算)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
7	速さ②～流水算・通過算				テキストのテーマ19(流水算)と20(通過算)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
8	連立方程式とつるかめ算、1次関数				テキストのテーマ24(連立方程式とつるかめ算、1次関数)を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
9	数と集合(ベン図の活用)				テキストのテーマ25(集合(ベン図の活用))を事前に終わらせておくこと(1時間程度)。					
10	進数～2進数・8進数・16進数など				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
11	平方根・累乗根。指数				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
12	対数 日常の中での対数と計算				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
13	統計の基礎① データの分布と代表値、ばらつき				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
14	統計の基礎② データの標準化				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
15	統計の基礎③ 推定と検定				授業内容をよく復習すること(概ね30分～1時間程度)。					
教科書	『基礎から学ぶSPIベーシック問題集』 就職情報研究会編 実務教育出版									
参考文献										
備考	当科目は2クラスに分けて実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-01				
	●			●						
科目名	経営学入門				単位認定者	丸藤 准二		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	現代の企業の仕組みや環境，経営の課題と展望について理解を深め，また，経営学の変遷について学ぶ。具体的には，経営学の基本的な専門用語や概念について理解し，説明できるようにする。そして，企業が社会全体に与える影響を知ることで，企業活動の本質的な行動原理について理解し，企業活動を管理する必要性について学ぶ。									
到達目標	経営学の基本として，全体の体系と構造をまず理解すること。さらに各授業における重要な基本的知識や概念を理解し，自分の言葉で説明できるようにすること。									
学修者への期待等	経営学を学ぶことにより，企業の仕組みや企業活動の基本原則，行動原理を理解することができます。さらに社会における企業活動のあり方を捉えることができます。授業にしっかり取り組むことと同時に，新聞などの情報に触れて実際の企業活動の動きにも興味を持つことを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	「経営学」とは何か				課題を完成させ，経営学の体系について整理をしておいてください（1時間程度）。					
2	企業の機能と制度				課題を完成させ，企業の機能と制度について整理をしておいてください（1時間程度）。					
3	経営学の歴史				課題を完成させ，経営学の歴史の概略について整理をしておいてください（1時間程度）。					
4	組織				課題を完成させ，組織構造の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
5	人的資源管理				課題を完成させ，人的資源の活用と管理について整理をしておいてください（1時間程度）。					
6	経営戦略－1（経営戦略の概要・策定プロセス）				課題を完成させ，経営戦略の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
7	経営戦略－2（経営環境分析・事業戦略）				課題を完成させ，経営戦略の方法について整理をしておいてください（1時間程度）。					
8	生産管理				課題を完成させ，生産管理の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
9	マーケティング				課題を完成させ，マーケティングとは何かについて整理をしておいてください（1時間程度）。					
10	営業管理/モチベーション理論				課題を完成させ，営業管理とモチベーション理論について整理をしておいてください（1時間程度）。					
11	経営情報/SCM				課題を完成させ，経営情報とSCMとは何かについて整理をしておいてください（1時間程度）。					
12	意思決定/リーダーシップ論				課題を完成させ，意思決定の基本とリーダーシップ論について整理をしておいてください（1時間程度）。					
13	会計				課題を完成させ，会計の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
14	財務管理				課題を完成させ，財務活動の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
15	企業のあり方				課題を完成させ，SDGsやCSRについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
教科書	北中英明著『プレステップ経営学<第2版>』弘文堂									
参考文献	井原久光編著『経営学入門キーコンセプト』ミネルヴァ書房									
備考	・課題は授業内に解答してフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要, 実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-02				
	●				●					
科目名	マーケティング				単位 認定者	高野 宏輝		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題等	50 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	「4P」といわれるプロダクト、プライス、プレイス、プロモーションを中心としたマーケティング・ミックスの考え方や、ビジネスの環境変化に対応した新しいマーケティングの方法を学ぶ。また、生産と消費を結ぶ流通がどのような機能と役割を担っているのかを、小売業を中心に学ぶ。									
到達目標	消費者として企業のマーケティング活動の内容を知り、普段の生活と企業の関わりについて身近な問題として捉える力を修得する。更に観光ビジネスが、顧客にどのような価値提供を行っているか理解する。									
学修者への 期待等	<ul style="list-style-type: none"> どのような商品やサービスが、どのように提供されているか、アフターサービスはどうかなど、日常生活の中で考えて欲しい。特に実際の観光サービスの現場を観察し、学ぶべき理論との結びつきを日頃から考えること。 事前にテキストを熟読してくること。予習を前提としたミニテストに取り組むところから授業を始める。 									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンスー授業進行と成績評価 マーケティングの成功事例									
2	売れる仕掛けのつくりかた 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第1章「マーケティングとは何か？」に目を通してくること（1時間程度）					
3	誰に買ってもらいたいのか？ 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第2章「STP①セグメンテーションとターゲティング」に目を通してくること（1時間程度）					
4	市場で位置を決め、顧客ニーズをつかむ 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第3章「STP②ポジショニング」に目を通してくること（1時間程度）					
5	売れる商品はここが違う 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第4章「4つのP①Product（製品）」に目を通してくること（1時間程度）					
6	価格設定のマジックを知る 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第5章「4つのP②Price（価格）」に目を通してくること（1時間程度）					
7	なぜ、その店で売ってもらおうのか？ 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第6章「4つのP③Place（流通チャネル）」に目を通してくること（1時間程度）					
8	テレビ広告か、折込チラシか？ 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第7章「4つのP④Promotion（販売促進）」に目を通してくること（1時間程度）					
9	具体例で考えるSTPと4つのP 観光マーケターの仕事とは？動画視聴				【事前】教科書第8章「具体例で考えるSTPと4つのP」に目を通してくること（1時間程度）					
10	観光ビジネスにおけるマーケティングを考える				【事前】観光ビジネスの成功事例を調査してくること（1時間程度）					
11	ライバルに勝ち、業界で生き残る 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第9章「競争戦略」に目を通してくること（1時間程度）					
12	私たちの買い物に何が影響されているか？ 消費者心理を知る 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第10章「消費者行動」に目を通してくること（1時間程度）					
13	インターネットでの売り方の特徴 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第11章「eコマース」に目を通してくること（1時間程度）					
14	モノとサービスの売り方は、どう違う？ 反転授業／グループワーク				【事前】教科書第12章「サービス業のマーケティング」に目を通してくること（1時間程度）					
15	最新のマーケティング動向 まとめ（重要ポイントの振り返り）				【事後】振り返りレポートを提出する（1時間程度）					
教科書	「プレステップ マーケティング<新版>」丸山正博著、弘文堂									
参考文献	必要に応じて講義中に紹介する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 教科書での予習を前提とし、毎回LMSによるミニテストを実施する。解答解説を講義の中で行う。 授業終了後、振り返り課題をLMSより提出することを基本とする。評価はLMSより行い各学生へフィードバックする。 授業内で解説した配布資料以外の解説用スライドは、LMS上に掲載するので、必要に応じて参照すること。 受講者の理解度などにより、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

旅行会社が在籍時に営業、オペレーション、販促、マネジメント業務に従事。商品企画から販売に至るまで、ビジネス現場で経験したマーケティング活動の事例を紹介し、習熟すべき知識とつながるよう、分かりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-03				
	●				●					
科目名	観光概論				単位 認定者	成澤 広幸		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	観光は21世紀最大の産業であるといわれ、わが国でも観光立国政策に沿って内外の観光客の獲得競争が始まっている。本科目では、観光活動を産業の立場から概観し、観光が多くの個別的な産業に支えられて、最終的には豊かな国民生活に貢献していることを学ぶ。具体的には、観光活動を主な原因とする経済規模のひろがりや、日本と世界のレベルで見ながら、観光活動を構成する移動・宿泊・レジャーという三大要素と個別的な産業との関わりについて講義し、最後に観光活動の経済的効果についてまとめる。									
到達目標	現代における観光現象を総合的に理解し、基本的・個別的な観光問題について、自分のことばで説明を行うことができるようになる。									
学修者への 期待等	観光を考える素材は日常生活の至る所にあります。観光は身近な存在なので、当然のこのようにその意義を考えることが少ないと思われかもしれませんが、身の回りにあふれる観光に関することに注意を向けてほしい。そうすれば観光の豊かな世界が見えてきます。									
回	授業計画				準備学修					
1	「観光」の概念とコロナ禍の現代における観光の意義				2024年現在の状況において、観光とは何だろうかということを考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
2	観光の諸制度				観光活動を盛んにする仕組みは何かを考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
3	観光の効果と影響				観光が個人や社会、環境にもたらすものをプラスとマイナスの両面で考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
4	観光と経済				観光がミクロとマクロの双方でどのような影響をもたらすかについて、考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
5	観光と情報				観光情報の発信方法とメディアについて考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
6	観光と環境				観光活動と環境保護の関係について考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
7	観光と地域社会				観光が地域に何をもちこたすのかを考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
8	観光開発				観光開発が持続するための工夫について考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
9	観光行動				具体的に観光行動を起こすプロセスを自己に即してまとめておいてください。準備学修：概ね30分。					
10	観光と文化				文化が観光商品となるとはどういうことかについて考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
11	観光と教育・福祉				観光の教育的・福祉的役割について考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
12	観光と交通				観光における移動について考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
13	観光と宿泊				旅行時の宿泊について、施設の種類やサービスなどを経験に即してまとめておいてください。準備学修：概ね30分。					
14	観光と旅行業				旅行会社の役割について考えておいてください。準備学修：概ね30分。					
15	観光施設				観光客を受け入れる施設にはどのようなものがあるか、調べておいてください。準備学修：概ね30分。					
教科書	特になし									
参考文献	前田勇『新現代観光総論』学文社。岡本伸之『観光学入門』有斐閣。大橋昭一その他『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版。井口真『観光学への扉』学芸出版社。その他は授業中に適宜紹介します。									
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。LMSなどで課題の提出を行う予定です。課題のフィードバックは原則として次回の授業時に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-04			
	●				●				
科目名	観光ビジネス論				単位認定者	成澤 広幸		試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題	30 %
	現代英語学科	選択	2年			授業時間数	30 時間	受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	観光事業は、観光政策のように国や地方公共団体などが公共目的で実施するマクロ的なものと、個々の企業や組織が営利または非営利の目的をもって行うミクロ的なものとに分けられる。本科目では、企業や組織の営む観光ビジネスの全体像について概観する。具体的には、観光ビジネスの基本である移動と宿泊、観光地での諸活動、それらの仲介サービスにおいて、それらの企業や組織がいかなるビジネスモデルに則って事業活動を展開しているかについて、豊富な事例研究を交えながら理解を深める。								
到達目標	様々な組織や団体の観光事業について概略を理解し、社会との関わりの中でどのような役割を果たしているのかを説明できるようになる。								
学修者への期待等	観光ビジネスは個別的な観光活動が対象ですが、難しく考えないで、身近な観光キャンペーンや地域おこしなどで観光が果たしている役割を考えれば、この授業はわかりやすくなります。								
回	授業計画				準備学修				
1	観光ビジネスのマネジメント特性：TDRのマネジメント				TDRのマネジメントのどこが優れているのかを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
2	観光ビジネスのイノベーション：楽天トラベル				旅行業における販売方法の進化について理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
3	観光ビジネスのグローバル経営：H. I. S.				H. I. S. の海外戦略について理解しておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
4	観光のマーケティング：下関観光コンベンション協会				地域の観光マーケティングを事例に則して考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
5	観光とWebビジネス：エキスペディア				エキスペディアのマーケティングの特徴を理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
6	旅行業：JTB				JTBの業務内容の変遷について調べておいてください。予習：概ね30分。復習：概ね20分。				
7	宿泊業：星野リゾート				星野リゾートの方向性を調べておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
8	航空輸送業：ANA				レベニュー・マネジメントの例をANA以外でも調べておいておいてください。 予習：概ね30分。復習：概ね20分。				
9	鉄道ビジネス：JR九州				JR九州の活躍の理由を考えておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
10	テーマパーク：ハウステンボス				なぜリピーターになるのかを考えておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
11	グローバル時代の地域観光インフラ：統合型リゾート(IR)				IRの必要性について考えておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
12	地域のインバウンド事業：九州オルレ				なぜ九州オルレが成功したか考えておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
13	観光地の集客イベント事業：長崎さるく				故郷で観光を軸とした地域おこしをすれば何が必要かを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
14	地域ブランドの構築：宇都宮市				事例を参考に故郷の地域ブランドは何かを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
15	新しい旅行スタイル：進化する旅行者ニーズと観光創造				日本内外の観光行動についてのニュース、話題などに注意しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
教科書	特になし								
参考文献	高橋一夫その他『1からの観光事業論』碩学社。高橋一夫その他『1からの観光』碩学社。北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房。長谷政弘『観光ビジネス論』同友館。								
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。LMSなどで課題の提出を行う予定です。課題のフィードバックについては原則、次回の授業内にて行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-05	
	●			●			
科目名	国内観光地理				単位認定者	佐藤 美輪	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位
					授業形態	講義	授業時間数
				授業回数			15 回
授業の概要	<p>本科目は、観光地の生成・機能・構造について、内外の著名な観光地を事例として取り上げて講義する。具体的には、まず内外の観光地発達史を概説した後、観光地の分布、立地、観光資源、観光産業との関わり、観光客の地域特性、観光圏・観光ルートの変遷、観光地の環境保全や世界遺産などに留意しつつ、温泉、海浜、避暑・避暑、都市、田園、山岳などにおいて、いかに観光活動が自然地理的資源、人文地理的資源を利用して誕生・発展し、観光地が開発されてきたかを学ぶ。</p>						
到達目標	日本には多くの観光地が存在する。現在に至るまでの観光地の歴史を理解できるようになる。また、テキストの内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。						
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習や問題演習を積極的に行ってほしい。						
回	授業計画				準備学修		
1	ガイダンス/北海道地方の地理				教科書等で北海道を読んでおく(1時間程度)。		
2	東北地方の地理(青森・秋田・岩手)				教科書等で青森・秋田・岩手を読んでおく(1時間程度)。		
3	東北地方の地理(山形・宮城・福島)				教科書等で山形・宮城・福島を読んでおく(1時間程度)。		
4	関東地方の地理(新潟・群馬・栃木・茨城)				教科書等で新潟・群馬・栃木・茨城を読んでおく(1時間程度)。		
5	関東地方の地理(埼玉・千葉・東京・神奈川)				教科書等で埼玉・千葉・東京・神奈川を読んでおく(1時間程度)。		
6	関東地方・中部地方の地理(山梨・長野・静岡)				教科書等で山梨・長野・静岡を読んでおく(1時間程度)。		
7	中部地方の地理(愛知・岐阜・富山)				教科書等で愛知・岐阜・富山を読んでおく(1時間程度)。		
8	中部地方・関西地方の地理(石川・福井・滋賀)				教科書等で石川・福井・滋賀を読んでおく(1時間程度)。		
9	関西地方の地理(京都・奈良)				教科書等で京都・奈良を読んでおく(1時間程度)。		
10	関西地方の地理(三重・和歌山・大阪・兵庫)				教科書等で三重・和歌山・大阪・兵庫を読んでおく(1時間程度)。		
11	中国地方の地理(鳥取・島根・岡山・広島・山口)				教科書等で鳥取・島根・岡山・広島・山口を読んでおく(1時間程度)。		
12	四国地方の地理(香川・徳島・愛媛・高知)				教科書等で香川・徳島・愛媛・高知について読んでおく(1時間程度)。		
13	九州地方の地理(福岡・佐賀・長崎・熊本)				教科書等で福岡・佐賀・長崎・熊本を読んでおく(1時間程度)。		
14	九州地方・沖縄の地理(大分・宮崎・鹿児島・沖縄)				教科書等で大分・宮崎・鹿児島・沖縄を読んでおく(1時間程度)。		
15	総まとめ				前回までの授業を復習し臨んでください(1時間程度)。		
教科書	『国内観光地理サブノート』 株式会社JTB総合研究所 『国内観光資源 2024』 株式会社JTB総合研究所						
参考文献	必要に応じて紹介する。						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 ・本科目は遠隔(オンデマンド配信)にて実施する。 						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-08				
	●	●								
科目名	実践文章作成演習				単位認定者	松崎 陽子		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	文章を書くことが苦手だという学生が増えており、通常のレポートなどばかりでなく履歴書・エントリーシートを作成する際に苦勞しているケースも多い。しかし、文章力は一朝一夕に身につくものではないため、一定の期間を通して学ぶ必要がある。文章作成の基本から学び、毎回、課題を出して添削し、文章力を培っていく。また、本を読まないことが文章が書けない一因にもなっているため、読書と感想文などの課題を通して、文章力の向上を目指す。									
到達目標	自分の考えを明確に示す説得力のある文章作成能力を身につけ、様々な目的別に文章を書き分けられるようになる。									
学修者への期待等	毎回、文章作成の実技があり、添削をして返却する。その添削された箇所を修正して再提出する形になるため、意欲的に取り組み、自分の文章力を向上させる努力を惜しまない学生の積極的な参加を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス、テキストや課題についての説明				【事後】自己紹介の文章を作成し次回に提出する(概ね1時間)。					
2	文章の構成について考える(起承転結・序破急)				【事前】自己PRの文章を作成して授業に持参する(概ね1時間)。					
3	文章の鑄型を自分の頭に据える				【事前】配布資料を読んでくる(概ね30分)。					
4	読書習慣が文章力を育てる				【授業内課題】自分の感性に合った本を1冊読み、感想文を書き、次回に提出する(概ね3時間)。					
5	自己紹介と自己PRの差(就活の文章の特徴)				【事前】添削された自己紹介文を修正して授業に持参する(概ね1時間)。					
6	課題レポート、論作文を書く				【事後】自分で選んだテーマで作文を書き、次回に提出する(概ね30分)。					
7	手紙文を書く(1)手紙文のマナー				【事後】高校の恩師に近況報告の手紙を書き、次回に提出する(概ね1時間)。					
8	履歴書を書くときの心得(1)自分の強みを知る				【事前】「学生時代に力を入れたこと」を書き、授業に持参する(概ね1時間分)。					
9	履歴書を書くときの心得(2)会ってみたいと思わせる				【授業内課題】履歴書を書いて次回に提出する(概ね1時間)。					
10	与えられたテーマで400字の作文する				【事前】新聞の時事問題で興味のあるテーマを探しておく(概ね1時間)。					
11	与えられたテーマで800字の作文する				【事後】配布資料に従って800字の作文を書き次回に提出する(概ね1時間)。					
12	読み手を説得する文章(論理性、根拠の必要性)				【事前】添削された履歴書を修正して授業に持参する(概ね1時間)。					
13	SNSなどに文章をアップするときの注意点				【授業内課題】新聞に投書する文章を書いて次回に提出する(概ね1時間)。					
14	手紙文を書く(2)書きにくい手紙の書き方				【事後】授業で示された、お詫び・お悔み・督促から1つ選んで書いて次回に提出する(概ね1時間)。					
15	ふりかえり、期末レポートについての解説				【事前】15回を振り返っての感想を書いて授業に持参する(概ね1時間分)。					
教科書	米田明美, 山上登志美, 蔵中さやか著『大学生のための日本語表現実践ノート改訂版』風間書房									
参考文献	授業でそのつど提示する。									
備考	講義は対面で行う。事前課題については授業に持参し、事後課題については次回の授業で提出することとする。授業内課題として3回文章を提出することが含まれる。授業内で取り組んだ課題は、講義の中で解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

出版社にて編集記者として10年間勤務しフリーランス文筆業として24冊の単行本を上梓している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-09				
	●	●								
科目名	フィールドワーク概論				単位認定者	石野 隆美		試験(レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、フィールドワークの学術史や学問的意義を含めその手法を学び、体系的にフィールドワークを理解することを目的としている。特に、観光地にてフィールドワークを行う際に必要とされる基本概念と分析枠組みに関して、人類学的な理解の土台に立ちつつ、多角的に観光地や観光現象を分析・考察するために必要な知識を身につける。また、本学科では在学中に様々な調査地でフィールドワークを実施する機会があるため、それらの機会を有意義なものにし、自主的にフィールドワークに取り組む姿勢を養う。</p>									
到達目標	<p>文化人類学的なフィールドワークに関する学問的知識や心得を理解することができる。ならびに聞き取りや観察、データ整理、分析、報告書やレポート執筆などの一連の質的研究手法に必要な知識を得ることができる。そして在学中に行われる様々なフィールドワークを有用なものにするために、その知識を活用することができる。</p>									
学修者への期待等	<p>各回の授業内容を理解し、1回ごとの授業を有意義なものするように各自努めること。参考文献等に積極的に目を通し、予習復習を進めること。毎回、質問を考えながら講義を聞くこと。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス/本講義の扱うフィールドワーク									
2	フィールドワークとは何か―「他者」を描く・理解する				前回の授業内容を復習しておくこと (30分程度)。					
3	フィールドワークの成立背景と展開				具体的なフィールドを想定しつつ、前回までの復習を行うこと (30分程度)。					
4	フィールドワークの思考法―観光との違い				前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと (30分程度)。					
5	フィールドワークの準備①理論編				前回の授業内容を復習し、用語など重要事項について説明できるようにしておくこと (30分程度)。					
6	フィールドワークの準備②計画を立てる				前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと (30分程度)。					
7	調査されることの迷惑―倫理と個人情報について				前回の授業内容を復習しつつ、個人情報保護に関してあらかじめ調べておくこと (30分程度)。					
8	レポート・報告書の作成				授業内課題①次回授業までに、与えられたテーマで形式に沿ったレポートを作成する (2時間程度)。					
9	聞き取りの方法論				授業内容を復習し、実際のフィールドで要求される聞き取りのスキルについて要約する (30分程度)。					
10	現場を描き出す―具体的対象と抽象的思考				授業内容を復習し、具体的なフィールドワークのイメージを描く (30分程度)。					
11	フィールドワーク事例紹介―先人の葛藤と工夫				授業内容を復習し、自身のフィールドワーク計画で想定されるトラブルとその対策を検討する (30分程度)					
12	観光研究とフィールドワーク①長崎県における事例研究				自分自身の興味がある長崎県内の観光資源をあらかじめ調べておくこと (30分程度)。					
13	観光研究とフィールドワーク②マニラにおける事例研究				授業内課題②長崎・マニラのフィールドワーク事例から考えたことをレポートにまとめる (1時間程度)。					
14	感染症とフィールドワークの変化				新型コロナウイルス感染症と観光の関わりについてあらかじめ調べておくこと (30分程度)。					
15	総括・ふりかえり―観光現象のフィールドワーク				前回までの授業内容を復習し、重要な観点をあらかじめまとめておくこと (30分程度)。					
教科書	特になし									
参考文献	『フィールドワークへの挑戦 実践人類学入門』菅原和孝編, 世界思想社 『観光人類学のフィールドワーク ツーリズム現場の質的調査入門』市野澤潤平ほか2名編, ミネルヴァ書房									
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。配信期間や課題内容の指示等も含め各自LMSを随時確認し、授業に臨むこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-2-CCO-05				
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	60%	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20%
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	英語Ⅰで学修した基本表現の「聞く」・「話す」活動に加え、「読む」・「書く」活動も取り入れ、総合的な英語力の向上を目指す。									
到達目標	基本的な英語を用いて、簡単な意思表示や問題解決が出来るようになる。 観光に関する英語表現についてもさらに学修し、観光の現場における基礎的なコミュニケーションに自信が持てるようになる。									
学修者への期待等	授業にはテキスト、辞書を持参すること。授業前には該当箇所の音声をダウンロードし、予習を行うこと。 各回に行うペアワーク、会話練習やロールプレイに積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について/ 予習・復習の方法				シラバス記載の内容を確認しておく(概ね20分)。					
2	Unit 8 At the restaurant-1 語彙と内容理解				Unit 8 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
3	Unit 8 At the restaurant-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
4	Unit 9 Shopping-1 語彙と内容理解				Unit 9 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
5	Unit 9 Shopping-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
6	Unit 10 Lost and Found-1 語彙と内容理解				Unit 10 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
7	Unit 10 Lost and Found-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
8	Unit 11 Using public transportation-1 語彙と内容理解				Unit 11 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
9	Unit 11 Using public transportation-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
10	Unit 12 Renting a bike-1 語彙と内容理解				Unit 12 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
11	Unit 12 Renting a bike-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
12	Unit 13 Finding your way around-1 語彙と内容理解				Unit 13 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
13	Unit 13 Finding your way around-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
14	Unit 14 Medical Care-1 語彙と内容理解				Unit 14のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
15	Unit 14 Medical Care-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz				前回に学修した語彙,表現を復習する(概ね50分)。					
教科書	Takeuchi, M., Nakai, N., & Sugawara, C. (2015). <i>Enjoy Your Trip! English you need abroad</i> . Nan'un-do.									
参考文献	資料は随時LMSより配信する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをLMSにReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-2-CCO-03				
		●	●							
科目名	ビジネスマナー				単位認定者	加藤 雅子		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	社会人として必要とされる基礎的なマナーを身につける。具体的には、敬語や接遇用語の使い方、電話応対や接遇の仕方、ビジネス文書の作成など、職場において必要とされるビジネス能力の基本を身につける。また、学んだビジネスマナーを職場において実践できるよう、講義に加えロールプレイングなども取り入れる。									
到達目標	マナーの意味・重要性を理解し、ビジネスパーソンとして必要とされる基本マナーを身につけ、実践できるようにする。日本の伝統マナー、しきたりについて理解し、活用できるようになる。									
学修者への期待等	講義で学んだことは、日常生活でも意識して取り入れ、マナー力アップに繋げて欲しい。本講義の性質上、遅刻、学生証不携帯、忘れ物、不適切な受講態度等には厳しく対処するので、己を律して受講すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	マナーとは何か(マナー、エチケット、プロトコルのついてグループディスカッション)				テキスト序章「マナーとは何か」を読んでおく。テキスト1ページのワークをしておく。(概ね45分程度)					
2	マナーの歴史と意味				テキスト第1章「マナーの歴史と意味」を読んでおく。(概ね45分程度)					
3	国際人としてのプロトコル①(プロトコルの原則、具体的な席次例、社交の場でのコミュニケーション)				テキスト第2章1節「プロトコルの原則」～3節「社交の場でのコミュニケーション」を読んでおく。(概ね30分程度)					
4	国際人としてのプロトコル②(挨拶と紹介、外国人への贈り物、国旗の扱い) ・自己紹介(グループワーク)				テキスト第2章4～6節「挨拶と紹介」～「国旗の扱い」を読んでおく。1分半程度の自己紹介の練習をしておく。(概ね45分程度)					
5	国際人としてのプロトコル③(礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション) ・異文化体験について(グループワーク)				テキスト第2章7「礼拝の場でのマナー」、8節「異文化コミュニケーション」を読んでおく。自分の異文化コミュニケーションの体験を書き出しておく。(概ね45分程度)					
6	社会人に必要なマナー①(第一印象の重要性)立居振舞い実践トレーニング、印象交換グループワーク				テキスト第3章1節1)「第一印象の重要性」、2)「印象を形成する主要要素」を読み、挨拶・表情の練習をしておく。(概ね50分程度)※身嗜みを整えて授業に参加					
7	社会人に必要なマナー②(丁寧な言葉遣い、聴き方、話し方の基本)※聴き方:ペアワーク、話し方:グループワーク				テキスト第3章1節2)⑥「丁寧な言葉遣い」～4)「話し方の基本」を読んで理解しておく。(概ね50分程度)					
8	社会人に必要なマナー③(礼装の基準、贈答、手紙)				テキスト第3章2～4節「礼装の基準」～「手紙のマナー」を読んでおく。(概ね45分程度)					
9	ビジネスシーンのマナー①(ビジネスマナーの必要性、社会人としての心構え)グループワーク				テキスト第4章1節「ビジネスマナーの必要性」、2節「社会人としての心構え」を読んでおく。(概ね45分程度)					
10	ビジネスシーンのマナー②(名刺の扱い方、電話応対実践練習)※ペアワーク、グループワーク				テキスト第4章3節「名刺交換」、4節「電話応対」を読み、実践に移せるように練習しておく。(概ね45分程度)					
11	ビジネスシーンのマナー③(来客応対)※来客応対1連の流れ実践練習:グループワーク				テキスト第4章6節「来客応対」を読んでおく(概ね45分程度)。来客応対は、実践に移せるように練習しておく。					
12	ビジネスシーンのマナー④(ビジネス文書)※ビジネス文書作成ワーク				テキスト第4章7節「ビジネス文書」を読んで書き方のポイントを押さえておく。(概ね45分程度)					
13	食事のマナー①和食のマナー、和室のマナー※箸遣い、食器の取り扱い実践				テキスト第5章「食事のマナー(和食)」を読んでおく。(概ね45分程度)※実践練習用の箸を持参					
14	食事のマナー②洋食のマナー「冠」のしきたりとマナー				テキスト第5章「食事のマナー(洋食)」、7章の「冠」のしきたりを読んで予習しておく。(概ね60分程度)					
15	「祭」のしきたり ※グループワーク及び発表全体の復習及び重点項目の確認				テキスト第10章の「祭」のしきたりを読んで、予習しておく。これまでの講義全体を振り返り、内容を明確にしておく。(概ね60分程度)					
教科書	『マナー&プロトコルの基礎知識』NPO法人日本マナー・プロトコル協会									
参考文献	「最新版「さすが!」といわせる大人のマナー講座」日本マナー・プロトコル協会著 PHP研究所。その他、授業内に適宜案内。									
備考	・受講者の理解度により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 ・本科目の内容は「ビジネス実務マナー検定」や「マナー・プロトコル検定」に繋がる。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

実務経験概要:元、大手国内航空会社国際線CA及びCA教官。現、民間企業・自治体人材育成担当者。
実務経験と授業科目の関連性:実務経験からのより具体的かつポイントを押さえた内容で講義を実施し、知識とマナー力を身に付けさせる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-2-CCO-02			
	●	●							
科目名	情報機器演習				単位認定者	氏家 留美子		試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間	受講態度	30 %
						授業回数	15 回		
授業の概要	OS(基本ソフト)の基本的な操作ができ、Word(文書作成能力)、Excel(情報加工技術)、Power Point(情報の視覚的表現)の一般的な操作を修得したものがWord及びExcelの応用的な使用方法を修得し、日常業務で必要とされる機能を学ぶ。 さらに、それぞれのソフトウェアの持っている特有の機能を効率的に使用し、Word・Excel・Power Pointを連携して操作をする手法を学ぶ。具体的には、Excelを使用してデータ分析を行い、グラフや表を作成し、WordやPower Pointをリンクして使用できるスキルを修得することで、情報機器を使用した効率的な業務遂行力を育成する。								
到達目標	Word・Excelの外部試験であるMOS(マイクロソフト オフィス スペシャリスト)一般レベルの合格を目指すし、学修した技術をもとに、社会人としてパソコンを業務で使用できるスキルを身に付ける。								
学修者への期待等	授業では試験問題の解答方法・出題傾向を確認しながら、問題を通して各機能が業務でどのように使われるかも含めた内容となる。操作の丸暗記ではなく各機能の活用方法を理解し、使用する環境が変わっても応用できる力を身に付けてほしい。授業で取り上げた問題を理解後は、より多くの問題に積極的に挑戦しパソコンスキルを向上してほしい。 各自が作成したデータを保存するためのUSBメモリを準備すること。テキストも忘れずに必ず持参すること。なお、1～7回目まではWordのテキストを持参すること。Excelのテキストは8回目以降で使用するため、1回目の授業から持参する必要はない。								
回	授業計画				準備学修				
1	MOS試験の概要と出題範囲の確認 Word: 文字書式・段落書式・セクション区切り				<p>【復習について】</p> <p>授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにすること。 また、授業時間内に完成しなかった部分は、次回の授業までに操作しておくこと。</p> <p>テキストには多くの問題が収録されている。 操作に慣れてきたら、授業で取り上げない問題にも挑戦し、常に試験合格レベルを目指すこと。</p> <p>自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身についていないと感じる場合は、繰り返し操作して復習すること。 復習時間は各自のスキルにより1～2時間程度。</p>				
2	Word: 表の挿入・編集・箇条書きや段落番号の設定								
3	Word: 図形や画像の編集・スマートアート								
4	Word: 脚注の作成・目次作成・コメント機能・変更履歴								
5	Word: 模擬問題を使った演習1 書式設定・図形挿入・画像編集・箇条書き設定・変更履歴・表編集など								
6	Word: 模擬問題を使った演習2 検索・表編集・図形の編集・スマートアート・目次挿入・脚注の作成など								
7	Word: 模擬問題を使った演習3 画像の背景削除・コメント機能・書式のコピー・文書のプロパティなど								
8	Excel: シートやブックの管理・ページ設定								
9	Excel: セル・行・列の操作・書式設定								
10	Excel: テーブル機能								
11	Excel: 数式や関数								
12	Excel: グラフ								
13	Excel: 模擬問題を使った演習1 条件付き書式・ヘッダー・フッター・テーブル機能・数式や関数など								
14	Excel: 模擬問題を使った演習2 スパークライン・グラフ編集・並べ替え・テーブル機能・名前の定義など								
15	Excel: 模擬問題を使った演習3 ハイパーリンク挿入・グラフ編集・関数作成・データのインポートなど								
教科書	『よくわかるマスター MOS Word365 対策テキスト&問題集』FOM出版 『よくわかるマスター MOS Excel365 対策テキスト&問題集』FOM出版								
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。								
備考	授業は情報処理室で実施する。授業中にパソコンの操作手順を示す場合は、講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。 授業内容は、クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。 「試験」は、Word・Excelの使用方法に関する筆記試験を行う。 「授業内課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。 なお、当科目は2クラスに分けて実施する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-02				
		●	●							
科目名	エアラインビジネス実務				単位認定者	加藤 雅子		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態		講義 <th rowspan="2">授業時間数</th> <td>30 時間</td> <td>授業内課題</td> <td>10 %</td>		授業時間数	30 時間
				授業回数			15 回			
授業の概要	<p>交通ビジネスは、科学技術の進歩とともに発展を遂げ、観光ビジネスと非常に密接な関係性を有する事業である。</p> <p>とりわけ航空産業は、幅広い分野が関連し、支えあっている。本科目では、航空ビジネスの基礎を学び、空港における多様なビジネスについて理解する。また、現場で求められるスキルが何であるかを学習し、そのスキルアップのための能力開発を行う。</p>									
到達目標	<p>航空業界の歴史と現況を把握した上で、サービス、幅広い職種及び業務内容について理解を深める。また、航空業界で求められる接遇マナーや国際的なマナー・プロトコルの基礎を座学と実践を通して修得し、職場生活や社会生活で活かせるようにする。</p>									
学修者への期待等	<p>航空業界、及び関連業界（ホテル、ブライダル、旅行、交通ビジネス、観光ビジネス等）に深い興味、関心を持ち、ニュースや新聞・雑誌等から積極的に情報を収集し、自分の考えや意見を具体的に述べられるように準備してください。今、出来ることからしっかりと準備し、目標を達成しましょう。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンスと航空産業への導入				予習（概ね30分）：航空ビジネスをイメージする。 航空ビジネスを学ぶ目的・意味を確認する。					
2	航空業界で求められる人材とスキル 航空会社の接客・接遇マナー（グループワーク）				予習（概ね30分）：航空業界で求められる人材はどのような人材かを考えておく。					
3	第一印象と印象に残る自己紹介（実践練習及びグループワーク）				予習（概ね30分）：印象に残る自己紹介の準備をしておく。印象力も確認しておくこと。					
4	敬語と言葉遣い、接客用語、待遇表現				予習（概ね30分）：配布資料を読んでおく。					
5	コミュニケーションの重要性 異文化コミュニケーション（グループワーク）				予習（概ね30分）：配布資料を読み内容を理解しておく。					
6	航空業界・サービス業界のニュース（新聞ワーク） グループワーク・発表				予習（概ね45分）：航空・サービス業界に関する情報を新聞・ニュース等から収集し、理解しておく。					
7	航空業界の歴史と各航空会社の取り組みと戦略：航空同盟・LCC・マイレージサービス・コードシェア・インバウンド対策				予習（概ね30分）：国内・LCC・外資系の各エアラインの特徴について調べておく。					
8	航空ビジネスの多様性と働き方① ～業界・職種・企業研究及び航空業界安全知識～				予習（概ね45分）：興味のある航空会社について調べておく。航空業界の安全について考えてくる。					
9	航空ビジネスの多様性と働き方② ～航空機に携わる仕事、旅客・グラウンドハンドリング～				予習（概ね30分）：配布資料を読み内容を理解しておく。					
10	航空業界用語 CA/GSのアナウンス練習（声・表情トレーニング）				予習（概ね30分）：航空業界用語の意味を調べて確認しておく。アナウンスの練習をしておく。					
11	空港コード・エアラインコード・時差計算				予習（概ね30分）：配布資料を読んでおくこと。					
12	機内サービス：機内食・プライオリティゲストサービス・各宗教に対応したサービス（グループワーク）				予習（概ね30分）：配布資料を読んで理解しておく。航空会社のタイムテーブルに目を通しておく。					
13	航空業界のサービスとホスピタリティ CSとES（顧客満足と従業員満足）・グループワーク				予習（概ね30分）：サービスとホスピタリティ、CSとESについて調べておく。					
14	マナー＆プロトコルの基礎知識第5章：食事のマナー（洋食編）第6章：お酒のマナー				予習（概ね30分）：配布資料及び「マナー＆プロトコルの基礎知識」第5章・第6章を読んでおく。					
15	全体の復習及び重点項目の確認				これまでの講義全体を振り返り、内容を明確にしておく。					
教科書	授業ごとに資料配布									
参考文献	<p>①各航空会社 時刻表</p> <p>②吉田力 著『航空業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本』第2版 秀和システム</p> <p>③『マナー＆プロトコルの基礎知識』NPO法人日本マナー・プロトコル協会。</p> <p>④『「さすが！」といわせる大人のマナー講座』NPO法人日本マナー・プロトコル協会</p> <p>その他、授業時に適宜紹介。</p>									
備考	本科目の内容は、航空業界受験、「マナー・プロトコル検定試験」の受験に繋がります。立ち居振舞いや言葉遣いに普段から意識して行動するよう心掛けましょう。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

実務経験の概要：元大手国内航空会社国際線CA及びCA教官。機内サービスCS推進部担当経験者。民間企業人材育成担当。
 実務経験と授業科目の関連性：実務経験からのより具体的且つポイントを押さえた内容で演習を行い、航空業界に関する知識とサービスマナー力を身に付けさせる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
TB-3-ECO-03

科目名	エアラインサービス				単位認定者	松崎陽子 小松義隆		評価の方法	試験(レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	様々な空港業務のうち、主にグランドスタッフに必要とされる空港サービスの基本知識、接客スキル、ビジネスマナー、コミュニケーション力などを学び、空港におけるサービスマインドを身につける。									
到達目標	◇社会人にふさわしい行動を理解し、自ら考え行動することができる(言葉遣い/立ち居振舞いなど) ◇社会人としての基本的な規律を順守できる ◇「おもてなし」の大切さを考え、日常生活でも接客を發揮することができる ◇自己理解を深め、自信を持って自己PRをすることができる ◇グランドスタッフの仕事を理解し、職種研究を深めることができる									
学修者への期待等	◇積極的な授業への参加 ◇学修内容を各自で咀嚼して、自己理解を深める ◇不明点について曖昧にせず、質問を通じて明確にする									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	マインドセット					【事前】HPでANAグループ企業情報を確認し、ANAについて各自イメージしておくこと(概ね1時間程度)			松崎陽子 宇野萌子	
2	印象力アップ I								松崎陽子 宇野萌子	
3	印象力アップ II								松崎陽子 宇野萌子	
4	ANAを知る～過去・現在・未来～								松崎陽子 宇野萌子	
5	ANA's Way					【事前】ANA's Wayについて調べておくこと(概ね1時間程度)			松崎陽子 宇野萌子	
6	言語化トレーニング								松崎陽子 宇野萌子	
7	キャリア I～自己分析～					【事前】ライフラインチャートを事前に記入しておくこと(概ね1時間程度)			松崎陽子 宇野萌子	
8	キャリア II～企業とのマッチング～					【事前】志望する企業情報を調べておくこと(概ね30分程度)			松崎陽子 宇野萌子	
9	チームビルディング I								松崎陽子 宇野萌子	
10	チームビルディング II								松崎陽子 宇野萌子	
11	表現力アップ								松崎陽子 宇野萌子	
12	ANAグランドスタッフの仕事を知る					【事前】グランドスタッフの具体的な業務内容を調べておく(概ね1時間程度)			松崎陽子 宇野萌子	
13	グランドスタッフの対応力～基礎編～								松崎陽子 宇野萌子	
14	グランドスタッフに求められるコミュニケーション力								松崎陽子 宇野萌子	
15	グランドスタッフの対応力～実践編～								松崎陽子 宇野萌子	
教科書	ANAエアラインスクールテキスト一式									
参考文献	『ANAの口ぐせ』『ANAの気づかい』『ANAの教え方』以上3冊 ANAビジネスソリューション・株式会社 KADOKAWA									
備考	1日目の講義の前にオリエンテーションがあります。希望者のみ、福島空港において1泊2日の実務研修を実施します(宿泊研修:担当 小松義隆)。授業内で取り組んだ課題などのフィードバックに関しては、講義の中で解説を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業では次の経歴をもつ実務経験者を招聘し授業を実施する。2006年ANA(全日本空輸株式会社)に入社。客室乗務員として国内線、国際線に乗務。現在は、乗務を行なうと共に、ANAビジネスソリューション株式会社に在籍し、ANAエアラインスクールの講師と企画を担当。ANAではチームコーディネーターとして、班のメンバーの育成や評価に携わる他、客室センターの安全品質評価者として、安全文化の醸成、フライトに於ける安全品質点検並びに品質の向上にも寄与した。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●			●

科目ナンバリング
TB-3-ECO-04

科目名	鉄道ビジネス実務				単位認定者	紺野 純一		評価の方法	試験（レポート）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>交通ビジネスは、科学技術の進歩とともに発展を遂げ、観光ビジネスと非常に密接な関係性を有する事業である。</p> <p>本科目では、主に鉄道ビジネスに焦点を当て、鉄道の発達の歴史、ビジネスモデル及び観光との関係性について学び、現状の問題点や今後の課題について考察する。また、バス等の他の交通ビジネスの概要についても学ぶ。</p>									
到達目標	交通機関の発展と旅行における関係、観光全般に及ぶ概要を修得し、将来の職業選択に役立てることを到達目標とする。									
学修者への期待等	<p>昨今、観光はインバウンドの拡大やデジタルの発展等社会経済環境の大きな変化とともに地域振興にも多大な貢献をする、国の一大成長産業になっている。鉄道や航空機など交通機関の発展とともに、少子高齢化社会の到来とともに交流人口の拡大が地域活性化に重要であることを認識し、観光産業や交通機関に将来従事する学生が増えることを期待している。</p>									
回	授業計画					準備学修				
1	観光交通の全体概要Ⅰ：交通機関の発展や観光の概念を学ぶ									
2	観光交通の全体概要Ⅱ：近年の鉄道や航空機と観光を学ぶ									
3	観光の定義と観光発達の歴史					観光発達の歴史について調べてきてください（1時間程度）。				
4	観光関係制度など					観光関係の制度について調べてきてください（1時間程度）。				
5	観光の現状（インバウンドの現状）									
6	観光に関する仕組み（移動のテクノロジー）									
7	観光と鉄道事業についてⅠ（列車ダイヤ・制度・運賃など）									
8	観光と鉄道事業についてⅡ（イベント車両・特別企画乗車券・旅行商品など）									
9	観光と航空機・バスなどの現状									
10	観光と宿泊施設について									
11	旅行エージェントと観光の現状									
12	観光関連施設とビジネスシステム									
13	観光に関するブランド戦略・マーケティング（デジタル戦略を含む）									
14	地方創生と観光・交通機関の役割									
15	観光と交通機関全般を考える（コロナ禍後の観光・交通機関）									
教科書	山下 晋司編著『観光学キーワード』有斐閣双書									
参考文献	特になし									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

国鉄・JR職員（仙台駅長等）の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。
観光業界における実務経験から、鉄道交通ビジネスについて分かりやすく解説し、実践的な授業を展開することができる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-05			
		●			●				
科目名	宿泊ビジネス実務				単位認定者	紺野 純一		試験(レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	「ホテルの仕組」, 「ホテル経営」, 「ホテルと社会関係」等について実務的なケースも含めて学習し, 「ホテルビジネス実務」の人材育成の基礎を身につける。ビジネス需要だけでなく, 観光客の需要拡大がホテル経営に密接な関係を持っていることから, 観光業についても学ぶ。								
到達目標	ホテルの歴史は, 社会経済の変化に伴い, ハード・ソフト面でも発展進化してきたので, 社会背景や一般常識を修得し, 将来の職業選択の一助にする。								
学修者への期待等	「サービス業」のやりがいと厳しさを授業の中で学ぶとともに社会的な使命についても習得する。併せて, 外国からのお客様が増えている状況下で本講義を通じて視野を拡大して欲しい。								
回	授業計画				準備学修				
1	イントロダクション: ホテル業について インバウンドとアウトバウンド				ホテル業界が利用者に対し提供しているサービスを調べてくる (20分程度)。				
2	ホテルの誕生と発展, 欧米・日本のホテル								
3	ホテル産業の現状と展望				ホテル業界の概況を調べておく (20分程度)。				
4	ホテル関係商法と語源 (経営形態による分類)								
5	ホテル組織								
6	ホテル経営 ホテルの仕事 (宿泊部門)								
7	ホテル経営 ホテルの仕事 (1) 料飲部門宴会								
8	ホテル経営 ホテルの仕事 (2) 料飲部門ブライダル・レストラン								
9	ホテル経営 ホテルの仕事 (総括)								
10	ホテル管理運営								
11	ホテルマーケティングと販売促進 I (ホテルマーケティングと宣伝媒体)								
12	ホテルマーケティングと販売促進 II (ホテルマーケティングと販路拡大)								
13	新しい時代におけるホテル経営 (デジタル戦略含む)								
14	ホテルビジネス実務と東北の観光需要開発 (インバウンド需要の拡大)								
15	観光・ホテル業全般を考える (コロナ禍後の宿泊産業)								
教科書	特になし								
参考文献	鈴木 博 / 大庭 祺一郎著『基本ホテル経営教本』柴田書店								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要, 実務経験と授業科目との関連性)

元国鉄・JR職員, 仙台ターミナルビル(株)専務取締役総支配人等の経歴を経て, 現東北観光推進機構理事長。ホテル・観光業界における実務経験から, ホテル経営についての歴史や業務について解説し, 各部門での具体的事例を交えた実践的な授業を展開することができる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-06	
		●	●				
科目名	ホテル・ブライダルサービス				単位認定者	成澤 広幸 小野寺 理恵	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	評価の方法	※詳細は「備考」欄を参照すること。
							単位数
				授業形態	講義		授業時間数
					授業回数	15 回	
授業の概要	2010年代に入って急増しているインバウンド需要の主要な受け手として現在急拡大を続けているホテル業界について、本講義では特に「おもてなし」の精神を実際の行動として体現するサービス業務について学ぶ。具体的にはホテルビジネスおよびブライダルビジネスにおけるサービスについて、必要とされるマインドとスキルを講義しつつ、ロールプレイなど演習的な要素も入れながら理解を深める。						
到達目標	実際にホテルの現場第一線で豊富な経験を積んだプロフェッショナルによるホテリエに必要な知識と技術を学修する。様々な部門に分かれるホテルサービスを授業を通して体験することで、より具体的にホテルサービスを理解できるようにする。						
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習を積極的に行ってほしい。今後の日本の観光産業を見据え、東北に訪れた観光客に対するホテル・ブライダルサービスを自ら主体的に学ぶ姿勢を期待する。						
回	授業計画			準備学修		担当教員	
1	ガイダンス・ホテルサービスの概要 (J R 東日本グループ メトロ、メッツ) ※ホテル開催			ホテルのサービスとはどのようなものかを調べてください (30分程度)。		成澤 広幸 齋藤 康紀	
2	①料飲宴会部門業務 ②料飲接客技法 ※ホテル開催			ホテルサービスにおける宴会、飲食部門について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 安孫子 憲一	
3	ブライダル部門業務 ※校内開催			ホテルサービスにおけるブライダル部門について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 白井 宏幸 金原 由衣	
4	ホテル・サービス：宴会場でのサービスについて ※ホテル開催			ホテルサービスにおける宴会場での仕事について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 照井 大介	
5	～プロフェッショナル講義～ ①ソムリエ ②SAKE DIPLOMA ※ホテル開催			ホテルサービスにおけるソムリエ、SAKE DIPLOMAの仕事について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 佐藤 喜明	
6	宿泊部門業務 ※ホテル開催			ホテルサービスにおける宿泊部門について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 山岸 浩太郎	
7	インバウンド概論 ※校内開催			日本のインバウンド観光について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 大友 怜 阿部 里奈子	
8	～プロフェッショナル講義～ ①バリスタ ②紅茶コーディネーター ※ホテル開催			ホテルサービスにおけるバリスタ、紅茶コーディネーターの仕事について各自あらかじめ調べておくこと (30分程度)。		成澤 広幸 荒川 季絵	
9	グループディスカッション 「お客様の期待以上に 応えるホテルのサービスとは」 ※ホテル開催			前回までの授業の内容を復習しておくこと (1時間程度)。		成澤 広幸 小畑 美咲	
10	プレゼンテーション ※ホテル開催			前回の授業の内容を復習し、プレゼンテーション資料を各自準備しておくこと (1時間程度)。		成澤 広幸 小畑 美咲	
11	概要説明、ブライダルコーディネーターとは、結婚定義			ウエディングプランナーの仕事について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵	
12	ブライダルコーディネーターの仕事			前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵	
13	プランナーの会話、フルオーダーウエディング			前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵	
14	ブライダル基礎 (ブライダルコーディネーターに求められる知識)			前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵	
15	席次表作成 (グループワーク) , ブライダル基礎知識			前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵	
教科書	『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』公益社団法人日本ブライダル文化振興協会						
参考文献	『ホテルビジネス基礎編』一般財団法人日本ホテル教育センター 『新ホテル総論』一般財団法人日本ホテル教育センター 『ブライダル総論』一般財団法人日本ホテル教育センター 『ブライダルプロデュース』一般財団法人日本ホテル教育センター						
備考	<評価の方法> 成澤 広幸：第1回～10回 - 試験 (レポート) : 40%, 受講態度 : 30%, プレゼンテーション内容 : 30% 小野寺 理恵：第11回～15回 - 試験 (レポート) : 60%, 受講態度 : 30%, 授業内課題 : 10%						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
現役のホテルエ(ホテルメトロポリタン仙台スタッフ)とブライダルコーディネーター(小野寺理恵)として実務経験を有する。各実務家の具体例のある講義やロールプレイを通じて、ホテルエに求められているマインドやスキル、サービスについての授業を行うことができる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-08				
		●	●							
科目名	ブライダルビジネス実務				単位認定者	小野寺 理恵		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	本科目ではブライダルビジネスに関する基礎的な仕組みを理解することを目的とする。ブライダルビジネスの業態や業種、歴史やブライダルサービスに関する知識を習得するとともに、ブライダル実務能力の基礎を身につける。									
到達目標	結婚式のスタイルが多様化していくにつれ結婚式を演出するニーズも高まっている現在、ブライダルのどの業種に就職しても対応できるよう基礎知識を身につけ、ブライダルコーディネーター技能検定合格を目指す。									
学修者への期待等	現在のブライダル事情を理解し、人材の役割やスキルについても知識を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	ブライダルコーディネーター基礎知識と過去問題解説				テキストP8～P32熟読(1時間程度)。					
2	(結婚とは?)ブライダルビジネス他				テキストP34～P47熟読(1時間程度)。					
3	(ブライダルの基礎)ブライダル集客システム他				テキストP48～P68熟読(1時間程度)。					
4	(ブライダルの基礎)ブライダル準備, キリスト教式他				テキストP69～P91熟読(1時間程度)。					
5	(コーディネーター業務)新規業務とブライダルセールス他				テキストP94～P110熟読(1時間程度)。					
6	(コーディネーター業務)プランニング, 新規アフターフォローと成約業務他				テキストP111～P121熟読(1時間程度)。					
7	(打合せ業務 他)成約から初回打合せまで				テキストP124,P125熟読(30分程度)。					
8	(打合せ業務 他)中間～最終打合せ(当日)まで				テキストP126,127熟読(30分程度)。					
9	(コンセプトシートに基づいたブライダルアイテムの選定他)空間デザイン, 衣裳選定, フラワーアイテム他				テキストP130～P153熟読(1時間程度)。					
10	(コンセプトシートに基づいたブライダルアイテムの選定他)美容, 会場・テーブルコーディネート他				テキストP154～P187熟読(1時間程度)。					
11	(ブライダルの基礎と手配業務)ペーパーアイテム, 美容他				テキストP188～P194熟読(1時間程度)。					
12	(ブライダルの基礎と手配業務)挙式・披露宴演出手配他				テキストP195～P204熟読(1時間程度)。					
13	(ブライダルの基礎と当日業務)進行表, テーブルセッティング, サービス業務, 花の管理他				テキストP206～P228熟読(1時間程度)。					
14	復習(1～6回目の復習)				過去問熟読。					
15	復習(7～12回目の復習)				過去問熟読。					
教科書	『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』公益社団法人日本ブライダル文化振興協会									
参考文献	特になし									
備考	・毎回, テキストや配布プリントを熟読してください。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要, 実務経験と授業科目との関連性)

ホテルや神社, ゲストハウスでのブライダル経験(美容, 司会, アテンド, プランナー等)を活かし, 具体的事例を交え説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-09				
		●	●							
科目名	秘書実務				単位 認定者	今井 恵美子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	秘書に求められる職務知識について理解する。具体的には、接遇や電話応対、交際業務、ビジネス文書作成やファイリング、スケジュール管理など、秘書の職務を遂行するために必要な技能を取り上げ、実践的に学んでいくことにより、秘書のみならず事務系の職種に対応できる能力を身につける。									
到達目標	①秘書業務を通して、組織人として求められる資質と基本的な仕事の処理の仕方を理解できる。 ②秘書としての役割を理解することにより、「きちんと」「丁寧」について、理解し体現できるようになる。 ③自己の言動が周囲に及ぼす影響について理解し、意識して表現できるようになる。									
学修者への期待等	受講に際し、節度ある受講態度を期待する。講義の妨げになる言動、遅刻には十分注意して臨んでほしい。確認テストを実施。履修希望者は、必ず1回目の講義を受講のこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方と評価、検定の概要 秘書学の導入				【事前】 シラバス内容を確認して受講する。(概ね30分) 【事後】 受講の目標を設定し、提出する。(概ね60分)					
2	必要とされる人柄と資質				【事後】 秘書の人柄が補佐役としてどのように影響すると思うか考察内容をまとめて提出。(概ね60分)					
3	求められる能力				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね60分)					
4	秘書の機能と仕事の進め方の基本				【事前】 確認テスト実施の準備をして臨む。(概ね60分)					
5	社会常識と経営知識				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね60分) 【事後】 指示された課題を実施し提出する。(概ね60分)					
6	マナー・接遇①良好な人間関係の構築・継続のための感じの良い話し方と傾聴力				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね30分)					
7	マナー・接遇②接遇の基本と心遣い 言葉遣いの確認テスト実施				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね30分)					
8	マナー・接遇③交際業務と贈答				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね30分) 【事後】 指示された課題を実施し提出する。(概ね60分)					
9	技能①会議の知識 会議開催から終了までの業務				【事前】 確認テスト実施の準備をして臨む。(概ね60分)					
10	技能②ビジネス文書の作成				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね30分)					
11	技能③文書の取り扱い・ファイリングの知識				【事前】 該当ページを学習し臨む。(概ね30分) 【事後】 指示された課題を実施し提出する。(概ね60分)					
12	技能④名刺・資料管理、スケジュール管理				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね30分)					
13	技能⑤環境整備、事務用品の扱い方				【事前】 該当ページを熟読し臨む。(概ね30分) 【事後】 指示された課題を実施し提出する。(概ね60分)					
14	検定試験研究 過去問題から理解を深める				【事前】 各自問題集を実施し合格ラインに到達するように準備をして臨む。(概ね60～90分)					
15	学修のまとめ 学びをいかす				【事前】 課された課題を実施して臨む。(概ね60分)					
教科書	「新秘書特講」 早稲田出版社									
参考文献	「秘書検定実問題集 2級」実務技能検定協会編、早稲田教育出版									
備考	1. 受講者の理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 2. 本科目は秘書検定2級受験につながる。 3. 授業内課題について、講義にて解説を行う。確認テストは、模擬解答しフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-14				
	●	●								
科目名	旅行業法				単位認定者	佐藤 美輪		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目では、旅行業に関する法制度についての基礎を理解することを目的とする。旅行業務に関わる取引の公正の維持、旅行の安全確保、旅行者の利便増進を目的として制定された旅行業法について、それらの目的を達成するために設けられた様々な制度について学修する。</p> <p>旅行業法の目的、登録・営業保証金制度、旅行業務取扱管理者制度、旅行取引に関する諸規則、旅行業協会制度など、旅行業法を系列的に学ぶ。</p>									
到達目標	旅行業に関する法制度について具体的に触れることにより、法律と実務の関連性について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	総則				事前に教科書の総則の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
2	登録制度				事前に教科書の登録制度の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
3	営業保証金制度				事前に教科書の営業保証金の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
4	旅行業務取扱管理者 旅行業務取扱料金				事前に教科書の旅行業務取扱管理者、旅行業務取扱料金の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
5	旅行業約款				事前に教科書の旅行業約款の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
6	標識				事前に教科書の標識の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
7	取引条件の説明と契約書面の交付				事前に教科書の取引条件の説明と契約書面の交付の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
8	外務員 広告表示等誇大広告の禁止				事前に教科書の外務員、広告表示等誇大広告の禁止の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
9	旅程管理				事前に教科書の旅程管理の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
10	受託契約				事前に教科書の受託契約の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
11	旅行者代理業 禁止行為・登録の取消し等				事前に教科書の旅行者代理業、禁止行為・登録の取り消し等の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
12	旅行サービス手配業				事前に教科書の旅行サービス手配業の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
13	旅行業協会				事前に教科書の旅行業協会の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。					
14	問題演習(第1回～第13回分)				第1回～第13回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください(1時間程度)。					
15	募集型企画旅行の広告				事前に旅行のパンフレットに目を通して授業に臨んでください(30分程度)。					
教科書	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト 2 旅行業法・約款 2024年対策』大原出版 資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集2 旅行業法・約款 2024年対策』大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「旅行業法」についても対応する。 1. 「地域限定旅行業務取扱管理者試験」「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算」を併せて受講するとよい。 2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-15				
	●	●								
科目名	旅行業約款				単位認定者	佐藤 美輪		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	旅行業約款を中心に、旅行業界に關係する約款について学修する。約款の目的、企画旅行契約、手配旅行契約などの旅行業約款や、JRなどの運送約款、宿泊約款などを系統立てて学び、旅行業界の仕事の流れを理解する。									
到達目標	旅行業界や運送業界等の約款について具体的に触れることにより、約款と実務の関連性について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画			準備学修						
1	総則			事前に教科書の総則を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
2	契約の成立			事前に教科書の契約の成立を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
3	契約の変更			事前に教科書の契約の変更を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
4	旅行者の解除権			事前に教科書の旅行者の解除権を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
5	旅行者の解除権			事前に教科書の旅行者の解除権を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
6	団体・グループ 旅程管理			事前に教科書の団体・グループ、旅程管理を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
7	責任 旅行相談契約			事前に教科書の責任、旅行相談契約を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
8	旅程保証			事前に教科書の旅程保証を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
9	特別補償規程			事前に教科書の特別補償規程を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
10	問題演習（第1回～第9回分）			第1回～第9回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください（1時間程度）。						
11	モデル宿泊約款			事前に教科書のモデル宿泊約款を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
12	JR旅客営業規則			事前に教科書のJR旅客営業規則を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
13	貸切バス約款			事前に教科書の貸切バス約款を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
14	フェリー標準運送約款			事前に教科書のフェリー標準約款を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。						
15	問題演習（第11回～第14回分）			第11回～第14回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください（1時間程度）。						
教科書	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト 2 旅行業法・約款 2024年対策』大原出版 資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集2 旅行業法・約款 2024年対策』大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「旅行業約款」についても対応する。 1. 「地域限定旅行業務取扱管理者試験」「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業法」「国内運賃・旅費計算」を併せて受講するとよい。 2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-16				
	●	●								
科目名	国内運賃・旅費計算				単位認定者	細川 正智		試験(筆記)	80%	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20%
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	旅行実務の中心となる運賃料金計算について学ぶ。具体的にはJRの運賃料金計算を主とし、他にも宿泊料金や貸切バス、フェリー等の運賃料金の構成等を理解し、国内旅行業務取扱管理者試験、総合旅行業務取扱管理者試験に対応する知識を修得する。									
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験、総合旅行業務取扱管理者試験を受験し合格するために必要なレベルの知識を身につけることができる									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	旅客営業規則 旅客の年齢区分 JR運賃計算① 運賃計算の基礎・有効期間・途中下車				事前に教科書の旅客営業規則を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
2	JR運賃計算② 通過連絡運輸の取扱い・連続運賃計算・運賃計算の特例				事前に教科書の通過連絡運輸の取り扱い、連続運賃計算、運賃計算の特例を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
3	JR運賃計算③ 割引運賃				事前に教科書の割引運賃を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
4	JR料金計算① 料金計算の基礎・グリーン料金・寝台料金				事前に教科書の料金計算の基礎、グリーン料金、寝台料金を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
5	JR料金計算② 乗継割引				事前に教科書の乗継割引を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
6	JR料金計算③ 新幹線内乗継				事前に教科書の新幹線内乗継を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
7	JR料金計算④ 北海道新幹線・九州新幹線・北陸新幹線・山形秋田新幹線の計算				事前に教科書の北海道・九州・北陸・山形・秋田新幹線を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
8	JR料金計算⑤ 団体割引運賃料金計算				事前に教科書の団体割引運賃料金を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
9	JR払い戻しの計算				事前に教科書の払い戻しを読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
10	貸切バス運賃・料金計算				事前に教科書の貸切バス運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
11	フェリー運賃・料金計算				事前に教科書のフェリー運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
12	宿泊料金計算				事前に教科書の宿泊料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
13	国内航空運賃・料金計算				事前に教科書の国内航空運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
14	問題演習①(過去問)				第1回～第13回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。(10時間程度)					
15	問題演習②(過去問)				第1回～第13回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。(10時間程度)					
教科書	JTBC総合研究所 旅行実務シリーズ 3 国内旅行業務 - 国内運賃・料金									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験、総合旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「国内旅行実務」について対応する。 1. 「国内旅行業務取扱管理者試験」「総合旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「国内地理」も本科目同様しっかりと学習しなければならない。 2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-20				
	●	●								
科目名	旅行業務演習				単位認定者	佐藤 美輪		試験(筆記)	70%	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価の方法	受講態度	30%
				授業形態	演習	授業時間数	30時間			
						授業回数	15回			
授業の概要	「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算」を基盤とし、旅行業務全般について広く学び理解を深める。特に法令への抵抗感を下げるため、具体的な事例や問題に多く触れ知識の定着を目指す。また、本科目は地域限定旅行業務取扱管理者試験の対策も兼ねている。									
到達目標	授業で触れる「旅行業法」「旅行業約款」「国内実務」と具体的な事例を結びつけ関連性を理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にすることでなく、授業時間外に講義内容の復習や問題演習の反復を積極的に行ってほしい。 また集中講義のため遅刻・欠席なく必ずやり通す意志をもって受講してもらいたい。									
回	授業計画				準備学修					
1	旅行業法: 総則・登録制度・営業保証金制度・標識				【事後】問題演習で間違った箇所(旅行業法)を復習する(3時間程度)。					
2	旅行業法: 旅行業務取扱管理者・旅行業務取扱料金・旅程管理									
3	旅行業法: 取引条件の説明と契約書面の交付・外務員・受託契約									
4	旅行業法: 広告表示等誇大広告の禁止・禁止行為・旅行者代理業				【事後】問題演習で間違った箇所(旅行業法・旅行業約款)を復習する(3時間程度)。					
5	旅行業法: 登録の取り消し等・旅行サービス手配業・旅行業協会									
6	旅行業約款: 総則・契約の成立・契約の変更・旅行者の解除権									
7	旅行業約款: 旅行者の解除権・団体・グループ・旅程管理				【事後】問題演習で間違った箇所(旅行業約款)を復習する(3時間程度)。					
8	旅行業約款: 責任・相談契約・旅程保証・特別補償規程									
9	旅行業約款: モデル宿泊約款・JR営業規則									
10	旅行業約款: 貸切バス約款・フェリー標準運送約款				【事後】問題演習で間違った箇所(旅行業約款・国内旅行実務)を復習する(3時間程度)。					
11	国内旅行実務:JR運賃計算									
12	国内旅行実務:JR料金									
13	国内旅行実務:宿泊料金計算				【事後】問題演習で間違った箇所(国内旅行実務)を復習する(3時間程度)。					
14	国内旅行実務:貸切バス運賃・料金計算									
15	国内旅行実務:フェリー運賃・料金計算									
教科書	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト2 旅行業法・約款 2024年対策』大原出版 『旅行業実務シリーズ 3.国内旅行実務 国内運賃・料金 2024』 株式会社JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	本科目は集中講義で実施し、国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の対策を兼ねている。 1. 「国内旅行業務取扱管理者試験」「地域限定旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算」を併せて受講するとよい。 2. 授業毎問題演習を多く実施し、次回までの課題を提示する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●			●					
科目名	旅程管理				単位認定者	堤 博史		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>本科目では旅程管理者（ツアーコンダクター）の業務について座学と実習により理解を深める。旅程管理は旅行商品の最終段階として捉えられ、旅程管理者のみならず消費者（旅行者）にとっても非常に重要である。具体的には国内旅行に関する旅程管理業務の概説、および当該業務の実施に関して必要不可欠な各種サービス提供契約と関係法令等についての概説、さらには実際の添乗実習などを中心に行い、当該業務への理解を深め、円滑にツアーを実施できる能力を養う。</p>									
到達目標	<p>旅程管理者（ツアーコンダクター）の業務について理解を深め円滑なツアーを実施できるようにする。国内旅程管理主任者の公的資格を取得するために必要なレベルの知識を身につけることができる。</p>									
学修者への期待等	<p>限られた講義時間の中で全員の国内旅程管理者（公的資格）の修了を目指す。集中して受講してほしい。修了した者には、添乗実習を実施する。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	日本の旅行業界の現状と将来性				<p>本科目は集中講義のため、以下のように準備してくる事。</p> <p>①国内旅行（訪日外国人旅行も含む）と海外旅行の現状について調べておくこと。</p> <p>②講義前に教科書の該当するページを読んでおくこと。</p>					
2	旅行業法（概要、総則他）									
3	旅行業法（旅行業等）									
4	標準旅行業約款（約款とは）									
5	標準旅行業約款（総則他）									
6	標準旅行業約款（契約、旅程管理、責任他）									
7	標準旅行業約款（旅程保証他）									
8	関係機関約款（国内旅客運送、一般貸切旅客自動車運送、フェリー標準運送、モデル宿泊）									
9	国内旅行実務について									
10	添乗員の役割と心構え（添乗員とは、添乗員の役割、添乗員の基本的要件）									
11	添乗員実務（各種書式等）									
12	添乗員実務（日帰りバスツアー、航空機利用ツアー）									
13	添乗員実務（JR利用ツアー、宿泊）									
14	関係機関の基礎知識									
15	観光地理									
教科書	『旅程管理主任者資格取得講座テキスト（基礎・国内）』アクトレップ株式会社									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	<p>本科目は5日間の集中講義である。旅行業法と旅行業約款および旅行実務の講義後に修了テストを実施する。</p> <p>本試験は、観光庁長官旅程管理登録研修機関第20号（アクトレップ株式会社）の協力を得て実施する。受験諸費用・修了証書・実習費用が、別途必要となる。</p>									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

総合旅行業務取扱管理者、観光庁登録の旅程管理講習資格を有する。海外勤務を含め旅行業界に40年近く従事した経験から、旅行全般についてポイントや課題等を分かりやすく説明することができる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-24				
	●	●								
科目名	韓国語会話 I			単位認定者	李 美賢		試験(筆記)	70 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、インバウンドにおいてもアウトバウンドにおいても日本にとって重要な隣国である韓国の言語について、基本的な会話能力の向上を目指す。すなわち日常的な状況で基本的な双方向のコミュニケーションを行いうる程度の基礎的な言語運用能力を養う。そのために必要な語彙・文法・背景となる文化などの講義を交えながら、東アジア圏の有力言語である韓国語の会話能力の獲得・向上を目指す。									
到達目標	韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方ができる。基礎的な韓国語の能力(文法、発音)を身につけ、簡単な日常会話ができる。									
学修者への期待等	毎回の学修内容について必ず復習しておくこと。本講では参加型授業を目指しているため、積極的に授業に参加し、発言することが望ましい。									
回	授業計画			準備学修						
1	・ 韓国の言語と文化について			アンケート調査実施-「韓国語会話 I」を受講する理由を考えておいてください。						
2	第1課 文字と発音1 ・ 母音 (1)			授業で学んだ『母音字』については必ず復習する。(1時間程度)						
3	文字と発音1 ・ 子音 (1) 鼻音・流音			授業で学んだ『子音』については必ず復習する。(1時間程度)						
4	文字と発音1 ・ 終声1 (パッチム)			授業で学んだ『終声 (パッチム)』については必ず復習する。(1時間程度)						
5	第2課 文字と発音2 ・ 子音 (2) 平音 有声化・連音化			授業で学んだ『子音』と『発音のルール』については必ず復習する。(1時間程度) 理解できなかった内容については、次回の授業で必ず質問すること。						
6	第3課 文字と発音3 ・ 子音 (3) 激音・農音・終声 (2)			授業で学んだ『子音』『激音・農音・終声』については必ず復習する。(1時間程度)						
7	第4課 ①助詞：は ②疑問形：です、ですか ③指示詞：こそあど言葉			授業で学んだ『助詞(～は)・疑問形・指示詞の言葉』については必ず復習する。(1時間程度)						
8	第5課 ①助詞：～が ②疑問形：です、ですか ③否定文：～ではありません。			授業で学んだ『助詞：～が/疑問詞/否定文』については必ず復習する。(1時間程度)						
9	第6課 ①～に(場所・時間) ②あります・ありません ③位置名詞			授業で学んだ『助詞：～に・あります・ありません・位置名詞』については必ず復習する。(1時間程度)						
10	第7課 ①해요体(1) ②目的助詞：～を ③疑問詞			授業で学んだ『해요体・～を/疑問詞』については必ず復習する。(1時間程度)						
11	第8課 ①해요体(2) ②～で(場所)③～疑問詞			授業で学んだ『해요体・～で/疑問詞』については必ず復習する。(1時間程度)						
12	第9課 ①해요体(3) ②固有数詞 ③～から～まで			授業で学んだ『해요体/固有数詞/～から、～まで』については必ず復習する。(1時間程度)						
13	第10課 ①～してください。②～に(人) ③しません。(안を使った否定形)			授業で学んだ『～してください・～に』『否定形』については必ず復習する。(1時間程度)						
14	第11課 ①過去形：～しました。～でした ②～好きです③～なさってください(尊敬形)			授業で学んだ『過去形/尊敬形』については必ず復習する。(1時間程度)						
15	第12課 ①합니다体(名詞)②합니다体(用言) ③합니다体(尊敬形)			授業で学んだ『합니다体』については必ず復習する。(1時間程度)						
教科書	山崎玲美奈著『キムチ1 韓国語入門』 2022.1, 朝日出版社									
参考文献	授業内で紹介する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心に授業を行うので、必ず教科書持参すること。 ・講義で参考資料として配る資料はファイルしておくこと。 ・学期途中で遠隔授業に切り替わった場合、授業計画については別途指示する。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-32				
	●		●							
科目名	英会話基礎				単位認定者	吉野 千乃		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	本科目では、日常生活の基本的でごく簡単な英語のやりとりができるようになることを目標に実践的な英会話を行う。ネイティブスピーカーの使用する表現や便利な会話表現などを中心に学修する。英語を話すことへの抵抗感を下げるため、ゲーム等を取り入れながら実施する。また、オンライン英会話を利用した英語話者との英会話も取り入れる。									
到達目標	大学生として身近な「自分のこと」が英語で話せるようになる。 授業とオンライン英会話レッスンの実践を通じ、基本的な文法と表現を身につけ、英語でのコミュニケーションに積極的に取り組めるようになる。オンラインレッスンはビデオ会話ソフトClassroomを利用する。									
学修者への期待等	実践を伴う授業であるため、ペアまたはグループで行う活動への積極的な姿勢を期待する。 オンライン英会話は事前にレッスンを予約して行うため、スケジュール管理を怠らないこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス/ オンライン英会話レッスンの予約方法について									
2	テキスト Unit 1 Speaking About Yourself ペア・ワーク (Small Talk)				Unit 1 Practice 2: Questions and Answersに回答しておく(概ね50分)。					
3	テキスト Unit 2-1 What Do You Do? オンライン英会話の事前学修				Unit 2 Practice 2: Questions and Answersに回答しておく(概ね50分)。					
4	オンライン英会話① テキスト Unit 2-1 What Do You Do?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
5	オンライン英会話② テキスト Unit 3-1 What Does He Look Like?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
6	オンライン英会話③ テキスト Unit 3-1 What Does He Look Like?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
7	オンライン英会話④ テキスト Unit 4-1 Where Are You From?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
8	オンライン英会話⑤ テキスト Unit 4-2 Where Are You From?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
9	オンライン英会話⑥ テキスト Unit 5-1 Likes and Dislikes				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
10	オンライン英会話⑦ テキスト Unit 5-2 Likes and Dislikes				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
11	オンライン英会話⑧ テキスト Unit 6-1 What's She Like?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
12	オンライン英会話⑨ テキスト Unit 6-2 What's She Like?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
13	オンライン英会話⑩ テキスト Unit 7-1 Tell Me About Your Family				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
14	テキスト Unit 7-2 Tell Me About Your Family 会話スクリプト作成(グループワーク)				学修した表現を用いて、グループで会話スクリプトを作成する(概ね60分)。					
15	テキスト Unit 1-7 Review 会話スクリプト発表(グループワーク)				グループで作成した会話スクリプトの練習をして、発表の準備を行う(概ね60分)。					
教科書	Vincent, P., Nakazato, N. & Meadows, A. (2020). <i>Speaking of People</i> . Nan'un-Do.									
参考文献	オンラインレッスンのテキストは授業内で配布する。									
備考	授業にはテキスト、辞書(紙・電子辞書どちらでも可)、オンライン英会話テキスト保存用ファイル、記録用ノートを準備して臨むこと。提出された疑問については毎回フィードバックを行う。履修状況により、進度や順番が変更になる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-39				
		●	●							
科目名	英会話応用				単位認定者	吉野 千乃		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目では、これまでに学修した英語の知識を活用し、趣味などの身近な話題や、様々な社会問題について、自分の意見をわかりやすい英語で伝える力を身につけることを目的とする。また、オンライン英会話を利用した英語話者との会話を通じ、英語での思考力や表現力を高め、自分の考えをためらうことなく伝えられるようになることを目指す。</p>									
到達目標	<p>様々なトピックについて英語で自分の意見をまとめて、相手に伝えられるようになる。オンライン英会話を通して、実践的コミュニケーション能力を向上させる。</p>									
学修者への期待等	<p>実践を伴う授業であるため、受け身ではない積極的な姿勢を期待する。ビデオ会話ソフトClassroomを利用するオンライン英会話は予約制のため、日時・時間の変更はできない。また受講者の都合による欠席・遅刻のないように自己管理を怠らないこと。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス/ポートフォリオ作成について オンライン英会話のアカウント作成と予約方法									
2	テキスト Unit 8-1 Communication				Unit 8 Practice 2:Questions and Answersに回答しておく(概ね50分)					
3	テキスト Unit 8-2 Communication				テキスト指定箇所の予習(概ね50分)。					
4	オンライン英会話① テキスト Unit 9-1 How Are You Feeling?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
5	オンライン英会話② テキスト Unit 9-2 How Are You Feeling?				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
6	オンライン英会話③ テキスト Unit 10-1 Memories				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
7	オンライン英会話④ テキスト Unit 10-2 Memories				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
8	オンライン英会話⑤ テキスト Unit11-1 Talking About Health				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
9	オンライン英会話⑥ テキスト Unit 11-2 Talking About Health				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
10	オンライン英会話⑦ テキスト Unit 12-1 Mindset				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
11	オンライン英会話⑧ テキスト Unit 12-2 Mindset				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
12	オンライン英会話⑨ テキスト Unit 11 Talking About Health				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
13	オンライン英会話⑩ テキスト Unit 12 Mindset				オンライン英会話：学修の記録をつける(概ね20分) / テキスト：新出表現の確認(概ね30分)。					
14	テキスト Review Unit 8-10 グループワーク				テキスト指定箇所の予習(概ね50分)。					
15	テキスト Review Unit 11-12 グループワーク				テキスト指定箇所の予習(概ね50分)。					
教科書	Vincent,P.,Nakazato,N. & Meadows,A. (2020). <i>Speaking of People</i> . Nan'un-Do.									
参考文献	オンラインレッスンのテキストは授業内で配布する。									
備考	授業にはテキスト、辞書(紙・電子辞書どちらでも可)、オンライン英会話テキスト保存用ファイル、記録用ノートを準備して臨むこと。提出された疑問には毎回フィードバックを行う。履修状況により、進捗や順番が変更になる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-40				
		●								
科目名	観光英語				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	観光の現場では、日常英会話のみならず、特定の用語や表現等の理解が必要となる。本科目では、日常英会話力の向上と観光現場で必要となる用語・表現等の修得をめざす。空港やホテルなどの海外旅行で接する会話場面を想定し、旅行者としてまた観光業従事者として必要となる表現を学修する。									
到達目標	観光分野に関する様々な語彙、表現を身につけて、基本的な応対が英語のできるようになる。									
学修者への期待等	事前に指定箇所の予習を行い授業に臨むこと、授業外でも積極的に英語学修に取り組むことを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について/Unit 1 Travel									
2	Unit 2 Jobs and People 空港業務の名称を学修する				Unit 2 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
3	Unit 3 Getting on the Plane 飛行機搭乗時の表現を学修する				Unit 3 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
4	Unit 4 Immigrations and Customs 出入国管理と税関で使用する表現を学修する				Unit 4 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
5	Unit 5 At the Airport 空港のフロアマップに用いられている表現を学修する				Unit 5 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
6	Unit 6 Hotel (Accommodations) ホテルの予約、チェックインで使用する表現を学修する				Unit 6 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
7	Unit 7 Restaurant レストランやファストフード店で使用する表現を学修する				Unit 7 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
8	Unit 8 Sightseeing 都市観光で使用する表現を学修する				Unit 8 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
9	Unit 9 Shopping ショッピングで使用する表現を学修する				Unit 9 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
10	Unit 10 Transportation 公共交通機関で使用する表現を学修する				Unit 10 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
11	Unit 11 Problems and Complaints 問題が生じたときの対応を学修する				Unit 11 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。					
12	Additional Unit: Traveling in Japan ① 空港から旅館への移動、チェックイン、入浴方法									
13	Additional Unit: Traveling in Japan ② 旅館での食事、おみやげ、観光地									
14	観光英語検定3級 問題演習① 過去問題(第44回実施分を予定)									
15	観光英語検定3級 問題演習② 過去問題(第45回実施分を予定)									
教科書	観光英検センター編著(2014)『ベーシック観光英語』三修社									
参考文献	資料はLMSより随時配信する。									
備考	本科目はオンデマンド授業(動画配信)で実施するため、疑問などはLMS上でReactionとして提出すること。次の回にフィードバックを行う。履修者の状況により、進捗や内容に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-31				
	●	●								
科目名	TOEIC演習				単位認定者	尾形 まゆみ		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	評価の方法	単位数	1 単位	授業内課題等	30 %
							授業時間数	30 時間	受講態度	10 %
				授業形態	演習		授業回数	15 回		
授業の概要	英語力の指標としてTOEIC®が利用されることが多い。本科目では、TOEIC®の問題を利用しながら、リスニング、リーディング力の向上を図る。TOEIC®はビジネス場면을題材としているため、ビジネス英会話等で学修した内容を復習し、定着させることにもつながる。また、TOEIC®を受験する際に有用なテストテイキングの方法も指導し、練習する。									
到達目標	学生は授業中の様々な試験対策問題を通し、基礎的な英語力とテストスキルを身につけ、TOEICのスコアを伸ばすことで、観光産業で活躍できるようになる。									
学修者への期待等	TOEIC L&Rは年10回(1・3・4・5・6・7・9・10・11・12月)実施しているので、自分で申し込み、勉強の成果を確認してください。(試験の2ヶ月前に締め切りになるので、計画的に受験するように)就職活動に使うためには1年の後期にある程度のスコアを取得する必要があります。特にエアラインを希望する学生には必要不可欠です。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス, Unit1: Entertainment (Listening)				シラバスを読み、授業内容を理解しておく。映画や音楽などの娯楽に関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
2	Unit1: Entertainment (Reading)				文法・映画や音楽などの娯楽に関するリーディングセクションの予習(1時間)。					
3	Unit2 :Personnel (Listening)				求人広告や社内人事に関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
4	Unit2 :Personnel (Reading)				文法・求人広告や社内人事に関するリーディングセクションの予習(1時間)。					
5	Unit3: Office Work & Supplies (Listening)				オフィス業務や備品に関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
6	Unit3: Office Work & Supplies (Reading)				文法・オフィス業務や備品に関するリーディングセクションの予習(1時間)。					
7	Unit4: Office Messages (Listening)				電話やEメールなどのオフィスメッセージに関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
8	Unit4: Office Messages (Reading)				文法・電話やEメールなどのオフィスメッセージに関するリーディングセクションの予習(1時間)。					
9	Unit5: Eating Out (Listening)				ランチやパーティーなどの外食に関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
10	Unit5: Eating Out (Reading)				文法・ランチやパーティーなどの外食に関する単語・長文リーディングセクションの予習(1時間)。					
11	Unit6: Technology (Listening)				コンピューターなどの科学技術に関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
12	Unit6: Technology (Reading)				文法・コンピューターなどの科学技術に関するリーディングセクションの予習(1時間)。					
13	Unit7: Research & Merchandise Development (Listening)				調査研究や商品開発に関する単語・リスニングセクションの予習(1時間)。					
14	Unit7: Research & Merchandise Development (Reading)				文法・調査研究や商品開発に関するリーディングセクションの予習(1時間)。					
15	確認テスト				これまでの学習内容について、語彙、文法事項、重要表現などを復習しておく(3時間)					
教科書	成美堂 <i>SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-</i> 『テーマ別TOEIC L&R TEST 総合演習』									
参考文献	必要に応じて講義中に適宜指示します。									
備考	必ず毎回授業の学習箇所の問題に解答して授業に臨むこと。授業中に質問に答えられないと予習をしていないと見なされ、授業態度評価に影響します。毎回授業の初めに前Unitのリスニング復習テストを行うので、ダウンロードした音声を聞いて復習しておくこと。シラバスの内容は学生の熟達度、受講生数、授業の進行状況により変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-33				
		●	●							
科目名	観光インターンシップ				単位認定者	佐藤 美輪		受講態度	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	報告書	25 %
					授業形態	実習	授業時間数		45 時間	受入先の評価
				授業回数		集中	発表		20 %	
授業の概要	旅行・ホテル・航空・プライダグルなど、観光ビジネスに関する機関において、おおむね1週間の基本的実務に関する実習を行う。 それぞれの機関における特徴を理解し、観光ビジネスに関する業務を行うために必要な知識と実務能力を身につける。									
学修者への期待等	①インターンシップ科目の履修方法は通常の科目とは違うので注意すること。 ②自ら積極的に情報を収集し、インターンシップ先を開拓する努力をすること。 ③インターンシップ先では、勤務時間などの諸規則をしっかりと守り、青葉生として恥ずかしくない振る舞いをすること。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 受入先企業により異なる。</p> <p>2. 実習計画 (1) 事前研修 (集中講義) 第1回 インターンシップの概要と目的, 成績評価の方法 第2回 観光ビジネスに関わる業種・職種・企業について 第3回 自分に合ったインターンシップ選び方, 応募の仕方 第4回 インターンシップ選考について 第5回 インターンシップに参加した後取り組むこと (2) インターンシップ (職場実習) 原則として、以下の全てを満たすことを条件とする。 ①実習時間数が概ね「35時間以上」であること。 ②当該年度内に実施されるインターンシップであること ③インターンシップ先から以下の評価協力について承諾を得られること ・「インターンシップ活動報告書」にサインまたは押印 ・「インターンシップ評価表」にインターンシップ中の評価を記入 (注1) 以上の書類は実習前に学生および受入先企業に配布 (注2) 海外のインターンシップ先を個人で開拓した場合は、日本語で上記書類を作成してもらうこと (注3) 旅行会社の海外インターンシップツアーを利用した場合は、旅行会社指定の書類や成果物を提出すること ④「学生教育研究災害傷害保険」に加入していること (3) 「インターンシップ活動報告書」および「インターンシップ評価表」の提出 (4) インターンシップ報告会での発表</p> <p>3. 実習目標 就職活動前にインターンシップを経験することで、組織活動の仕組みを知り、社会人としての責任を自覚し、観光ビジネス 業界で働くことの意義について考え、進路選択の幅を広げることができるようになる。</p> <p>【注意事項】 ①「事前研修」や「インターンシップ報告会」の日程については、後日連絡する。 ②「事前研修」と事後の「インターンシップ報告会」で20%を超えて欠席した場合、単位認定は行わない。 ③インターンシップ中に個人的な事由により欠勤し実習時間が35時間に満たなかった場合、単位認定を行わない。 (忌引き等やむを得ない事情については、担当教員が本学の公認欠席規程に準じて判断する) ④その他、受入先が実習継続困難と判断し、中止に至った場合、単位認定を行わない。 ⑤企業から直接短大にインターンシップ受入の案内があった場合は掲示等で連絡するが、年度により、職種や受入人数にばらつきがあるので、早めに自己開拓の努力をすること。 ⑥他科目の集中講座の日程と実施時期が重なることもあるので、インターンシップ先を選ぶ際には注意すること。</p>										
教科書	適宜、レジュメを配布する。									
参考文献	必要に応じて指示									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●							
科目名	海外研修				単位認定者	吉野 千乃 佐藤 美輪		授業内課題	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度 (事前,事後)	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	報告書, 発表会
				授業回数		集中				
授業の概要	海外での実地の研修, あるいは遠隔方式による研修を通して様々なシーンにおける外国語の重要性を実感し, 今後の外国語学習のモチベーションとするとともに, 海外の多様な文化に触れ, 文化間のコミュニケーションについて理解を深める。さらに「観光」と「外国語」という親和性の高い要素を総合して自己のスキルアップにつながる基本的な知見を獲得する。									
学修者への期待等	①海外研修の履修方法は通常の科目とは違うので注意すること。 ②渡航の準備は各自で責任を持って進めること。 ③事前学修・事後学修も研修の要件となることを理解し, 欠席をしないこと。 ④短い研修期間を有意義に過ごすため, 日本での準備をしっかりと行うこと。 ⑤現地での学修・生活の記録をつけ, 実りある研修生活を送ることを期待する。									
授業計画										
1. 研修先・研修期間 4月ガイダンス時(予定)に説明される。										
2. 授業計画 現地での外国後学修と観光事情についての学修を学びの中心とする。 (1) 事前学修 (学内) 第1回 海外研修の目的 第2回 海外研修のための具体的な準備 第3回 海外研修の自己目標設定とグループ内発表 (2) 海外研修 (現地にて) 現地で英語を学修する。 現地の観光事情について, 空港や宿泊施設等の視察内容をまとめ, 学びを深める。 (ホームステイの場合) ホストファミリーと交流し, 異文化理解やコミュニケーション力の向上に努める。 (3) 事後学修 (学内) 第4回 自己目標に対する研修の振り返り 報告書作成について 第5回 海外研修報告会										
3. 目標 ①外国での生活と学修により, 自身の外国語コミュニケーション力を体験的に理解し, 今後の学修に活かす。 ②海外の人々との交流により, 異文化コミュニケーションの楽しさを知る。 ③外国での観光視察により, 「観光」への知見を広め, グローバル時代の観光について考察する。										
【注意事項】 ① 学内実施の「事前学修」, 「事後学修」の日程は, 学内の掲示板で連絡する。 ② 現地での研修期間中に個人的な事由により現地授業や視察に出席できなかった場合, 原則として単位認定を行わない。 ③ 渡航前に現地研修が何らかの事情により中止に至った場合, 事前学修が行われていても, 単位認定を行わない。										
教科書	適宜, レジュメを配布する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎キャリア形成ゼミ				単位認定者	松崎 陽子 佐藤 美輪		試験（レポート）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	授業内課題
				授業回数			15 回			
授業の概要	自身のキャリアを形成することの意味を主体的に捉え、これからの社会生活をどのように充実させていくのかを考えられるようにする。また、最近の社会や職業の動向について理解を深め、働く意味について考え、自らの将来をイメージできるようにするなど、職業意識を涵養していく。さらには、自分自身がイメージした将来の姿に到達するために必要な計画をたてられるようにする。									
到達目標	①キャリアとは何かを自分ごととして理解する。 ②変化と多様性の時代におけるキャリア設計について理解する。 ③自分のキャリアプランを実現するためにすべき事柄を導き出すことができる。									
学修者への期待等	充実した大学生活を送りながら将来社会人となることを意識して必要な力の養成を目指しているため、グループワークや実践家を招いたフリートークをとおして自分の意見を積極的に発言することを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス、大学生活とキャリア				【事後】自分が2年間で目指すものを書き出してみる(30分程度)。					
2	「働くこと」の意味を考える				【事後】グループワークでの自分の役割の反省を行う(30分程度)。					
3	就職サイトへの登録と活用法				【事後】就職サイトで自己分析のページを利用してみる(1時間程度)。					
4	キャリアに対する思い込みを排除する				【事前】自分自身のキャリアの定義を考えておく(30分程度)。					
5	社会・企業の基礎知識				【事後】B to B企業を調べてみる(1時間程度)。					
6	「働き方」について考える				【事前】理想のロールモデルについて考えておく(30分程度)。					
7	社会人のキャリアヒストリーを聞く（その1）				【事後】講話を聴いての感想文を800字で書いて提出する(授業内課題)(1時間程度)。					
8	自己分析とは何か				【事後】授業で配布されたワークシートを完成させる(1時間程度)。					
9	社会人基礎力と自分に不足するスキルを知る				【事後】授業で配布されたワークシートを完成させる(1時間程度)。					
10	働く環境とワーク・ライフ・バランス				【事前】自分の理想とする「働き方」について考え箇条書きにしたメモを授業に持参する(30分程度)。					
11	組織と個人の成長				【事後】企業の種類・特徴についてまとめ、自分の志望する企業を選択する(1時間程度)。					
12	インターンシップと採用プロセス				【事後】就職サイトでインターンシップ情報を検索する(30分程度)。					
13	社会人のキャリアヒストリーを聞く（その2）				【事後】講話を聴いての感想文を800字で書いて提出する(授業内課題)(1時間程度)。					
14	自己分析から自己PRへ				【事後】自己PRを250字でまとめて提出する(1時間程度)。					
15	ふりかえり、キャリア形成と就活の実態				【事後】Afterに記入し、後期の取り組みを計画する(30分程度)。					
教科書	必要に応じて適宜配布する。									
参考文献	東海大学キャリア就職センター 東海大学現代教養センター編『改訂版キャリア形成1ー社会・集団・個人の役割を学ぶ』									
備考	・本講では参加型授業を目指しているため、積極的に授業に参加し、発言することが望ましい。 ・受講者の理解を促すために、講義の内容および計画を変更する場合がある。変更になった場合は事前に連絡する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
TB-4-SEM-02

科目名	実践キャリア形成ゼミ			単位 認定者	松崎 陽子 佐藤 美輪		評価の 方法	試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数		1 単位	受講態度	20 %
						授業時間数		30 時間	授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	「基礎キャリア形成ゼミ」で学んだ基礎知識を踏まえ、様々な職種や業種について理解する。 自分自身を客観的に分析できるようになるとともに、履歴書・自己紹介文・エントリーシートなどの書き方、インターネットを活用した情報収集の方法などを広く学ぶ。									
到達目標	①将来やりたいこと、できることを見極めることによって職業意識を高める。 ②社会人として働く意味や将来就きたい職業を具体的にイメージできるようになる。 ③ライフステージに沿ったキャリアプランを立てることができる。									
学修者への 期待等	充実した大学生活を送りながら将来社会人となることを意識して必要な力の養成を目指しているため、グループワークやグループディスカッションをとおして自分の意見を積極的に発言することを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス…「就職ノート」を作る				【事後】「就職ノート」記入できる事項をピックアップしておく(30分程度)。					
2	就職ガイダンスⅠ…就職活動キックオフガイダンス、支援センターの利用方法、求職票の作成就活への準備と心得				【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく(1時間程度)。					
3	就職サイトの活用法				【事後】就職サイトの「先輩の体験談」を視聴する(1時間程度)。					
4	業界研究の仕方				【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく(1時間程度)。					
5	グループワーク①…志望業界を研究する				【事前】志望する業界について2～3決定し、おおまかに調べておく(1時間程度)。					
6	企業の種類とCSR報告書				【事前】志望する企業のらCSR報告書を読み、ポイントをまとめておく(1時間程度)					
7	グループワーク②…企業研究				【事後】志望する企業をいくつかピックアップしておく(1時間程度)。					
8	就職ガイダンスⅢ…履歴書・エントリーシートの書き方				【事後】自己PRと学生時代に力を入れたことを履歴書の欄に記入する(1時間程度)。					
9	グループワーク③…企業の不祥事を調べる				【事前】志望する業界・企業の不祥事について調べておく(1時間程度)。					
10	グループワーク④…企業研究のパワーポイント作成				【事前】志望する企業をいくつかピックアップして調べておく(1時間程度)。					
11	就活マナー講座…第一印象の大切さ、社会人としてマナーリクルートスーツの着こなし方				【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく(1時間程度)。					
12	就職体験報告会…2年生から実際の就職活動体験を聞く				【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく(1時間程度)。					
13	面接セミナー…面接の種類、面接のポイント、面接練習				【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく(1時間程度)。					
14	グループによる企業研究報告発表				【事後】各グループへのピアレビューをワークシートにまとめて提出する(1時間程度)。					
15	講座のまとめと総括: 社会人とキャリア形成				【事前】志望動機を含めた履歴書を書いて授業に持参する(授業内課題)。 【事後】教科書のAfterに記入し、自分の振り返りをする(30分程度)。					
教科書	必要に応じて、授業において配布する。									
参考文献	東海大学キャリア就職センター 東海大学現代教養センター編『改訂版キャリア形成2ー業界研究とセルフマネジメント』									
備考	ゲスト講師や学生総合支援センターの協力体制、受講者の理解度等により、講義の順番や内容を変えることがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●		

科目ナンバリング
TB-4-SEM-04

科目名	初年次ゼミ				単位 認定者	成澤 広幸 松崎 陽子 吉野 千乃 佐藤 美輪		評価 の方法	試験(レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>初学者が大学教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力を養う。2年間の短期大学での学びを有意義なものとするための基礎的なスキルを身につけ、大学生生活の様々な場面で活用できるようになることを目的とする。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、コミュニケーションスキルの向上を目指す。</p>									
到達目標	<p>大学新入生にとって、授業を中心とした大学生生活で身につけておくべきさまざまなスキルを修得し、大学生生活におけるいろいろなシーンで活用できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>学修内容により、1年生全員が合同で受講する場合とゼミ別に受講する場合がある。事前にLMS等で連絡するので、欠席や遅刻をせず、どちらにも積極的に参加すること。 また、各ゼミの演習では、担当教員の指示に従うこと。</p>									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス, 大学生生活を始めるにあたって									
2	スタディースキル① LMSの使い方									
3	スタディースキル② 大学生生活の基本的マナー									
4	スタディースキル③ 図書館の活用方法									
5	スタディースキル ④観光ビジネス学科での学びを考える(ゲストスピーカー)					なぜ観光ビジネス学科を選んだのかについて、具体的に話が出来るようにしてください(1時間程度)。				
6	スタディースキル ⑤ホスピタリティについて考える(ゲストスピーカー)					「ホスピタリティ」という言葉の広義の意味について考えてください(1時間程度)。				
7	スタディースキル⑥ 自分の適性を知る:ジェネリックスキル									
8										
9	フィールドワーク① 課題設定									
10	フィールドワーク② 調査準備									
11	フィールドワーク③ 現地調査									
12	フィールドワーク④ 調査のまとめと発表準備									
13	フィールドワーク⑤ ゼミ内発表									
14	フィールドワーク⑥ 全体発表									
15	レポート作成の技術					事前にLMSにアップロードする授業資料を読んで、理解しておいてください(30分程度)。				
教科書	特に指定しないが、参考資料を適宜配布する									
参考文献	授業中に各教員から指示する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の順番や進行は、受講者の理解度等によって変更することがある。 ・1年合同開講:第1回～第8回, 第14回, それ以外の授業回はゼミ別で実施する。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-07				
	●	●								
科目名	観光研修 I				単位 認定者	成澤 広幸 松崎 陽子 吉野 千乃 佐藤 美輪		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	「観光研修I」は学年ごと、あるいは学科全体で実施される学外研修、フィールドワーク、観光施設の見学・視察・体験などを通じた学修を行う。それら学外での学修活動だけではなく、学内における事前学修、事後発表を通して観光に対するさらなる知見の獲得を行い、学修を深化させる。特に1年次では「観光」という事象について集団で学び合い、認識を深める「フィールドワーク入門」としての面も持ち、多角的に観光現象について学修を深める。									
到達目標	観光を学ぶ学生として、研修や体験で得た知識を今後の進路選択に活かせるようになる。 事前研修、体験、事後発表という一連の流れの中で、自らの考えを明確に表現できるようになる。									
学修者への期待等	研修や体験は団体行動となることが多いため、1人1人が短大生としての自覚を持って行動してほしい。また、協調性と同時に積極性を持って研修に取り組む姿勢を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス：「観光」を様々な観点から学ぶ									
2	新聞セミナー①									
3	新聞セミナー②									
4	近隣施設見学：仙台国際空港				【事前】見学に向けて質問事項を考えておくこと(概ね40分)【事後】施設見学の内容をまとめておくこと(概ね40分)。					
5										
6	近隣施設見学：事後学修									
7	東北の観光地調査：事前学修				【事前】研修地について調査しておくこと(概ね50分)。					
8	東北の観光地調査(学外研修)				【事後】学外研修の内容をまとめておくこと(概ね50分)。					
9										
10	サービス介助基礎研修				【事前】サービス介助士と観光業の関連について調査しておくこと(概ね50分)。					
11										
12	文化観光：事前学修				【事前】鑑賞作品について調査しておくこと(概ね50分)。					
13	文化観光				【事後】鑑賞後の感想を800字程度でまとめる(概ね1時間)。					
14										
15	全体のまとめ				【事前】1年間の学修内容をまとめておいてください(概ね50分)。					
教科書	使用しない。									
参考文献	参考資料は随時配布する。									
備考	状況により順番や進度、内容に変更が生じる場合がある。研修をオンラインに変更して実施することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-09				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミ I				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験(レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「初年次ゼミ」（1年前期配当）で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	国際観光の大きな柱であるアウトバウンドについて、主に我が国を例にとりながら理解を深め、その沿革や意義を自分の言葉で説明できるようになる。現在直面する諸問題について学修を深め、解決の方向について自分の考えを述べることができるようになる。									
学修者への期待等	国際観光の理解には旺盛な好奇心が必要です。特にアウトバウンド観光については、自分が体験できるもっとも身近な国際観光なので、具体的な好奇心によってさまざまな疑問が起こってくると思います。好奇心を貪欲なくらい持って、観光の世界を眺めてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。調査するアウトバウンドテーマの選定。					アウトバウンドの一般的な定義について調べてください（概ね20分）。				
2	日本のアウトバウンド概略（1）：バブル期まで（講義&ディスカッション）					日本人の海外旅行の歴史について、概略を調べてください（概ね1時間）。				
3	日本のアウトバウンド概略（2）：「失われた30年のアウトバウンド」（講義&ディスカッション）					バブル崩壊から2019年までのアウトバウンドについて調べてください（概ね30分）。				
4	日本のアウトバウンド概略（3）：「コロナ禍とコロナ後のアウトバウンド」（講義&ディスカッション）					現在のアウトバウンド状況について調べてください（概ね30分）。				
5	フィールドワークの事前調査：定義山西方寺					定義山西方寺について調べてください（概ね30分）。				
6	県内観光地フィールドワーク（1）仙台にとって馴染み深い宗教観光地を尋ねる：定義山西方寺					宗教施設が広義の観光地となった理由を考えておいてください（概ね1時間）。				
7										
8	アウトバウンドテーマの調査					どのようなテーマを選ぶのかをあらかじめ考えてください（概ね30分）。				
9	アウトバウンドテーマの調査の中間プレゼンテーション					調査の方向について明確な説明ができるようにしてください（概ね30分）。				
10	アウトバウンドテーマの調査の最終プレゼンテーション					5分ほどで発表をまとめるように準備してください（プレゼン準備に30分）。				
11	県内観光地フィールドワーク（2）仙台宮城キツネ村					宮城キツネ村について、インバウンドの視点から調べてください（概ね30分）。				
12										
13	アウトバウンド事例研究（1）：ハワイ観光の概略					ハワイ観光について調べてください（概ね30分）。				
14	アウトバウンド事例研究（2）：ハワイと日本					ハワイと日本の関わりについて調べてください（概ね30分）。				
15	まとめ：「自分とアウトバウンド」について語ろう（ディスカッション）					自分にとってのアウトバウンドとは何かを考えてください（概ね30分）。				
教科書	特に使用しません。必要な資料を随時配布します。									
参考文献	授業中に紹介します。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-09				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミ I				単位 認定者	松崎 陽子		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	「初年次ゼミ」(1年前期配当)で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	課題に取り組むプロセスの中で、指示待ち症候群ではなく学生自身が主体的に考えかつ行動できる能力を身につけることを目標とする。自ら考え、主体的に行動できるレベルのスキルを身につける。									
学修者への期待等	企画を立案し、企画内容を精査して取材対象を探し出し、自分でアポイントを取り対面取材を行うため、積極性が要求される。さらに記事の執筆も行うので、文章力を鍛えようという意欲的な学生を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス, 自己紹介, ゼミ長、副ゼミ長の選出				【事後】配布されたワークシートを完成し、次週の授業で提出する(1時間程度)					
2	グループワーク①「観光を支える仕事」について調べる				【事後】興味を持つ業界と仕事(観光分野)をピックアップしておく(30分程度)。					
3	グループワーク②業界別にグループを再編				【事前】グループの役割分担を決める(30分程度)。					
4	「観光を支える仕事」に従事しているOGを探す				【事後】グループでどの企業のOGを取材するか相談する(30分程度)。					
5	取材のためのアポイントの取り方, 電話のロープレ				【事後】取材のためのアポイントを取る(30分程度)。					
6	フィールドワーク。グループごとに取材活動(取材				【事前】取材対象に対して質問事項を考えておく(1時間程度)。					
7	・写真撮影などを含む)				【事後】執筆分担の相談をする(30分程度)。					
8	記事原稿作成の注意点				【事後】記事の下書きをする(1時間程度)。					
9	小冊子作製についての知識(レイアウトなど)				【事後】記事のレイアウトをする(1時間程度)。					
10	パワーポイント作製				【事後】グループごとに発表報告練習(1時間程度)。					
11	ゼミ内での発表報告会・ピアレビュー				【事後】発表の反省を行い合同ゼミに生かす(30分程度)。					
12	発表報告会				【事前】発表報告の予行練習をする(1時間程度)。					
13	(2年生: 観光ゼミⅢ-12, 13回目と合同)				【事後】合同ゼミ参加の感想文を書く(1時間程度)。					
14	小冊子納品, 取材協力先にお礼状と掲載誌送付				【事後】小冊子1冊の感想を書く(30分程度)。					
15	ふりかえり(社会人基礎力で伸ばした部分をチェック)				【事後】2年次へ向けての抱負を書く(30分程度)。					
教科書	適宜, 授業にて資料を配布する。									
参考文献	担当記事により, 適宜指示する。									
備考	取材先の都合などにより実施する回の変更, 取材先自体の変更があり得る。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

出版社で月刊誌編集記者として10年間勤務し、企画立案から取材・記事執筆活動全般に従事した。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
TB-4-SEM-09

科目名	観光ゼミ I				単位 認定者	吉野 千乃		評価の 方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「初年次ゼミ」(1年前期配当)で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	我々に身近な地元のスポットや、若者に人気のサブカルチャーを観光資源として活用するには、どのような工夫が必要であるか。調査を通じ、仙台市内に滞在するインバウンドに向け情報を英語で発信できるようになることを目指す。									
学修者への期待等	日本の文化を紹介することや、異文化理解に関心を持つ者、英語を用いて基本的な情報収集と発信を行うことに意欲のある者の履修を期待する。また、グループワークには積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス: 演習の進め方,自己紹介,研究テーマの選定について									
2	「文化」とは何か					【事前】「文化」について,自分の考えをまとめておいてください(概ね40分)。				
3	海外から見た日本					【事前】自分が紹介したい日本の文化は何か,考えて来てください(概ね50分)。				
4	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する①事前調査					【事前】インターネット等で紹介されている仙台の観光情報を収集する(概ね50分)。				
5	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する②調査計画					【事前】インターネット等で情報を収集し,現地調査の計画を作成する(概ね50分)。				
6	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する③計画の発表					【事前】インターネット等で情報を収集し,現地調査の計画について発表できるよう準備をする(概ね50分)。				
7	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する④調査					【事前】現地調査のポイントをグループで話し合い決定しておく(概ね50分)。				
8										
9	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する⑤調査のまとめ					【事前】現地調査のまとめをグループで行う(概ね50分)。				
10	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する⑥調査の報告					【事前】現地調査のまとめをグループで行い,発表の準備を行う(概ね50分)。				
11	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する⑦英語パンフレット作成					【事前】インターネットや観光地などで,英語のパンフレットを入手しておく。				
12	インバウンドに向けて宮城,仙台を紹介する⑧仙台市内ゲストハウスにて情報発信					【事前】仙台に滞在しているインバウンドへの情報発信が出来るよう準備を行う(概ね90分)。				
13										
14	活動のまとめ① 報告書作成									
15	活動のまとめ② 今後の目標の発表									
教科書	使用しない。									
参考文献	参考資料は随時配布を行う。									
備考	状況により,フィールドワークをオンラインに変更して実施することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-09				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミ I				単位認定者	佐藤 美輪		試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間
						授業回数	15 回			
授業の概要	「初年次ゼミ」(1年前期配当)で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	①日本の世界遺産について登録までの流れや背景を理解できるようになる。 ②東北地方にある観光資源の伝承について、フィールドワークを通し理解できるようになる。 ③コミュニケーションスキルを身につけ、調べた事柄を相手に対しの確に伝えられるようになる。									
学修者への期待等	東日本大震災や、日本の世界遺産について、自ら調べ自分の意見を持つことを期待する。グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方 東日本大震災：被災地の今を考える				自己紹介で話す内容を考えてきてください(1時間程度)。					
2	東日本大震災：復興と課題				東日本大震災の復興と課題を事前に調べてきてください(1時間程度)。					
3	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞				フィールドワーク先について事前に調べてきてください(1時間程度)。					
4	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞				インタビュー項目を事前に考えてきてください(30分程度)。					
5	東日本大震災：被災地のフィールドワーク									
6										
7	東日本大震災：フィールドワークの振り返り・まとめ				フィールドワークから得た内容をまとめておいてください(1時間程度)。					
8	東日本大震災：報告書作成				報告会に向けて、報告資料を仕上げてください(1時間程度)。					
9	東日本大震災：フィールドワーク報告会				報告会で得た知識をまとめておいてください(1時間程度)。					
10										
11	日本の世界遺産について 世界遺産パンフレット作成役割決め				日本の世界遺産について調べてきてください(30分程度)。					
12	世界遺産パンフレット：作成				旅行会社のパンフレットから予習をしてきてください(30分程度)。					
13	世界遺産パンフレット：中間報告会				中間報告会で指摘された箇所の修正をまとめておいてください(1時間程度)。					
14	世界遺産パンフレット：中間報告を受けての修正				最終報告会に向けて、完成版を仕上げてください(1時間程度)。					
15	世界遺産パンフレット：最終報告会 世界遺産のまとめ									
教科書	使用しない。適宜、レジュメを配布する。									
参考文献	授業中に適宜紹介する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

--

観光ビジネス学科 2年生 (2023年度入学生)

- 学修成果（到達目標）
- 教育課程（カリキュラムマップ）
- カリキュラムツリー
- 読替表
- 年間予定表
- シラバス

学修成果（到達目標）

1【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

広い視野を持ち、深い知識と技能を修得し、観光ビジネスの現場で活かすことができる。

- ①総合的な判断力の基礎を養うことができる。
- ②多角的な視野から物事を思考し、本質を見極め、問題解決に取り組むことができる。

2【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力

複雑化する現代社会において、豊かな教養を身につけ、職業人として多角的に物事を見つめることができる。

- ①基本的なビジネスマナーを身につけ観光ビジネスの現場で実践することができる。
- ②収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。

3【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

豊かなコミュニケーション能力を身に付け、職業人として自己の能力を発揮することができる。

- ①積極的かつ意図的にコミュニケーションを作り出すことができる。
- ②他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べることができる。

4【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力

継続してキャリアを積むことにより、さらなる業務遂行能力をはじめとする人間的成長ができる。

- ①生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身につける。
- ②時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。

5【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

職業人として地域社会の活性化に貢献することができる。

- ①職業や勤労に対する理解を深め、地域で意欲的に働くことができる。
- ②地域での活動に積極的に参加し、役割に即した活動の成果をあげることができる。
- ③東北地方の歴史、文化、社会、経済、観光資源について理解し、地域社会に貢献することができる。

学修成果：1 基礎力、2 実践力、3 人間関係力、4 生涯学習力、5 地域理解力

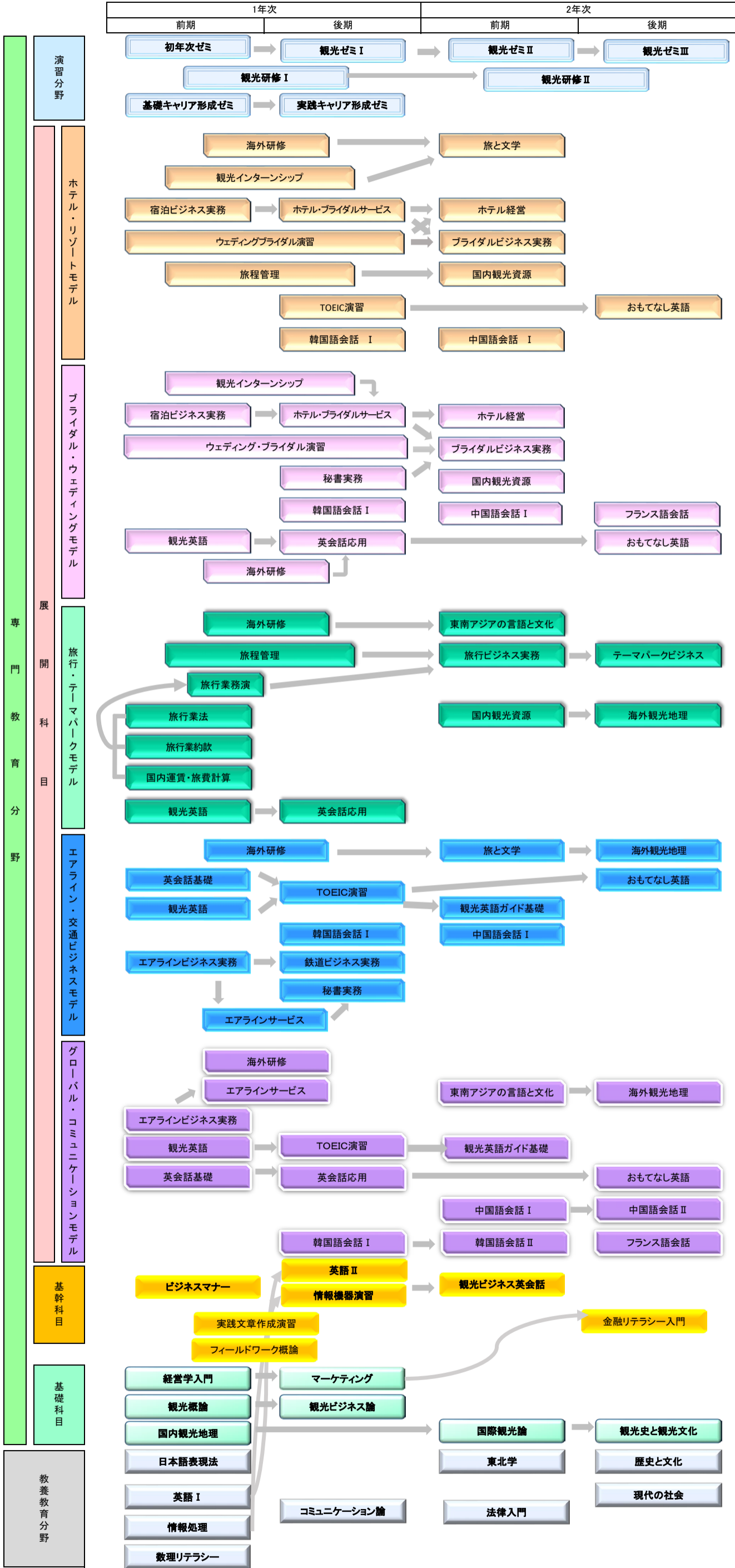
学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。

●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果										単位数		履修モデル								
			1年					2年					必修	選択	ホテル・リゾートモデル	ブライダル・ウェディングモデル	旅行・テーマパークモデル	エアライン・交通ビジネスモデル	グローバル・コミュニケーションモデル				
			前	後	学修成果					前	後	学修成果											
					1	2	3	4	5			1								2	3	4	5
教養教育分野	人間と文化必修	日本語表現法	15	○		●		●									1		○	○	○	○	○
		英語 I	15	○		●											1		○	○	○	○	○
		東北学	15							○		●					2		○	○	○	○	○
		歴史と文化	15								○	●					2		○	○	○	○	○
	人間と社会必修	法律入門	15							○		●					2		○	○	○	○	○
		現代の社会	15								○	●					2		○	○	○	○	○
		コミュニケーション論	15		○	●		●									2		○	○	○	○	○
人間と科学必修	情報処理	15	○		●	●										1		○	○	○	○	○	
	数理リテラシー	15	○		●	●										1		○	○	○	○	○	
専門教育分野	基礎科目必修	経営学入門	15	○		●			●							2		○	○	○	○	○	
		マーケティング	15		○	●				●							2		○	○	○	○	○
		観光概論	15	○		●				●							2		○	○	○	○	○
		観光ビジネス論	15		○	●				●							2		○	○	○	○	○
		国内観光地理	15	○		●			●								2		○	○	○	○	○
		国際観光論	15								○	●				●	2		○	○	○	○	○
		観光史と観光文化	15								○	●				●	2		○	○	○	○	○
	基礎科目選択	実践文章作成演習	15		○	●	●										1		○	○	○	○	○
		フィールドワーク概論	15		○	●	●										2		○	○	○	○	○
		金融リテラシー入門	15								○	●			●		2		○	○	○	○	○
	基幹科目必修	英語 II	15		○	●											1		○	○	○	○	○
		観光ビジネス英会話	15								○		●	●			2		○	○	○	○	○
		ビジネスマナー	15	○			●	●									2		○	○	○	○	○
		情報機器演習	15		○	●	●										1		○	○	○	○	○
	展開科目選択	旅行ビジネス実務	15								○		●	●			2				○		
		エアラインビジネス実務	15	○		●	●										2				○	○	
		エアラインサービス	15	○ (集中)		●	●										2				○	○	
		鉄道ビジネス実務	15		○	●				●							2				○		
		宿泊ビジネス実務	15	○		●			●								2		○	○			
		ホテル・ブライダルサービス	15		○	●	●										2		○	○			
		ホテル経営	15								○		●			●	2		○	○			
		ブライダルビジネス実務	15								○		●	●			2		○	○			
		ウェディングブライダル演習	15		○	●	●										1		○	○			
		秘書実務	15		○	●	●										2			○		○	
		旅と文学	15								○					●	●	2		○		○	
		テーマパークビジネス	15									○		●		●	2				○		
		旅行業法	15	○		●	●										2				○		
		旅行業約款	15	○		●	●										2				○		
		国内運賃・旅費計算	15	○		●	●										2				○		
		国内観光資源	15								○					●	●	2		○	○	○	○
		旅行業務演習	15	○ (選択)		●	●										1				○		
		海外観光地理	15									○				●	●	2			○	○	○
		旅程管理	15	○ (集中)		●				●							2		○		○		
		東南アジアの言語と文化	15								○			●		●	2				○		○
韓国語会話 I		15		○	●	●										1		○	○		○	○	
韓国語会話 II		15								○		●	●			1				○		○	
中国語会話 I		15								○		●	●			1		○	○		○	○	
中国語会話 II		15								○		●	●			1				○		○	
フランス語会話		15								○		●	●			1			○			○	
英会話基礎		15	○		●		●									1				○		○	
英会話応用		15		○	●	●										1			○	○		○	
観光英語		15	○		●											1			○	○	○	○	
TOEIC演習		15		○	●	●										1		○		○	○	○	
おもてなし英語		15									○		●	●		2			○	○	○	○	
観光英語ガイド基礎	15								○		●			●	2				○		○		
観光インターンシップ	-	○ (集中)		●	●										1		○	○		○	○		
海外研修	-	○ (集中)		●	●										1		○	○	○	○	○		
演習分野	演習科目必修	基礎キャリア形成ゼミ	15	○		●	●	●	●	●						1		○	○	○	○	○	
		実践キャリア形成ゼミ	15		○	●	●	●	●	●							1		○	○	○	○	○
		初年次ゼミ	15	○		●	●										1		○	○	○	○	○
		観光研修 I	15		○	●	●										1		○	○	○	○	○
		観光研修 II	15								○		●	●			1		○	○	○	○	○
		観光ゼミ I	15		○	●	●	●	●								1		○	○	○	○	○
		観光ゼミ II	15								○		●	●	●	●	1		○	○	○	○	○
		観光ゼミ III	15								○		●	●	●	●	1		○	○	○	○	○
総計（卒業要件62単位以上）														69	69	69	69	69					

凡例

科目名太字	必修科目
科目名細字	選択科目



■科目名称、開講時期の変更に伴う読替対応表（観光ビジネス学科）

（2023年度に入学の学生適用）

2024年度入学生より、教育課程（カリキュラム）が変更になりましたが、2023年度に入学した学生は、入学時の旧教育課程（カリキュラム）に基づき履修することになります。

旧教育課程（カリキュラム）の2年生科目についてはそのまま開講となりますが、1年生科目については科目名称や開講時期、対象学年が変更になっている場合がありますので、以下の表を確認して履修してください。

なお、不明な点は教員に相談し、特に再履修をする場合は履修間違いのないよう気を付けてください。

※網掛け部分は変更なしの科目です。

2023年度カリキュラム（2023年度に入学の学生適用）								2024年度カリキュラム									
科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次				単位数 必修 選択	読替対応 授業科目の名称	開講 対象年度	授業 回数	履修年次				単位数 必修 選択	シラ パス 頁数	備考
			1年		2年						1年		2年				
			前期	後期	前期	後期					前期	後期	前期	後期			
教養 教育 分野	人間と文化	日本語表現法	15	○			1										
		英語 I	15	○			1										
		東北学	15			○	2										
		歴史と文化	15				○	2									
	人間と社会	法律入門	15			○	2										
		現代の社会	15				○	2									
		コミュニケーション論	15		○		2										
	人間と科学	情報処理	15	○			1										
		数理解テラシー	15	○			1										
	基礎科目	経営学入門	15	○			2										
マーケティング		15		○		2											
観光概論		15	○			2											
観光ビジネス論		15		○		2											
国内観光地理		15	○			2											
国際観光論		15			○	2											
観光史と観光文化		15				○	2										
実践文章作成演習		15		○			1										
フィールドワーク概論		15		○			2										
金融リテラシー入門		15				○	2										
基幹科目		英語 II	15		○		1										
		観光ビジネス英会話	15			○	2										
		ビジネスマナー	15	○			2										
		情報機器演習	15		○		1										
専門 教育 分野	展開科目	旅行ビジネス実務	15			○	2										
		エアラインビジネス実務	15	○			2										
		エアラインサービス	15	○	(集中)		2										
		鉄道ビジネス実務	15		○		2										
		宿泊ビジネス実務	15	○			2										
		ホテル・ブライダルサービス	15		○		2										
		ホテル経営	15			○	2										
		ブライダルビジネス実務	15			○	2	ブライダルビジネス実務	2024	15	○				2	開講時期変更。	
		ウェディングブライダル演習	15		○		1	ウェディングブライダル演習	2024	15			○	1	1年次通年から2年次通年へ開講時期変更のため2024年度は開講せず。		
		秘書実務	15		○		2										
		旅と文学	15			○	2										
		テーマパークビジネス	15				○	2									
		旅行業法	15	○			2										
		旅行業約款	15	○			2										
		国内運賃・旅費計算	15	○			2										
		国内観光資源	15			○	2										
		旅行業務演習	15		○	(集中)		1									
		海外観光地理	15				○	2									
	旅程管理	15	○	(集中)		2											
	東南アジアの言語と文化	15			○	2											
	韓国語会話 I	15		○		1											
	韓国語会話 II	15			○	1											
	中国語会話 I	15			○	1											
	中国語会話 II	15				○	1										
	フランス語会話	15				○	1										
	英会話基礎	15	○			1											
	英会話応用	15		○		1											
	観光英語	15	○			1											
	TOEIC演習	15		○		1											
	おもてなし英語	15				○	2										
	観光英語ガイド基礎	15				○	2										
	観光インターンシップ	—	○	(集中)		1											
海外研修	—	○	(集中)		1												
演習 分野	演習科目	基礎キャリア形成ゼミ	15	○			1										
		実践キャリア形成ゼミ	15		○		1										
		初年次ゼミ	15	○			1										
		観光研修 I	15		○		1										
		観光研修 II	15			○	1										
		観光ゼミ I	15		○		1										
		観光ゼミ II	15			○	1										
		観光ゼミ III	15				○	1									

2024年度 観光ビジネス学科2年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土
4月		1		2	3 入学式	4 オリエンテーション	5 オリエンテーション	6
	7	8 健康診断	9 ①	10 ①	11 ①	12 ①	13	
	14	15 ①	16 ②	17 ②	18 ②	19 ②	20	
	21	22 ②	23 ③	24 ③	25 ③	26 ③	27	
	28	29	30 ④	1 ④	2 ④	3	4	
5月	5	6	7 ⑤	8 ⑤	9 ⑤	10 ④	11	
	12	13 ③	14 ⑥	15 ⑥	16 ⑥	17 ⑤	18	
	19	20 ④	21 ⑦	22 ⑦	23 ⑦	24 ⑥	25	
	26	27 ⑤	28 ⑧	29 ⑧	30 ⑧	31 ⑦	1	
6月	2	3 ⑥	4 ⑨	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑧	8	
	9	10 ⑦	11 ⑩	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑨	15	
	16	17 ⑧	18 ⑪	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑩	22	
	23	24 ⑨	25 ⑫	26 ⑫	27 ⑫	28 ⑪	29	
	30	1 ⑩	2 ⑬	3 ⑬	4 ⑬	5 ⑫	6	
7月	7	8 ⑪	9 ⑭	10 ⑭	11 ⑭	12 ⑬	13	
	14	15	16 ⑮	17 ⑮	18 ⑮	19 ⑭	20	
	21	22 ⑫	23 月⑬	24 月⑭	25	26 ⑮	27	
	28	29 ⑮	30 予備日	31 定期試験	1 定期試験	2 定期試験	3	
8月	4	5 定期試験	6	7	8	9 不合格者発表	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19 集中講義	20 集中講義	21 集中講義	22 集中講義	23 集中講義	24	
	25	26 集中講義	27 集中講義	28 集中講義	29 集中講義	30 集中講義	31	
9月	1	2 再試験	3 再試験	4 海外研修	5 海外研修	6 海外研修	7	
	8	9 海外研修	10 海外研修	11 海外研修	12	13	14	
	15	16	17 集中講義	18 集中講義	19 集中講義	20 集中講義	21	
	22	23	24	25	26	27 後期オリエンテーション	28	
	29	30 ①						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2024年度 観光ビジネス学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土						
10月				1	①	2	①	3	①	4	①	5		
	6		7	②	8	②	9	②	10	②	11	②	12	
	13		14		15	③	16	③	17	③	18	③	19	
	20		21	③	22	④	23	④	24	④	25	せいよう祭 準備	26	せいよう祭
	27		28	④	29	⑤	30	⑤	31	⑤	1	④	2	
11月	3		4		5	⑥	6	⑥	7	⑥	8	⑤	9	
	10		11	⑤	12	⑦	13	⑦	14	⑦	15	⑥	16	
	17		18	⑥	19	⑧	20	⑧	21	⑧	22	⑦	23	
	24		25	⑦	26	⑨	27	⑨	28	⑨	29	⑧	30	
12月	1		2	⑧	3	⑩	4	⑩	5	⑩	6	⑨	7	
	8		9	⑨	10	⑪	11	⑪	12	⑪	13	⑩	14	
	15		16	⑩	17	⑫	18	⑫	19	⑫	20	⑪	21	
	22		23	⑪	24	⑬	25	⑬	26	⑬	27	⑫	28	
	29		30		31		1		2		3		4	
1月	5		6	⑫	7	⑭	8	⑭	9	⑭	10	⑬	11	
	12		13		14	⑮	15	⑮	16	⑮	17	⑭	18	
	19		20	⑬	21	月⑭	22	月⑮	23	金⑮	24	予備日	25	
	26		27	定期試験	28	定期試験	29	定期試験	30	定期試験	31	追試験	1	
2月	2		3		4		5		6	不合格者発表	7		8	
	9		10		11		12	再試験	13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		1	
3月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18	卒業式	19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
	30		31											

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HCU-03		
	●				●			
科目名	東北学				単位認定者	榎森 進 黒田 清志		※詳細は「備考」欄を参照すること。
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	<p>東北における観光ビジネスを学ぶうえで重要となる、東北の歴史・文化・社会・経済について総合的に理解する。</p> <p>(榎森) 東北地方の歴史的性格や、その歴史の上に受け継がれている伝統や年中行事、食や生活習慣、言葉などを理解し、豊かな文化をもつ東北の歴史と文化について探求することを目的とする。</p> <p>(黒田) 東北地方の社会・経済について理解し、地域社会を活性化するための企画の手法などについて学ぶ。</p>							
到達目標	<p>(榎森) 東北地方の歴史と文化に関する知識を得、当該問題について他人に説明出来るようになる。</p> <p>(黒田) ①東北の地域資源を知る。 ②地域資源を活かす方法を学ぶ。</p>							
学修者への期待等	<p>(榎森) 事前に各回のテーマに関する参考文献を教室で指示しますので、各回ともその参考文献に目を通して受講して下さい。</p> <p>(黒田) 自ら地域資源を調べ、それを活かす企画の方法・技術を身につける。</p>							
回	授業計画				準備学修			担当
1	東北地方の歴史や文化の諸相を多様な視点から考えることの大切さーグローバルイズムとレジオナリズムー				第2回目の講義との関わりで児島恭子著『エミシ・エゾからアイヌへ（歴史文化ライブラリー）』（吉川弘文館）に目を通して下さい（概ね1時間）。その後も次回のテーマに関する参考文献を提示しますので、各回とも参考文献に目を通して受講すること（概ね1時間）。			榎森 進
2	エミシ・エゾ・アイヌー中央政権側の奥羽民衆に対する認識の変遷とその歴史的背景ー							榎森 進
3	奥州藤原氏3代の歴史的位							榎森 進
4	17世紀には下北半島が盛岡藩の北の玄関だった							榎森 進
5	近江商人の奥羽地方進出と都市							榎森 進
6	奥羽大名の幕府への献上品から見た近世奥羽の特産物							榎森 進
7	幕末における奥羽諸藩の蝦夷地警備と経営							榎森 進
8	日本の食文化における東北地方の食文化の位置							榎森 進
9	戊辰戦争と奥羽の世界							榎森 進
10	英国婦人イサベラ・バードが見た明治初期の東北							榎森 進
11	東北学（地域学）の概要				提示した参考文献等を読んでおくこと（30分程度）。	黒田 清志		
12	東北を知る				同上	黒田 清志		
13	地域のマーケティング				同上	黒田 清志		
14	地域活性化の方策 企画力				同上	黒田 清志		
15	地域活性化のキーワード				同上	黒田 清志		
教科書	(榎森) 特に無し。 (黒田) テキスト等は授業の都度配付。							
参考文献	(榎森) 東北学院大学歴史学科編『大学で学ぶ東北の歴史』（吉川弘文館、定価1,900円+税。） (黒田) 参考文献等は授業の都度、提示します。							
備考	<p>「評価の方法」について (榎森) 試験（レポート） 80% 受講態度 20% (黒田) 試験（レポート） 70% 受講態度 30% フィードバックは毎回「履修レポート」に基づいて行う。</p>							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(黒田清志)
H6年からH23年まで仙台市経済局、および仙台市観光コンベンション協会で、また、中小企業診断士として、地域の中小企業、商店街、農業、観光の支援事業を担当。その後、山形県など各地の研修会等のセミナー講師、アドバイザーを務める。
広範囲の業種の事業者の経営支援や東北の地域活性化事業に関わってきた経験から、特に経済や文化的側面について、分かりやすく具体的な授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HCU-04		
	●			●				
科目名	歴史と文化				単位認定者	徳田 幸雄 丸藤 准二		※詳細は備考欄を参照すること
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	
					授業形態		講義	
授業の概要	<p>こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。</p>							
到達目標	<p>(丸藤) 近現代世界の形成上、重要な歴史事象について、社会・経済・文化の観点から各回主題を設けて講義する。主題に関する諸問題を学ぶことにより、近現代世界が成立する要因について理解を深め、歴史に対する関心と知識を身に付けることを目標とする。 (徳田) 世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。</p>							
学修者への期待等	<p>授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。</p>							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	ユダヤ教について — 律法の遵守 —				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
2	キリスト教について — 罪からの救い —				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
3	イスラームについて — 神への服従 —				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
4	インドの宗教について — 業と輪廻 —				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
5	仏教について — 苦からの解脱 —				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
6	グローバルエコノミーのはじまり — 西欧の拡大により一体化する世界 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
7	科学革命 — ルネサンス文化と科学の発展 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
8	啓蒙思想の広まり — 新しい「知」の広まりと近代社会 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
9	産業革命 — 人類史の「分水嶺」：工業化社会の成立 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
10	経済社会の成立 — ビジネスと企業経営の発展 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
11	経済社会の発展 — 工業化社会の発展と大衆消費社会 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
12	医療の発展と近代社会				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
13	教育の普及と近代社会				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
14	現代世界の成立				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
15	グローバルヒストリー — 「新しい歴史学」と現代世界 —				レジュメを読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約1時間)		丸藤 准二	
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。							
参考文献	授業において指示します。							
備考	<p>(評価方法) (丸藤) 定期試験70% 授業態度30% (徳田) 授業内課題(全5回)100% 授業終了時に実施するチェックテストで評価します。</p>							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-04	
	●			●			
科目名	法律入門				単位認定者	鈴木 一樹	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位
					講義	授業時間数	30 時間
				授業形態		授業回数	15 回
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。						
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。						
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。						
回	授業計画				準備学修		
1	法律の種類と法律を学ぶ意味						
2	憲法（1）基本的人権 一平等権、精神的自由等				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
3	憲法（2）基本的人権 一経済的自由、その他の人権				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
4	憲法（3）人権総括、統治機構				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
5	民法（1）総則				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
6	民法（2）物権				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
7	民法（3）債権（契約等）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
8	民法（4）債権（不法行為）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
9	民法（5）親族・相続				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
10	刑法（1）総論				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
11	刑法（2）各論				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
12	会社法（1）総論、株式				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
13	会社法（2）機関、組織再編				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
14	消費者法				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
15	まとめ（小テスト）				前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること（30分程度）		
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。						
参考文献	適宜講義内で紹介する。						
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする（様式は特に問わない。LMSで提出とする）。また、授業内課題の評価については、この他第15回実施の小テストの結果も含むものとする。小テストの実施方法は後日連絡する。課題については、講義内でフィードバックを行う。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として上場企業等の法定監査、税理士として税務業務に従事

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03				
	●			●						
科目名	現代の社会				単位認定者	丸藤 准二		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身に付け、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	現代の世界とりわけ日本の社会における様々な問題について、正しい認識と知識を身に付けること。そのうえで、各人がよく考えてこれからの社会生活をより良くすることを目標とします。									
学修者への期待等	毎回の授業に意欲的に取り組んでください。思考の前提となる知識を身に付け、自分で物事を考える習慣をつけましょう。また、実社会の様々な事象に関心をもち、情報に触れるようにしてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	現代の社会とは（現代社会の特質を概観する）				現代社会の特質について、授業内容を整理して理解する。（1時間程度）					
2	現代の日本社会（日本文化・社会の特質）				前回の授業内容を復習し、現代の日本社会について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
3	現代社会と法（法の機能と特質、裁判と司法制度）				前回の授業内容を復習し、現代社会と法について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
4	現代社会と日本国憲法（立憲主義、平等権）				前回の授業内容を復習し、現代社会と日本国憲法について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
5	現代社会と政治（民主政治の基本原則と発展）				前回の授業内容を復習し、現代社会と政治について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
6	現代日本の政治（政治参加と選挙、政党政治）				前回の授業内容を復習し、現代日本の政治について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
7	日本経済の現状（日本の経済発展と停滞）				前回の授業内容を復習し、日本経済の現状について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
8	日本経済の課題（財政と金融問題）				前回の授業内容を復習し、日本経済の課題について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
9	日本の企業社会（労働問題と賃金問題）				前回の授業内容を復習し、日本の企業社会について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
10	現代の人口問題（人口減少と少子高齢化）				前回の授業内容を復習し、現代の人口問題について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
11	日本の福祉と社会保障（高齢化社会における福祉と社会保障）				前回の授業内容を復習し、日本の福祉と社会保障について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
12	資源エネルギー問題（エネルギー資源の現状と課題）				前回の授業内容を復習し、資源エネルギー問題について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
13	環境問題と自然災害（地球温暖化と日本の自然災害）				前回の授業内容を復習し、環境問題と自然災害について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
14	世界の中の日本（貿易と外交問題）				前回の授業内容を復習し、世界の中の日本について授業を整理して理解する。（1時間程度）					
15	まとめと補足				前回の授業内容を復習し、授業全体について授業を整理して試験に備える。（1時間程度）					
教科書	『小論文頻出テーマ解説集2024 現代を知るplus』第一学習社									
参考文献	日経HR編集部編著『図解でわかる時事重要テーマ100 2024-2025』日経HR 授業において参考文献を適宜紹介します。									
備考	教科書の補足として、毎回資料を配布します。 授業内に課題・小テスト等を適宜実施します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-06				
	●				●					
科目名	国際観光論				単位認定者	成澤 広幸		試験（レポート）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	近代における観光活動の成立時からすでに国際的な規模を持っていた観光活動は、現代においては規模がさらに拡大し、諸国民間の相互理解と交流を促進するようになった。その一方で、マス・ツーリズムとボーダーレス化の進展にともなって、地球規模で様々な問題を引き起こしている。本科目では、このように国境を越える観光活動によって引き起こされる政治的、経済的、社会的、文化的、地域的、環境的など種々の影響・効果について理解を深め、国際観光のあり方について考える。									
到達目標	現代の国際観光について総合的、基本的な理解に達すること。つまり国際観光客の複雑な動きによって各国の政治、経済、社会、文化等が影響を受けている事実を、特に日本のインバウンドとアウトバウンドにおいて具体的な例をもって説明できるようになること。									
学修者への期待等	国際観光は戦後に身近なものになったが、具体的な外国観光の背景には文化や政治、経済などに結びついたさまざまな問題があることを考えてほしい。国際観光に関する事例、ニュースなどに注意してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス：国際観光の意義、アウトバウンドとインバウンド				訪日外国人観光客の増加によって何がもたらされるのかを考えておいてください：概ね20分。					
2	観光と国際観光客の定義、国際観光時代の到来の意味				なぜ国際観光の時代がやってきたのかを調べてください：概ね20分。					
3	国際観光客数と国際観光収入、観光の南北問題				主に、国際観光客数と国際観光収入の関係について調べておいてください：概ね30分。					
4	日本のアウトバウンド観光（1）：沿革				身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。					
5	日本のアウトバウンド観光（2）：観光政策におけるアウトバウンド				観光政策とアウトバウンドの関係について調べてください：概ね30分。					
6	日本のアウトバウンド観光（3）：コロナ禍を経た海外旅行の特徴				現代の海外旅行の特徴について調べておいてください：概ね30分。					
7	日本のアウトバウンド観光（4）：ハワイと日本				日本とハワイの観光について調べておいてください：概ね30分。					
8	日本のアウトバウンド観光（5）：マストーリズムの中の海外観光旅行				戦後の海外旅行の歴史について概略を調べてください：概ね1時間。					
9	日本のインバウンド観光（1）：歴史と現状				訪日外国人関係のニュースやトピックを整理しておいてください：概ね30分。					
10	日本のインバウンド観光（2）：観光立国を目指す取り組み				観光立国が必要な理由について調べてください：概ね20分。					
11	日本のインバウンド観光（3）：地域における訪日外国人観光の課題				地域でインバウンド需要を喚起する必要性や方法について考えてください：概ね30分。					
12	日本のインバウンド観光（4）：コロナ禍とインバウンド観光の課題				コロナ禍によってインバウンドはどのような影響を被ったかを調べてください：概ね30分。					
13	世界各国のインバウンド観光（1）：米州・欧州諸国				米州・欧州諸国のインバウンド観光について調べてください：概ね30分。					
14	世界各国のインバウンド観光（2）：アジア太平洋諸国、その他				アジア太平洋諸国のインバウンド観光について調べてください：概ね30分。					
15	諸外国の教訓と日本の国際観光のあり方				これからの日本の国際観光の望ましい姿について考えておいてください：概ね20分。					
教科書	特になし									
参考文献	授業中、適宜紹介します。									
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、準備学修及び復習をしてください。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-07				
	●			●						
科目名	観光史と観光文化				単位認定者	成澤 広幸		試験(レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、観光理解の基礎的部分である観光活動についての史的理解を深める。具体的には、日欧の観光活動の歴史、及びそれらが生み出した観光文化について概観する。まず、近代観光発祥の地である欧州地域で観光活動がいかに誕生・進展し、それがいかなる観光文化を生み出してきたかをグランド・ツアーを起点に概説する。次いでわが国については、観光活動が本格的に成立した江戸時代を中心に概説し、温泉・寺社参詣・物見遊山など、独特な観光文化について理解を深める。</p>									
到達目標	<p>現代のマス・ツーリズムにおいてポピュラーな観光形態として存在している海水浴、温泉、避暑、避寒、登山、ウィンタースポーツ、文化観光、都市観光、田園観光などの起源と発展について、それらの誕生当時の社会状況を含めて自分の言葉で説明ができるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>観光の誕生と発展には現代からは想像もできない事情が潜んでいます。いかに当時の状況を想像できるかによって、観光史と観光文化の理解は劇的に深まります。まずは想像力をたくましくして、観光の様々な形態の誕生と発展につきあってください。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	観光の定義、観光史・観光文化についてのガイダンス 近代観光誕生への助走(1):15世紀末の特殊性、ガイドブックの誕生				観光史とはどのようなジャンルなのか、および中世ヨーロッパの巡礼について調べておいてください:概ね40分。					
2	近代観光誕生への助走(2):古代ローマの優位、風景と旅の危険、17世紀の宮廷の理想				ルネサンスから古典主義時代にかけての政治思潮について調べておいてください:概ね30分。					
3	階級戦略から始まる近代観光(1):イギリス社会と観光の創造				17世紀のイギリス社会の階級対立について調べておいてください:概ね30分。					
4	階級戦略から始まる近代観光(2):グランドツアー				グランドツアーについて調べておいてください:概ね20分。					
5	18世紀のランティエ観光:温泉療養、海水浴治療、気候療法、山岳とスイスの発見、田園滞在				18世紀のランティエ観光の概略について調べておいてください:概ね20分。					
6	19世紀のランティエ観光:移動手段、ガイドブック、レポートの進化				19世紀のランティエ観光の概略について調べておいてください:概ね20分。					
7	19世紀から20世紀へ(1):シーズンとリゾートの確立				シーズンとリゾートの確立について調べておいてください:概ね20分。					
8	19世紀から20世紀へ(2):ランティエ観光の進化				19世紀から20世紀にかけてのランティエ観光における宿泊と移動について調べておいてください:概ね20分。					
9	トマス・クック(1):マス・ツーリズムの萌芽				トマス・クックの業績について調べておいてください:概ね30分					
10	トマス・クック(2):旅行の事業化 マス・ツーリズムの台頭(1):大戦間の変化、余暇の政治利用と社会運動				トマス・クック社の沿革について調べておいてください:概ね30分。					
11	マス・ツーリズムの台頭(2):青少年のバカンスからソーシャル・ツーリズムへ				20世紀前半のマス・ツーリズムの萌芽について調べておいてください:概ね30分。					
12	夏の地中海:観光モデルの交替				観光シーズンの交代について調べておいてください:概ね30分。					
13	日本の観光史と観光文化(1):総合的な旅文化				江戸時代中期からの日本の旅文化の概略について調べておいてください:概ね30分。					
14	日本の観光史と観光文化(2):信仰と温泉				信仰と温泉が観光と結びついた理由について調べておいてください:概ね20分。					
15	日本の観光史と観光文化(3):景勝と文化				景勝地が観光地となった一般的な経緯について調べておいてください:概ね30分。					
教科書	特になし									
参考文献	マルク・ボワイエ『観光のラビリンス』法政大学出版局。その他は授業中に適宜紹介します。									
備考	原則として授業前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。LMSなどで課題の提出を行う予定です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-10				
	●			●						
科目名	金融リテラシー入門				単位 認定者	松崎 陽子		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	金融に関する基礎知識を学び、金融庁の指針（「金融リテラシーマップ」）に沿って短期大学生に必要とされる金融リテラシーを身に付ける。金融商品、生命保険・損害保険について理解し、将来的に自分自身の生活設計が出来るレベルを目指す。									
到達目標	金融商品を理解して自分自身で運用できる知識を獲得し、為替・複利の計算の仕方をマスターする。									
学修者への 期待等	講義だけでなく、自分で主体的に調べたり計算する作業を通して金融についての基礎的知識・考え方を身に付けていくので、積極的に授業に参加して欲しい。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス。テキスト配布や課題についての説明				【事後】金融庁のホームページを見る（30分程度）					
2	【遠隔】金融リテラシーとは何か、金融リテラシー検定の解説				【事前】LMSの「金融リテラシー入門」のトピック1を見る（30分程度）					
3	Lesson1 お金との付き合い方				【事前】テキストの該当部分を読んでおく（30分程度）					
4	【遠隔】奨学金と教育費				【事後】これまで自分にかかった教育費を調べて提出する（1時間程度）					
5	Lesson2 働く、税金、社会保障				【事前】テキストの該当部分を読んでおく（30分程度）					
6	【遠隔】生命保険・損害保険				【事後】自分に必要な保障の種類と金額をリストアップして提出する（30分程度）					
7	Lesson3 お金を貯める・増やす				【事前】テキストの該当部分を読んでおく（30分程度）					
8	【遠隔】NISA、iDeCoなどの税制				【事前】金融広報中央委員会のHP「知るぼと」の該当ページを視聴する。					
9	中間確認テスト。自己採点、解説				【事後】不正解だった問題を「間違い直しノート」に書き写し、再度解いてみる（1時間程度）					
10	【遠隔】単利の計算・福利の計算				【事後】「本日の課題」の計算問題を解き不正解だったものを「間違い直しノート」に転記（30分程度）					
11	Lesson4 契約・トラブル				【事前】テキストの該当部分を読んでおく（30分程度）					
12	【遠隔】悪質商法と消費者庁				【事後】消費者庁のHPから悪質商法の事例を1件選び、ミニレポートにして提出する【1時間程度）					
13	Lesson3 ライフプランとお金				【事前】テキストの該当部分を読んでおく（30分程度）					
14	【遠隔】為替の計算				【事後】「本日の課題」の計算問題を解き不正解だったものを「間違い直しノート」に転記（30分程度）					
15	ふりかえり模擬テスト、自己採点、解説				【事後】不正解だった問題を「間違い直しノート」に書き写し、再度解いてみる（1時間程度）					
教科書	「十代から学ぶパーソナルファイナンス」日本ファイナンシャルプランナー協会 監修・発行※無償で提供されるので、第1回目の授業で配布する。									
参考文献	「金融商品なんでも百科」監修 伊藤 宏一 金融広報中央委員会編・発行									
備考	講義は対面と遠隔（オンデマンド）の両方で行う。授業内課題として、ワークシートやミニレポートを提出することが含まれる。授業内で取り組んだ課題は、講義の中やLMSのトピックで解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
TB-2-CCO-01

科目名	観光ビジネス英会話				単位 認定者	吉野 千乃		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	30 %
						授業形態	演習	授業時間数	30 時間	受講態度
							授業回数	15 回		
授業の概要	経済のグローバル化は着実に進行し、ビジネスシーンで英語が使える人材の必要性がますます高まっている。本科目では、基本的な観光ビジネスの場における英語表現を学修し、実際の観光ビジネスシーンで活用できるようにする。また、観光ビジネス上重要な英語表現を反復し、講義に加えロールプレイングを行うことで、英語で会話することへの抵抗感をなくす。楽しみながら活きた観光ビジネス英語表現の修得を目指す。									
到達目標	観光ビジネス分野(旅行,エアライン,宿泊)の主要な場面で用いられる英語表現を学修し,ロールプレイを通じて適切に使うことができるようになる。									
学修者への 期待等	これまでに学修した観光英語に関する知識を実際に使用できるようになるため,授業内の会話練習やロールプレイ活動に積極的に取り組むこと。ペアワークやグループワークには1人1人が責任感を持って臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス/事前・事後学修の方法 テキスト p.9 Introduction									
2	Unit 1 Recommending a tour Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
3	Unit 2 Taking a tour booking Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
4	Unit 3 Escorting a tour Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
5	Unit 4 Welcoming international tourists Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
6	Unit 5 Taking an airline reservation Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
7	Unit 6 Giving flight information Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
8	Unit 7 Helping passengers check in Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
9	Unit 8 Working at the boarding gate Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
10	Unit 9 Offering in-flight services Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
11	Unit 10 Giving CIQ information Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
12	Unit 11 Taking a room reservation Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
13	Unit 12 Welcoming guests Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
14	Role Play 発表① ペアまたはグループでロールプレイの スクリプトを作成する					スクリプトの作成に向け,準備を行う(約60分)。				
15	Role Play 発表② 作成したスクリプトを用いて,発表を行う									
教科書	Reiko Fujita (2019). <i>English for Tourism Professionals</i> . National Geographic Learning.									
参考文献	随時LMSを通じて配布する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをLMSにReactionとして提出してもらい,次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進捗や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-01				
		●		●						
科目名	旅行ビジネス実務				単位認定者	齋藤 幸一		試験 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	旅行ビジネス全般についての理解を深めるとともに、商品ごとの仕組みや商品流通について学ぶ。旅行業界の歴史や業界をとりまく環境の変化・諸課題、旅行会社の業務内容全般、旅行業をとりまく観光関連産業や多様な職種について学習する。また、旅行商品のプランニングの手法を理解する。									
到達目標	出入国法令・海外旅行実務・国際航空運賃の各項目の知識を習得することで、総合旅行に関する理解を深めることができるようになる。									
学修者への期待等	遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。また、適宜予習および復習すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス（授業の進め方、評価など）									
2	出入国法令①旅券法				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
3	出入国法令②外国人の出入国管理				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
4	出入国法令③日本の出入国手続き				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
5	出入国法令④免税範囲と計算				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
6	出入国法令まとめ				出入国法令①から④を復習しておくこと（概ね30分）。					
7	海外旅行実務①2レターコード・3レターコード、ホテル・鉄道・クルーズ船の知識				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
8	海外旅行実務②海外保険、シェンゲン協定、査証手続きの知識				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
9	海外旅行実務③時差計算、所要時間の計算				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
10	海外旅行実務④空港の知識・航空時刻表				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
11	海外旅行実務⑤航空時刻表の諸計算				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
12	海外旅行実務まとめ				海外旅行実務①から⑤を復習しておくこと（概ね30分）。					
13	国際航空運賃①タリフの読み方、計算ルール				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
14	国際航空運賃②往復旅行等の運賃計算				教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。					
15	国際航空運賃まとめ				国際航空運賃①から②を復習しておくこと（概ね30分）。					
教科書	『旅行業実務シリーズ⑤海外旅行実務 出入国法令と実務 旅行実務』 JTB総合研究所 『旅行業実務シリーズ⑥海外旅行実務 国際航空運賃 旅行業英語』 JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて講義中に適宜指示する。									
備考	授業中はノートを積極的にとりつつ、自分のオリジナルノートを作成するつもりで臨んでください。受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがあります。また事前にテキストに目を通し、授業に臨んで下さい。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-07				
		●			●					
科目名	ホテル経営				単位認定者	成澤 広幸		試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は現在急拡大しつつあるインバウンド需要、増加傾向の国内需要、加速する外資進出、解禁された民泊など多様化する宿泊業界において、ホテルを中心とする宿泊業の経営の実際についていくつかの事例研究により学ぶとともに、広義の観光活動から見る宿泊業経営のあり方について学ぶ。</p>									
到達目標	<p>宿泊施設の多様な環境、特に立地、ターゲット層、和風と洋風の違いなどを理解するとともに、それぞれの環境で培われた最適な経営方法を学ぶことで現代における観光宿泊施設の特徴を自分の言葉で表現できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>ホテル・旅館を中心とする宿泊施設は実に多彩な環境にあり、経営方法も多様です。そうした観光宿泊施設の経営の一端に触れることで観光の世界の奥深さを体感してもらいたいと思います。</p>									
回	授業計画			準備学習			担当			
1	ガイダンス/最終発表についてのアナウンス			ホテル経営について教科書やネットをもとにあらかじめ調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸			
2	質問票づくり			訪問施設に関する質問をあらかじめ考えておくこと(概ね1時間)。			成澤 広幸			
3	事例研究1 泉ロイヤルパークホテル：ホテルにおけるインバウンド誘客について			泉ロイヤルパークホテルについてネット等で調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸 泉ロイヤルパークホテルスタッフ			
4										
5	旅行会社が求めるホテル・旅館について			旅行会社と宿泊施設の関係について調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸 旅行会社スタッフ			
6	事例研究2 アキウ舎(秋保温泉)：街づくりが与えるホテルへの影響について			アキウ舎についてネット等で調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸 アキウ舎スタッフ			
7										
8	事例研究3 小松館 好風亭(松島温泉)：日本三景のホテル経営について			好風亭についてネット等で調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸 好風亭スタッフ			
9										
10	国の観光政策と宿泊業の現状について			観光政策における宿泊業について、観光白書などで予習すること(概ね30分)。			成澤 広幸 東北運輸局観光部長			
11	事例研究4 流辺別邸 観山聴月(青根温泉)：ホテル経営について			観山聴月についてネット等で調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸 観山聴月スタッフ			
12										
13	事例研究5 緑水亭(秋保温泉)：街づくりが与えるホテルへの影響について			緑水亭についてネット等で調べておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸 緑水亭スタッフ			
14										
15	まとめ：「ホテル経営」を振り返って			各授業の内容を復習しておくこと(概ね30分)。			成澤 広幸			
教科書	特になし									
参考文献	適宜紹介する									
備考	本授業はオムニバス形式で実施される。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-12				
				●	●					
科目名	旅と文学				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験（レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>本科目では旅と文学の接点に位置する紀行文学において、古代からいかに人々が未知の文化・文明・風土に関心を持ち、ときに時代や社会を批判し、また自らの心情を著者の心情に重ねて旅を追体験してきたかを学ぶ。また、どの紀行文もそれ自体独立して存在するものではなく、社会的、文化的、政治的、経済的、文学的など様々な状況に重層的にからめとられながら成立してきたという経緯についても理解を深める。</p>									
到達目標	<p>日欧の旅の記録や表現の多様性について、および、旅に関わる文学の発展が観光の発展に及ぼした影響について、時代状況や地域等をふまえて、自分の言葉で説明できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>旅のもたらす新鮮な驚き、感動は個人にとって人間的な成長に貴重な糧となる。些細なものでもかまわないから、旅の喜び（そして苦しみ）を感じたことのある人なら、紀行文学からそういう感情を引き出し、共有することができるはず。他人の旅の感情を共有して追体験し、違う世界を理解することはきっと自分の人生を豊かにします。そういう体験をしてもらいたいと思います。</p>									
回	授業計画					準備学修				
1	紀行文学の定義：旅によって生み出された文学とはどのようなものかを考える					図書館、ネットなどで紀行文学について調べておいてください（1時間）				
2	紀行文学のコーパスを考える					図書館、ネットなどで紀行文学にはどのようなジャンルが含まれるか調べておいてください（1時間）				
3	日本の紀行文学史の概観（1）：古代から室町時代					事前の配布資料で日本の紀行文学史概略（古代から室町時代）を読んでおいて下さい（1時間）				
4	日本の紀行文学史の概観（2）江戸時代以降					事前の配布資料で日本の紀行文学史概略（江戸時代以降）を読んでおいて下さい（1時間）				
5	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（1）：古代					配布されたアンソロジーの該当部分（古代）を読んでおいてください（30分）				
6	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（2）：中世					配布されたアンソロジーの該当部分（中世）を読んでおいてください（30分）				
7	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（3）：近世					配布されたアンソロジーの該当部分（近世）を読んでおいてください（30分）				
8	西欧の紀行文学史の概観（1）：古代からルネサンスまで					事前の配布資料で西欧の紀行文学史概略（古代からルネサンス）を読んでおいて下さい（1時間）				
9	西欧の紀行文学史の概観（2）：17世紀以降					事前の配布資料で西欧の紀行文学史概略（近代）を読んでおいて下さい（1時間）				
10	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（1）：古代					配布されたアンソロジーの該当部分（古代）を読んでおいてください（30分）				
11	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（2）：中世					配布されたアンソロジーの該当部分（中世）を読んでおいてください（30分）				
12	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（3）：ルネサンス					配布されたアンソロジーの該当部分（ルネサンス）を読んでおいてください（30分）				
13	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（4）：17・18世紀					配布されたアンソロジーの該当部分（17世紀・18世紀）を読んでおいてください（30分）				
14	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（5）：19・20世紀					配布されたアンソロジーの該当部分（19世紀から現代）を読んでおいてください（30分）				
15	現代における紀行文学の意義					授業を振り返って、紀行文学の諸相を整理しておいてください（30分）				
教科書	特に使用しない。アンソロジーについては授業中に配布予定。									
参考文献	授業中に指示する。									
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。LMSなどで課題の提出を行う予定です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-13				
		●			●					
科目名	テーマパークビジネス				単位認定者	鎌田 貢治		授業内課題等	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	30 時間
						授業回数	15 回			
授業の概要	我が国では1980年以降、東京ディズニーランドを始めとするテーマパークが次々と開園したが、それらの多くがバブル後に経営不振や休業、廃業に追い込まれた。本科目ではケーススタディとしていくつかのテーマパークを取り上げ、外的環境と企業努力の点から成功と失敗の要因を分析、理解する。また適宜テーマパークを実際に視察し、実際の運営に触れることで、テーマパークにおけるビジネスモデルを学ぶ。									
到達目標	テーマパークがもたらす経済効果とその周辺に係わる観光事業等がどのように関わっているのかを認識してもらう。またTDLのホスピタリティを深耕することで、自身のパーソナリティの一つの選択肢として会得してもらう。また世界のパークについても基本事項を会得する									
学修者への期待等	日本のテーマパークについて、現在どのような状況なのかを認識する。またTDL USJの2大テーマパークについては個人の感想を含めて意見を求める。八木山ベニーランド、スパリゾートハワイアンズでのフィールド学習を実施する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス：講師自己紹介、講義の進め方、テーマパークの位置付など				特になし					
2	テーマパークの歴史と現状（国内、海外）の考察及び八木山ベニーランドの事前検証				事前：興味のあるテーマパークを調べておく。					
3	【現地調査①】八木山ベニーランド調査及び講話				事前：八木山ベニーランドについて調べておく。					
4					事後：視察結果と講話の感想を準備まとめる					
5	ベニーランド視察の振り返り検証。TDLの歴史的背景及び現状。米国との相違性等				事前：TDLについての概要を調べておく。					
6	テーマパークにおけるホスピタリティ おもてなし、サービスの違いを検証				事前：ホスピタリティとは何か考えておく。					
7	グループワークにて上記内容のワーキング作業				事前：グループごとにパワーポイント作成、発表の準備。					
8	上記各グループによるロールプレイング発表。USJの実態の検証。				事前：USJの概要を調べておく。					
9	TDL, USJ以外のテーマパークを対象にグループによる仙台発のモデルコースを作成				事前：対象にしたテーマパークの概要を調べておく。					
10	モデルコースの作成と発表				事前：グループで発表の準備					
11	日本及び海外のテーマパークの紹介 検証				事前：海外のテーマパークの事前調べ					
12	ハワイアンズフィールド学習				事前：ハワイアンズの概要を調べておく。					
13					事後：視察結果と講話の感想をレポート400字にまとめる（授業内課題②）					
14	上記各グループによるハワイアンズの振り返り検証。旅行とテーマパークとの関連性の考察				事前：グループごとにパワーポイント作成、発表の準備。					
15	全体授業の振り返り。今後のパークの在り方等検証。				事後：期末レポートの構成・資料収集					
教科書	特になし									
参考文献	『ディズニーランドはなぜお客様の心をつかんではないのか』 芳中 晃著									
備考	本科目では八木山ベニーランド、スパリゾートハワイアンズを訪問する予定で、2コマ連続、あるいは終日の授業になるため履修者はLMSなどの情報に注意し、他の予定を入れないなどの対応が必要になる。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
旅行会社に30年以上勤務し、営業職として様々な経験を有しており、テーマパークビジネスに関しても造詣が深い。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-19				
				●	●					
科目名	国内観光資源				単位認定者	佐藤 美輪		試験 (レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目は、「国内観光地理」の発展である。「国内観光地理」で学んだ知識を活かし、旅行プランを自ら立てることで、理解を深める。更に、郷土料理や祭りなども取り上げ、現在の観光地が歴史とどのような関連があるかについても学ぶことで、一般常識の養成にも役立つ講義の内容を構成する。</p>									
到達目標	<p>「国内観光地理」で触れた観光地以外にも地域により郷土料理や祭り等多くの歴史が存在する。郷土料理や祭りを学ぶことで、地域文化の違いについて理解できるようになる。また、テキストの内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>オンデマンド配信のため、何度でも繰り返し視聴し知識の定着に努めてほしい。また、足を運んだことが無い地域ほど、講義以外の時間でも自主学修をし理解を深めるよう努力してほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	日本の郷土料理・祭りについて				教科書等で郷土料理・祭りを読んでおく(1時間程度)。					
2	北海道地方の観光地・郷土料理・祭り				教科書等で北海道を読んでおく(1時間程度)。					
3	東北地方の観光地・郷土料理・祭り (青森・秋田・岩手)				教科書等で青森・秋田・岩手を読んでおく(1時間程度)。					
4	東北地方の観光地・郷土料理・祭り (山形・宮城・福島)				教科書等で山形・宮城・福島を読んでおく(1時間程度)。					
5	関東地方の観光地・郷土料理・祭り (新潟・群馬・栃木・茨城)				教科書等で新潟・群馬・栃木・茨城を読んでおく(1時間程度)。					
6	関東地方の観光地・郷土料理・祭り (埼玉・千葉・東京・神奈川)				教科書等で埼玉・千葉・東京・神奈川を読んでおく(1時間程度)。					
7	関東地方・中部地方の観光地・郷土料理・祭り (山梨・長野・静岡)				教科書等で山梨・長野・静岡を読んでおく(1時間程度)。					
8	中部地方の観光地・郷土料理・祭り (愛知・岐阜・富山)				教科書等で愛知・岐阜・富山を読んでおく(1時間程度)。					
9	中部地方・関西地方の観光地・郷土料理・祭り (石川・福井・滋賀)				教科書等で石川・福井・滋賀を読んでおく(1時間程度)。					
10	関西地方の観光地・郷土料理・祭り (京都・奈良)				教科書等で京都・奈良を読んでおく(1時間程度)。					
11	関西地方の観光地・郷土料理・祭り (三重・和歌山・大阪・兵庫)				教科書等で三重・和歌山・大阪・兵庫を読んでおく(1時間程度)。					
12	中国地方の観光地・郷土料理・祭り (鳥取・島根・岡山・広島・山口)				教科書等で鳥取・島根・岡山・広島・山口を読んでおく(1時間程度)。					
13	四国地方の観光地・郷土料理・祭り (香川・徳島・愛媛・高知)				教科書等で香川・徳島・愛媛・高知について読んでおく(1時間程度)。					
14	九州地方の観光地・郷土料理・祭り (福岡・佐賀・長崎・熊本)				教科書等で福岡・佐賀・長崎・熊本を読んでおく(1時間程度)。					
15	九州地方・沖縄の観光地・郷土料理・祭り (大分・宮崎・鹿児島・沖縄)				教科書等で大分・宮崎・鹿児島・沖縄を読んでおく(1時間程度)。					
教科書	『国内観光地理サブノート』 株式会社JTB総合研究所 『旅行業務実務シリーズ④国内旅行実務 国内観光資源』2023 株式会社JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて紹介する。また必要に応じて適宜プリントを配布する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 ・本科目は遠隔(オンデマンド配信)にて実施する。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
				●	●

科目ナンバリング
TB-3-ECO-22

科目名	海外観光地理				単位 認定者	齋藤 幸一		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	

授業の概要 本科目は、世界主要国・都市の観光地に関して基礎知識を身につけることを目的とする。国毎の地形と主要都市の基礎知識および観光資源を学ぶため、『海外旅行地理 プラクティカル』を活用しながら『海外観光地理 サブノート』を講義で埋め込んでいく。また具体的なイメージを持つように各観光資源の画像も活用することで、理解や考察を深めていく。

到達目標 世界遺産をはじめとし、海外の観光地に目を向け、関心がある国について自主的に調べ、学びを深めていく姿勢を養う。世界主要国の都市や観光資源について理解できるようになる。

学修者への期待等 限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の予習・復習を積極的に行ってほしい。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス(授業の進め方・評価など)	
2	中国(北部・南部・香港・マカオ・台湾)	事前にテキストの中国の北部・南部・香港・マカオ・台湾の部分を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
3	中国(シルクロード・チベット)・韓国	事前にテキストの中国(シルクロード・チベット)・韓国を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
4	東南アジアⅠ(ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマー・タイ)	事前にテキストの東南アジアⅠ(ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマー・タイ)を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
5	東南アジアⅡ(マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン)・グアム	事前にテキストの東南アジアⅡ(マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン)・グアムを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
6	アメリカ合衆国(東部)	事前にテキストのアメリカ合衆国(東部)の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
7	アメリカ合衆国(西部・西海岸)	事前にテキストのアメリカ合衆国(西部・西海岸)の箇所を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
8	カナダ・ハワイ諸島	事前にテキストのカナダ・ハワイ諸島を読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
9	オーストラリア・ニュージーランド	事前にテキストのオーストラリア・ニュージーランドを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
10	イギリス	事前にテキストのイギリスを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
11	フランス	事前にテキストのフランスを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
12	ドイツ	事前にテキストのドイツを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
13	イタリア	事前にテキストのイタリアを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
14	スペイン・ポルトガル	事前にテキストのスペイン・ポルトガルを読んで授業に臨んでください(1時間程度)。
15	総まとめ	前回までの授業内容を復習して授業に臨んでください(1時間程度)。

教科書 『海外旅行地理 プラクティカル』株式会社JTB総合研究所
『海外観光地理 サブノート』株式会社JTB総合研究所

参考文献 必要に応じて指示する。

備考 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。事前にテキスト・サブノートに目を通して、授業に臨むこと。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-36				
		●			●					
科目名	東南アジアの言語と文化				単位 認定者	成澤 広幸		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	受講態度	30 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	観光立国が現代日本の成長の一つの柱として重視されているが、本科目は近年、訪日旅行者が増加傾向を続けるアジア諸国、中でも東南アジアの国々について、どのような言語が話され、どのような文化が育まれているのかを概括的に学修する。そこから東南アジア諸国の言語・文化の多様性を理解し、それらの国からのインバウンド需要に応える基礎的素養を身につけることを目的とする。									
到達目標	観光分野において日本にとってこれからますます重要となる東南アジアの国々について、地理的關係、文化的文脈、言語状況、社会的背景などを自分の言葉で語れるようになる。									
学修者への 期待等	今後東南アジア諸国はますます重要な日本のパートナーとなります。日頃からニュースやネットなどで東南アジア諸国の動きに注意してください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	東南アジア諸国と日本の関係：戦前				東南アジアと日本の交流史について調べてください。(概ね30分)			成澤 広幸		
2	東南アジア諸国と日本の関係：戦後から現在まで				東南アジアと日本の交流史について調べてください。(概ね30分)			成澤 広幸		
3	インドネシア共和国の歴史				インドネシアの歴史についての動画を観てください。 https://www.youtube.com/watch?v=gjRSWNhC1Xo (30分程度)			Inna Syahida Inayah		
4	インドネシアの文化と社会				資料を一覧し、インドネシアの文化の特徴について考えてください。 https://www.mlit.go.jp/common/000116965.pdf (30分程度)			Inna Syahida Inayah		
5	インドネシア語のあいさつと基本文法I				インドネシア語のあいさつの動画を観てください。 https://www.youtube.com/watch?v=9SWPS3skjJ0&t=1s (30分程度)			Inna Syahida Inayah		
6	インドネシア語の基本文法II				インドネシア語の文の基本構造について見ておいてください https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/id/gmod/courses/c01/lesson01/			Inna Syahida Inayah		
7	ベトナムの歴史				「ベトナムの歴史」(https://youtu.be/t99FpfCaEVg) ビデオを見てきてください(概ね30分)			Nguyen Thi Thu Huyen		
8	ベトナムの言語				東京外国語大学言語モジュール ベトナム語 (http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/vi/)でベトナム語 について調べてきてください(概ね30分)			Nguyen Thi Thu Huyen		
9	ベトナムの文化(1)				「ベトナムへようこそ」 (https://youtu.be/6WJg9vbjgBY)ビデオを見てきて ください(概ね10分)			Nguyen Thi Thu Huyen		
10	ベトナムの文化(2)				ベトナムの観光地について調べてください(概ね30分)			Nguyen Thi Thu Huyen		
11	タイの暮らしと文化①：タイの地理と気候、タイ人の国民性、食文化				タイの地理情報と食文化について調べてください。 (概ね30分)			Sutheera Sritrakool		
12	タイの暮らしと文化②：タイの習慣、年間行事・祭り、観光				タイのお祭り・観光地について調べてください。(概ね30分)			Sutheera Sritrakool		
13	タイのことばとその文化的な背景				タイ文字およびタイ語の特徴について調べてください。 (概ね30分)			Sutheera Sritrakool		
14	タイの美術と伝統芸術				タイの美術・伝統芸能/舞踊について調べてください。 (概ね30分)			Sutheera Sritrakool		
15	まとめ：東南アジアと日本の新たな関係				東南アジア諸国と日本との新たな関係について考えてください。(概ね30分)			成澤 広幸		
教科書	特に使用しない。									
参考文献	授業中に指示する。									
備考										
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-37				
	●	●								
科目名	韓国語会話Ⅱ				単位認定者	李 美賢		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
			授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	本科目は、韓国語の基礎をすでに修得した学生を対象とし、口頭表現力、聴解力、読解力の向上を目指す。すなわち「覚える韓国語から使う韓国語」を指向し、高度な文法的知識を身に付けると同時に現地で通用する会話運用能力を養う。そのために、韓国の文化、経済、価値観の理解も深め、ビジネスや文化交流の現場で活躍できる人材育成を目指す。									
到達目標	韓国語の中級レベルの語彙及び文法を理解できる。ネイティブスピーカーの話しを理解し、自分の専門について韓国語でいえる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・初級で学んだ基礎文法をしっかり理解したうえで授業に臨んでほしい。また、現地で通用する語学力を高めるためには、単語力の強化を強く勧める。 ・韓国語能力検定試験(TOPIK)を受験する方は、各自申し込みをおこなってください。 									
回	授業計画				準備学修					
1	・ガイダンス、簡単な会話の練習、韓国語の読み方 ・クラス分け									
2	第1課 ①-해요体の過去形の作り方 ②位置名詞				授業で学んだ『過去形/位置名詞』については必ず復習すること(1時間程度)					
3	第2課 ①～です。ね。 ②～です。ね。～でしょう?～なんです。よ。				授業で学んだ表現については必ず復習すること(1時間程度)					
4	第3課 ①～しています(1) ②～できません③～しないでください。				授業で学んだ表現については必ず復習すること(1時間程度)					
5	第4課 ①～するつもりです。～でしょう ②～しましょうか?～でしょうか?～します。ね。				授業で学んだ表現については必ず復習すること(1時間程度)					
6	第1課～第4課まで復習(新聞や雑誌読みと問題解きやゲームなど)				第1課～第4課まで学んだ内容は必ず復習すること(1時間程度)					
7	第5課 ①～しなければなりません。 ②～してもいいです。③～しています(2)				授業で学んだ表現については必ず復習すること(1時間程度)					
8	第6課 ①～て～なので ②～からしてみる ③～からしてくださいませんか?				授業で学んだ表現については必ず復習すること(1時間程度)					
9	第7課 ①～する(動詞の現在連体形) ②～な(形容詞の現在連体形) ③～なのですが				授業で学んだ『動詞と形容詞の現在連体形』については必ず復習すること(1時間程度)					
10	第8課 ①～した(動詞の過去連体形) ②～してから・～して以来③～しません・～くありません				授業で学んだ『動詞の過去連体形』は必ず復習すること(1時間程度)					
11	第9課 ①～する(動詞の未来連体形) ②～することができます/～できません/～するとき				授業で学んだ『動詞の未来連体形』は必ず復習すること(1時間程度)					
12	第10課 ①～して～くて～で ②～だが～けれど ③～できません(3)				授業で学んだ内容は必ず復習すること(1時間程度)					
13	第11課 ①～たら～れば ②～ながら ③～ので～だから				授業で学んだ内容は必ず復習すること(1時間程度)					
14	第12課 ①～そうです。～のようです。～と思います ②～で(手段・方法)				授業で学んだ内容については必ず復習すること(1時間程度)					
15	第5課～第12課まで復習(新聞や雑誌読みと問題解きやゲームなど)				第5課～第12課まで学んだ内容は必ず復習すること(1時間程度)					
教科書	山崎玲美奈著『キムチ2 韓国語初中級』 2022.1, 朝日出版社									
参考文献	授業内で紹介する。									
備考	1.教科書中心に授業を行うので、必ず教科書持参する。2.講義で参考資料として配る資料はファイルしておくこと。3.学期途中で遠隔授業に切り替わった場合、授業計画については別途指示する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-25				
	●	●								
科目名	中国語会話 I				単位認定者	程 艶春		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、中国語の発音、文字から始まり、基本的な文法や会話を学習し、初級の言語能力を養成することを目的とする。中国語は、アジア圏そして世界で必須の言語であり、本講義において基本的な中国語力を獲得することを目標とする。									
到達目標	中国語の基本的な発音の知識と文法を身につけて、簡単な読み書きと会話ができることを目標にしています。									
学修者への期待等	毎回学修した内容をしっかり復習すること、授業中に積極的にコミュニケーション活動に参加することを期待しています。									
回	授業計画				準備学修					
1	中国語についての豆知識									
2	中国語の発音 1 (母音について)				新しく学修した豆知識についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
3	中国語の発音 2 (子音について)				新しく学修した母音についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
4	中国語の基礎文法 1 (是の文型)				新しく学修した子音についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
5	中国語の基礎文法 2 (有の文型)				新しく学修した文法 1 についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
6	会話 1 誘う文型				新しく学修した文法 2 についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
7	会話1のロールプレイ				新しく学修した誘う文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
8	会話 2 聞く文型				新しく学修した会話 1 の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
9	会話 2 のロールプレイ				新しく学修した会話 2 聞く文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
10	会話 3 祝う文型				新しく学修した会話2の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
11	会話 3 のロールプレイ				新しく学修した会話 3 祝うの文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
12	会話 4 お願いする文型				新しく学修した会話3の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
13	会話 4 のロールプレイ				新しく学修した会話 4 お願いする文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
14	会話5 ほめ方の文型				新しく学修した会話4の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと (1時間程度)					
15	会話5のロールプレイ									
教科書	市瀬智紀／程艶春著『ゼロから話せる中国語』三修社									
参考文献	特になし									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-38				
	●	●								
科目名	中国語会話Ⅱ				単位認定者	程 艶春		試験 (レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、「中国語会話Ⅰ」を受けて、基本的な中国語の文法と会話を習得したのち、初級の中国語の能力を活用して、中国語を円滑に発音しつつ、中国語の文法規則を総体的に認識して会話の中で確実に活用できることを目的とする。									
到達目標	学修した基本の文法を応用して、自分から言葉を組み立てて、書く、会話及び簡単な文章読解ができることを目標にしています。									
学修者への期待等	毎回学修した内容をしっかり復習すること、授業中に積極的にコミュニケーション活動に参加することを期待しています。									
回	授業計画				準備学修					
1	今まで習った内容をまとめて復習する									
2	会話6 電話のかけ方				今まで習得した内容についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
3	会話6のロールプレイ				新しく学修した電話のかけ方についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
4	会話7 許可をもらう文型				新しく学修した会話6の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
5	会話7のロールプレイ				新しく学修した会話7許可をもらう文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
6	会話8 感情表現の文型				新しく学修した会話7の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
7	会話8のロールプレイ				新しく学修した感情表現についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
8	会話9 体調の表現の文型				新しく学修した会話8の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
9	会話9のロールプレイ				新しく学修した体調の表現の文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
10	会話10 使役の文型				新しく学修した会話9の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
11	会話10のロールプレイ				新しく学修した使役の文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
12	会話11 意思表示の文型				新しく学修した会話10の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
13	会話11のロールプレイ				新しく学修した意思表示の文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
14	小文章の解説				新しく学修した会話11の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと(1時間程度)。					
15	まとめと復習									
教科書	市瀬智紀／程艶春著『ゼロから話せる中国語』三修社									
参考文献	特になし									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-26				
	●	●								
科目名	フランス語会話				単位 認定者	野中 みどり		確認小テスト	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>本科目では、口頭による練習問題を多く重ねることで、フランス語の世界を「音」から理解することから始める。具体的には、日常生活の各場面でも多く使用される基本的なフランス語表現を繰り返し聞き、発音することで、状況に即した表現を「音の連鎖」として捉え、また自らも状況に合わせて「音の連鎖」を発信する訓練を行う。その過程で最小限の文法事項、文字表記法、様々な慣用表現などの説明も適宜行い、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書く力を養う。</p>									
到達目標	<p>挨拶や基本的な考えを平易な表現で相手に伝えることができ、かつ相手の同様の表現を理解することができる。教科書のモデル会話文を理解して問題に適切に答えることができる。</p>									
学修者への期待等	<p>言葉はコミュニケーションの手段であると同時に、世界をどう見るか、どう切り取るかという世界観の表れ、つまり文化そのものです。フランス語は世界をどう見ているのかということ、常に日本語と比較しながら考えるとフランス語そのものに対する理解が劇的に深まります。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	フランス語の特徴を紹介, アルファベ				0課および8-9頁を眺めておく：概ね1時間。					
2	基本の挨拶, 数字1-10, パリについて				0課のテーマについて考察する, 音声を聞いて予習：概ね30分。復習：概ね30分。					
3	国籍と名前の言い方, フランスの学生について				1課のテーマ, 国籍の語彙を予習：概ね30分。会話音声と語彙を復習：概ね30分。					
4	職業を言う, 規則動詞, 疑問文, フランスについて				2課のクイズ, 職業の語彙を予習：概ね30分。会話音声と語彙を復習：概ね30分。					
5	好みを言う, 冠詞, お店について				3課のテーマ, 名詞を予習：概ね30分。会話音声と名詞を復習：概ね30分。					
6	家族について話す, 否定文, 数字11-20, 社会生活				4課のテーマ, 親族の語彙を予習：概ね30分。会話音声と語彙を復習：概ね30分。					
7	人や物を描写する, 形容詞, 買い物について				5課のテーマ, 形容詞を予習：概ね30分。会話音声と形容詞を復習：概ね30分。					
8	前半 (0課-5課) の復習, 確認小テスト, 発音規則				疑問点などを質問できるように整理しておくこと。					
9	誘う表現, 主要動詞, レストランについて(1)				6課より32-33頁を眺めておく, 会話音声を予習：概ね30分。会話音声を復習：概ね30分。					
10	誘いに応える表現, 縮約形, レストランについて(2)				6課のテーマ, 場所の語彙を予習：概ね30分。会話音声と語彙を復習：概ね30分。					
11	予定を言う, 近接未来, 数字30-100, 祝日と週末				7課のテーマ, 会話音声を予習：概ね30分。会話音声と未来形を復習：概ね30分。					
12	依頼する, 命令文, パリ近郊の紹介				8課のテーマ, 飲食物の語彙を予習：概ね30分。会話音声と語彙を復習：概ね30分。					
13	時間や天気を言う, 非人称構文, 世界遺産について				9課のテーマ, 時刻表現を予習：概ね30分。会話音声と時刻・天気を復習：概ね30分。					
14	人物を紹介する, 人称代名詞, フランスの地方都市				10課のテーマ, 会話音声を予習：概ね30分。会話音声と練習問題を復習：概ね30分。					
15	後半 (6課-10課) の復習, 確認小テスト, 発音規則				疑問点などを質問できるように整理しておくこと。					
教科書	『トライ！ フランス語 - F comme français - 』, 藤田知子 他著, 駿河台出版社, ISBN978-4-411-00825-1									
参考文献	仏和辞書 (初回の授業で簡単な辞書の案内を行います)。									
備考	授業内で行う確認小テストは実施後に解答解説します。課題等の提出物は回収後に添削し、次回授業で返却します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-28			
		●	●						
科目名	おもてなし英語				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	ロールプレイ	30 %
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間	受講態度
							授業回数	15 回	
授業の概要	日々の生活の中で外国の方々と接する機会が急増している。本科目では、外国からのお客様に接するための英語表現を学ぶ。コンビニエンスストア、カフェ、レストランや販売店など、広く接遇の場面で活用できる英語力を身につける。実際の場面を想定したロールプレイングを取り入れ、それぞれの状況において必要な語彙や英語表現を修得する。								
到達目標	日常的な接客の場面を想定し、顧客である外国人観光客に英語で対応できるようになる。日本の文化や習慣を再確認し、それらを英語で理解して説明できるようになる。								
学修者への期待等	授業では、店員と外国人客を互いに英語で演じるロールプレイングを多く行う。積極的な姿勢で活動に取り組める学生の履修を期待する。								
回	授業計画				準備学修				
1	授業の進めかたについて「おもてなし英語」とは何か								
2	Unit 1 Ramen ペアワーク (会話練習)				【事前】 pp.8-10.を予習し、日本食についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
3	Unit 2 Animal Café ペアワーク (会話練習)				【事前】 pp.12-14.を予習し、動物カフェについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
4	Unit 3 Stand-up Eatery ペアワーク (会話練習)				【事前】 pp.16-18.を予習し、立ち飲み屋についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
5	Unit 4 Convenience Store ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.20-22.を予習し、コンビニについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
6	Unit 5 Japanese Fast Food, Gyudon ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.24-25.を予習し、牛丼屋についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
7	Unit 6 Japanese Spa ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.28-31.を予習し、温泉についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
8	Unit 7 Flour Dishes ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.32-35.を予習し、粉ものについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
9	Unit 8 Karaoke ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.36-39.を予習し、カラオケについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
10	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurant ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.40-43.を予習し、お通しについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
11	Unit 10 Second-Hand Store ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.44-47.を予習し、リサイクルショップについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
12	Unit 11 Kawaii Culture ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.48-51. を予習し、カワイイ文化についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
13	Unit 12 Soba ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.52-55.を予習し、日本そばについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
14	Unit 13 Bento ペアワーク (会話練習)				【事前】pp.56-59.を予習し、弁当についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する(1時間程度)。				
15	全体Review: これまでに学んだ表現をまとめて自分なりの「おもてなし英語ノート」を作成する								
教科書	坂部俊行, 岡島徳昭, Howard Tarnoff. (2020). <i>Glances of Japan</i> . (『日本文化とおもてなし英語』). 南雲堂.								
参考文献	資料は随時LMSより配信する。								
備考	<ul style="list-style-type: none"> 毎時に授業への疑問などをLMSにReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 履修者の状況によって進捗や順番に変更が生じる場合がある。 								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-30				
		●			●					
科目名	観光英語ガイド基礎				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	観光ビジネス学科の基礎科目・基幹科目で学んだ観光業に関する知識を活かし、地域の魅力を英語でガイドできるような英語力を身に付けることを目的とする。訪日外国人観光客の視点で考えるため、外国人からみた日本の文化等についても学ぶ。他者の視点を持つことで、地域の新たな魅力に気づくことになる。それらをわかりやすく伝えるための英語表現を学ぶ。									
到達目標	観光英語に関する知識をさらに伸ばし、日本の代表的な観光地を訪れた外国人を英語で案内できるようになる。英語を通して、外国人にとって「異文化」である自国の文化をより深く理解できるようになる。									
学修者への期待等	観光分野の知識とともに、英語の技能を伸ばしたいと考える者、異文化理解に関心のある者、テキストの内容理解にとどまらず、積極的に英語を使用したいと考える者の履修を期待する。 また、総合旅行業務取扱管理者試験の英語問題も授業内で扱うため、受験を目指す者の履修も歓迎する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について Lesson 1 An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!				シラバスをよく読み、到達目標を理解しておく。					
2	Lesson 2 Preparation for the 2020 Olympic Games in Tokyo				p.10 のオリンピックについての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
3	Lesson 3 Do You Like to Watch Kabuki?				p.14の歌舞伎についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
4	Lesson 4 The Sapporo Snow Festival 総合旅行業務取扱管理者試験英語問題①				p.18の雪まつりについての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
5	Lesson 5 Hiraizumi as the Buddhist Pure Land				p.22の平泉についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
6	基本的な会話練習と重要な語句 Scene 1-3 ロールプレイ				授業後にロールプレイで用いた会話表現、重要語句をまとめておく(50分程度)。					
7	Lesson 6 Yokohama Port				p.26の横浜についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
8	Lesson 7 Mt. Fuji				p.30の富士山についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
9	Lesson 8 Omi Province and Its Military History 総合旅行業務取扱管理者試験英語問題②				p.34の近江地方についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
10	Lesson 9 The Deer in Nara				p.38の奈良についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
11	Lesson 10 Kyoto Station				p.42の京都についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
12	Lesson 11 Let's Explore Osaka 総合旅行業務取扱管理者試験英語問題③				p.46の大阪についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
13	Lesson 12 Port City Kobe				p.50の神戸についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
14	Lesson 13 Sand Dunes in Tottori				p.54の鳥取についての文章を読み、T/Fに回答しておく(50分程度)。					
15	基本的な会話練習と重要な語句 Scene 4-5 ロールプレイ / 全体の振り返り				授業後にロールプレイで用いた会話表現、重要語句をまとめておく(50分程度)。					
教科書	木戸美幸, Carolyn Wright, 河原俊昭, 徳地慎二 (2016) <i>Hospitality English</i> . (『おもてなしの観光英語』) 三修社									
参考文献	資料等は授業内、またはLMSより随時配信する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをLMSにReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-08				
	●	●								
科目名	観光研修Ⅱ				単位認定者	成澤 広幸 吉野 千乃	松崎 陽子 佐藤 美輪	試験 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	「観光研修Ⅱ」は学年ごと、あるいは学科全体で実施される学外研修、フィールドワーク、観光施設の見学・視察・体験などを通じた学修を行う。この科目は1年次の「観光研修Ⅰ」を引き継ぐものであり、1年次に学んだ観光事象についての認識をもとに、観光に関する学修をより多方面から捉え、その結果として獲得した知識や論理的思考力によって観光学修の意義を自分の言葉で説得的に表現する力を養う。									
到達目標	「観光研修Ⅰ」で学んだことを基に、自ら課題を発見し、解決する力を育成することを目的とする。観光現場を訪問するのみならず、関連分野の実践的に学ぶことにより専門的知識をさらに深化させ、卒業後に観光ビジネス等の分野で活躍できる実務能力を身につける。									
学修者への期待等	研修や体験は団体行動となることが多いため、1人1人が短大生としての自覚を持って行動してほしい。また、協調性と同時に積極性を持って研修に取り組む姿勢を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	観光業務関連研修①				【事前】研修内容と観光業の関連性について調査しておく(概ね50分)。					
2										
3	東北の観光地調査：事前学修				【事前】研修地について調査しておくこと(概ね50分)。					
4	東北の観光地調査(学外研修)				【事後】学外研修の内容をまとめておくこと(概ね50分)。					
5										
6	東北の観光地調査：事後学修				【事前】学外研修の内容について、発表の準備をしておく(概ね90分)。					
7	観光業務関連研修②				【事前】研修内容と観光業の関連性について調査しておく(概ね50分)。					
8										
9	文化観光 事前学修				【事前】鑑賞作品について調査しておくこと(概ね50分)。					
10	文化観光				【事後】鑑賞後の感想を800字程度でまとめる(概ね1時間)。					
11										
12	食文化研修(テーブルマナー)									
13										
14	観光業務関連研修③				【事前】ゲストスピーカーの経歴を確認し、質問事項を考えておく(概ね40分)。					
15										
教科書	使用しない。									
参考文献	参考資料は随時配布する。									
備考	状況により順番や進度に変更が生じる場合がある。研修をオンラインに変更して実施することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
TB-4-SEM-10

科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅠ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語る力を養成する。									
到達目標	コロナ収束後のインバウンドの状況において、国・地域別割合、消費金額割合、各国・各地域の特徴、日本への経済的・文化的・政治的などの影響について、自分なりに整理した上で客観的な数字とともに自分の考えを述べるができるようになること。									
学修者への期待等	国際観光の理解には旺盛な好奇心が必要です。特にインバウンド観光については、自分が身近に観察できる国際観光の姿なので、具体的な好奇心がさまざまな疑問を呼び起こすと思います。好奇心を貪欲なくらい持って、インバウンド観光の世界を眺めてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。調査するインバウンドテーマの選定。					インバウンドの一般的な定義について調べておいてください（概ね20分）。				
2	日本のインバウンド概略（1）：観光立国宣言まで（講義&ディスカッション）					戦後日本ではなぜインバウンド観光が盛んでなかったのかを調べてください（概ね30分）。				
3	日本のインバウンド概略（2）：観光立国宣言後の状況（講義&ディスカッション）					なぜ日本で観光立国宣言が必要であったのか、調べてください（概ね30分）。				
4	日本のインバウンド概略（3）：インバウンド観光の急激な拡大とコロナ禍（講義&ディスカッション）					2024年現在のインバウンド観光状況について調べてください（概ね30分）。				
5	フィールドワークの事前調査：宮城蔵王キツネ村					蔵王キツネ村の概略について調べてください（概ね20分）。				
6	県内観光地フィールドワーク（1）宮城蔵王キツネ村					蔵王キツネ村について、インバウンドの視点から調べてください（概ね30分）。				
7										
8	インバウンドテーマの調査					どのようなテーマを選ぶのかをあらかじめ考えてください（概ね30分）。				
9	インバウンドテーマの調査の中間プレゼンテーション					調査の方向について明確な説明ができるようにしてください（概ね30分）。				
10	インバウンドテーマの調査の最終プレゼンテーション					5分ほどで発表をまとめるように準備してください（プレゼン準備に30分）。				
11	県内観光地フィールドワーク（2）東北歴史博物館					東北歴史博物館の展示についてHPで調べておいてください（概ね30分）。				
12										
13	インバウンド事例研究（1）：オーバーツーリズム					オーバーツーリズムの実例を2か所、調べてください。（概ね30分）。				
14	インバウンド事例研究（2）：ムスリムとハラール					ムスリムにとってのハラールと観光の関係について調べてください（概ね30分）。				
15	まとめ：「自分とインバウンド」について語ろう（ディスカッション）					自分にとってのインバウンドとは何かを考えてください（概ね30分）。				
教科書	特に使用しません。必要な資料を随時配布します。									
参考文献	授業中に適宜紹介します。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	松崎 陽子		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅡ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語れる力を養成する。									
到達目標	観光と観光ビジネス業界についての知見を深め、将来観光ビジネス分野での有用な人材となるための基礎を形成する。「観光」「観光ビジネス」に対する自己の視点を確立する。									
学修者への期待等	観光地を訪問するユーザーとしてではなく、観光ビジネスにおける人材として必要な視点を持てるように取材活動や外部コンテストへの応募を行うため、主体的に行動しアイデアを出せる意欲のある学生を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス, 自己紹介, ゼミ長・副ゼミ長選出				【事後】興味のある業界を調べる (30分程度)。					
2	観光業界について				【事前】研究したい業界を決める (30分程度)。					
3	グループワーク①観光業の魅力について話し合う				【事後】グループの意見をまとめる (30分程度)。					
4	フィールドワーク①宮城県観光協会訪問				【事前】観光協会のHPをみておく (30分程度)。					
5					【事後】訪問レポートを書いて提出 (30分程度)。					
6	グループワーク②観光分野の仕事に関して学ぶ				【事前】志望業界を絞り込んでおく (30分程度)。					
7	フィールドワーク②仙台市役所観光課訪問				【事前】仙台市のHPを見ておく (30分程度)。					
8					【事後】訪問レポートを書いて提出 (30分程度)。					
9	グループワーク③仙台市の観光の課題に関して				【事前】取材で得た課題を考えておく (30分程度)。					
10	大学生観光まちづくりコンテストの解説				【事前】過去の受賞作を見ておく (30分程度)。					
11	グループワーク③コンテスト応募のアイデアを練る				【事後】グループごとに企画書を書く (30分程度)。					
12	フィールドワーク④研究対象地域の見学				【事前】対象地域を調べておく (30分程度)。					
13					【事後】提案の骨子を考える (1時間程度)。					
14	グループワーク④企画書の完成・応募				【事前】企画書の下書きを完成する (1時間程度)。					
15	ふりかえり				【事前】個人の反省点をまとめておく (30分程度)。					
教科書	適宜, 授業にて資料を配布する。									
参考文献	担当記事により, 適宜指示する。									
備考	取材先の都合などにより実施する回の変更, 取材先自体の変更の可能性があり得る。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

出版社で月刊誌編集記者として10年間勤務し, 企画立案から取材・記事執筆活動全般に従事した。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10					
	●	●	●	●	●						
科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	吉野 千乃		試験 (レポート)	50	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30	%
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度	20
				授業回数		15 回					
授業の概要	「観光ゼミⅡ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語れる力を養成する。										
到達目標	仙台市内近郊の身近な観光地情報を英語で発信することを最大の目的とし、調査計画やその実施、結果のまとめとアウトプットといった一連の作業を、自分たちの力でやり遂げることができるようになる。										
学修者への期待等	日本の文化を紹介することや、異文化理解に関心を持つ者、英語を用いて基本的な情報収集と発信を行うことに意欲のある者の履修を期待する。また、グループワークには各自が責任感を持ち、積極的な姿勢で臨むことが必須である。										
回	授業計画				準備学修						
1	授業ガイダンス, ゼミ内の役割決定, グループ分け										
2	テーマ設定 (グループディスカッション)				【事前】 英語で発信したい内容をそれぞれ検討しておく (概ね50分)。						
3	発信方法の決定 (グループディスカッション)				【事前】 テーマに沿って、実際に英語で発信されている素材を調査しておく (概ね50分)。						
4	作業スケジュールの作成(グループワーク)				【事前】 調査から作業完了までの行程を検討しておく (概ね50分)。						
5	現地調査の準備(グループワーク)				【事前】 現地調査の計画を立てる (概ね50分)。						
6	現地調査:仙台市内近郊で調査を行う				【事前】 現地調査スケジュールの詳細を確認する (概ね40分)。						
7											
8	現地調査のまとめ(グループワーク)				【事前】 調査結果メモや入手した資料をまとめておく (概ね50分)。						
9	成果内容作成の準備(グループワーク)				【事前】 役割分担を元に、担当箇所のもまとめ作業をおこなっておく (概ね50分)。						
10	原稿のチェック, 修正箇所を協議(グループワーク)				【事前】 自分の作成した原稿の英語表現を確認しておく (概ね60分)。						
11	発表とピアフィードバック				【事前】 グループ毎に発表の準備を行う (概ね60分)。						
12	調査結果のアウトプット				【事前】 調査結果をそのような形でアウトプットするか、再度グループで検討しておく (概ね50分)。						
13	仙台市内滞在のインバウンドへ向けての発信				【事前】 仙台市内ゲストハウスにて調査結果を発信するための事前準備を行う (概ね90分)。						
14											
15	まとめと振り返り										
教科書	使用しない。										
参考文献	授業内で適宜紹介する。										
備考	状況により現地調査をオンラインで実施する場合がある。また、履修者の状況により、内容や進度の調整を行うことがある。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	佐藤 美輪		試験(レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	「観光ゼミI」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語る力を養成する。									
到達目標	①観光地や東日本大震災について調査し、フィールドワークを通し、現状や今後の課題について自分の言葉で明確に伝えられるようになる。 ②同じ目的を持ったメンバーと協調し、最後までやり遂げる力を修得する。									
学修者への期待等	東北の温泉地や、東日本大震災について、自ら調べ自分の意見を持ち、主体的に問題意識を持てる人の履修を希望する。グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方				自己紹介で話をする内容を考えて授業に臨んでください(1時間程度)。					
2	温泉地の観光まちづくり：東北・宮城の温泉地について				東北の温泉地を事前に調べてきてください(1時間程度)。					
3	温泉地の観光まちづくり：フィールドワーク準備				フィールドワーク先について事前に調べてきてください(1時間程度)。					
4	温泉地の観光まちづくり：フィールドワーク									
5										
6	温泉地の観光まちづくり：報告書作成				報告会に向けて、報告資料を仕上げてください(1時間程度)。					
7	温泉地の観光まちづくり：フィールドワーク報告会									
8	東日本大震災：被災地の今を考える				東日本大震災の被災地の現状を事前に調べてきてください(1時間程度)。					
9	東日本大震災：復興と課題				東日本大震災の復興と課題を事前に調べてきてください(1時間程度)。					
10	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞				フィールドワーク先について事前に調べてきてください(1時間程度)。					
11	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞				インタビュー項目を事前に考えてきてください(30分程度)。					
12	東日本大震災：フィールドワーク									
13										
14	東日本大震災：報告書作成				報告会に向けて、報告資料を仕上げてください(1時間程度)。					
15	東日本大震災：フィールドワーク報告会									
教科書	使用しない。資料を適宜配布する。									
参考文献	随時紹介する。									
備考	受講者数や受講者の理解度により、フィールド先および授業の順序を変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位 認定者	成澤 広幸		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	日本へのインバウンド観光が急激に拡大している背景の一つである「安いニッポン」という状況について、自分の言葉で多角的に語るができるようになること。									
学修者への期待等	日本へのインバウンド観光客の増加に潜む日本の国力の衰えについて、ネットや雑誌記事などで理解を深めておいてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。プレゼンテーションの説明。				「安いニッポン」の一般的な定義について調べておいてください（概ね20分）。					
2	世界最安値水準の製品とサービス（1）：事実としての安さ				教科書16ページから34ページまで予習してください（概ね1時間）。					
3	世界最安値水準の製品とサービス（2）：安さの秘密				教科書35ページから69ページまで予習してください（概ね1時間）。					
4	低い年収（1）：他国との比較				教科書80ページから106ページまで予習してください（概ね1時間）。					
5	低い年収（2）：低年収の報い				教科書107ページから141ページまで予習してください（概ね1時間）。					
6	県内観光地フィールドワーク（1）宮城蔵王キツネ村				蔵王キツネ村について、インバウンドの視点から調べてください（概ね30分）。					
7										
8	外貨の席卷（1）：観光地や技術の「外資化」				教科書176ページから193ページまで予習してください（概ね1時間）。					
9	外貨の席卷（2）：ヒト・モノの不足				教科書176ページから193ページまで予習してください（概ね1時間）。					
10	安いニッポンの未来（1）：インバウンド後を生きる知恵				教科書196ページから219ページまで予習してください（概ね1時間）。					
11	安いニッポンの未来（2）：「安いニッポン」は変わるか				教科書220ページから234ページまで予習してください（概ね1時間）。					
12	県内観光地フィールドワーク（2）仙台市天文台				仙台市天文台の歴史と特徴についてHP等で調べておいてください（概ね30分）。					
13										
14	「安いニッポン」の各テーマについてのプレゼンテーション				プレゼン準備に1時間。					
15	まとめ：安いニッポンと観光の関わり				授業を振り返って、観光との関係を考えてきてください（概ね30分）。					
教科書	中藤 玲『安いニッポン「価格」が示す停滞』日経BP, 2021。									
参考文献	授業中に適宜示します。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位認定者	松崎 陽子		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	観光業を支える業界・企業についての実際的な知識を習得し、卒業後の自分自身の仕事に生かせることを目標とする。観光業界というマクロの視点と、自身の職種というミクロの視点を併せ持つレベルに到達する。									
学修者への期待等	具体的な企業研究を行うため、ビジネスマナーを身につけて企業訪問並びに取材活動をするようになる。個人としてだけでなく、グループワークができる責任感と協調性が要求される。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス 成績評価について、スケジュール確認				【事前】自分が志望する業界・企業についてあらかじめ調べておく (30分程度)					
2	グループワーク①志望業界ごとに特徴をまとめる				【事後】自分が志望する業界・企業を絞り込む (30分程度)。					
3	グループワーク②業界別にグループで調査				【事後】グループの役割分担を決める (30分程度)。					
4	取材のためのアポイントの取り方、電話のロープレ				【事後】取材対象にアプローチする (30分程度)。					
5	フィールドワーク。企業への取材活動 (取材・写真撮影など)。				【事後】記事の下書き (1時間程度)。					
6										
7	記事原稿作成の注意点				【事後】担当記事の完全原稿執筆 (1時間程度)					
8	小冊子作製についての知識 (レイアウトなど)				【事後】担当記事の発表用スライド作成 (1時間程度)					
9	ゼミ内での発表報告会・ピアレビュー				【事後】発表の反省を話し合う (30分程度)。					
10	他大学合同ゼミで発表報告				【事前】参加大学との調整作業 (1時間程度)。					
11					【事後】他大学の発表の感想を書く (1時間程度)					
12	発表報告会				【事後】他のグループの評価シートを提出する (30分程度)。					
13	(1年生：観光ゼミⅠ-12, 13回目と合同)									
14	小冊子納品, 取材協力先にお礼状と掲載誌送付				【事後】小冊子1冊の感想を書く (30分程度)。					
15	ふりかえり (就職後, ゼミでの学びをどう生かせるか)				【事前】自分が取材した業界・企業についてミニレポートにして授業で提出する (概ね30分)。					
教科書	適宜, 授業にて資料を配布する。									
参考文献	担当記事により, 適宜指示する。									
備考	取材先の都合などにより実施する回の変更, 取材先自体の変更があり得る。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

出版社で月刊誌編集記者として10年間勤務し、企画立案から取材・記事執筆活動全般に従事した。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位認定者	吉野 千乃		試験(レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	<p>「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。</p>									
到達目標	<p>これまで学んだ観光分野の知識を最大限に活用しながら、身近な日本の文化や観光名所を英語で発信できるようにする。インバウンドに向けて、日本の文化や習慣を説明できるようにする。</p>									
学修者への期待等	<p>日本の文化を紹介することや、異文化理解に関心を持つ者、英語を用いて基本的な情報収集と発信を行うことに意欲のある者の履修を期待する。また、グループワークには各自が責任感を持ち、積極的な姿勢で臨むことが必須である。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス,ゼミ内の役割決定,グループ分け									
2	テーマ設定(グループディスカッション)				【事前】自分が英語で紹介したい内容をそれぞれ検討しておく(概ね50分)。					
3	紹介方法の決定(グループディスカッション)				【事前】テーマに沿って、実際に英語で発信されている素材を調査しておく(概ね50分)。					
4	作業スケジュールの作成(グループワーク)				【事前】調査から作業完了までの行程を検討しておく(概ね50分)。					
5	現地調査の準備(グループワーク)				【事前】現地調査の計画を立てる(概ね50分)。					
6	現地調査:仙台市内近郊で調査を行う				【事前】現地調査スケジュールの詳細を確認する(概ね40分)。					
7										
8	現地調査のまとめ(グループワーク)				【事前】調査結果メモや入手した資料をまとめておく(概ね50分)。					
9	成果内容作成の準備(グループワーク)				【事前】役割分担を元に、担当箇所のおおな作業をしておく(概ね50分)。					
10	原稿のチェック,修正箇所を協議(グループワーク)				【事前】自分の作成した原稿の英語表現を確認しておく(概ね60分)。					
11	発表とピアフィードバック				【事前】グループ毎に発表の準備を行う(概ね60分)。					
12	最終発表のリハーサル				【事前】前回の発表を踏まえ、修正箇所を洗い出しておく(概ね50分)。					
13	仙台市内滞在のインバウンドへ向けての発信				【事前】仙台市内ゲストハウスにて、決定したテーマで発表するための事前準備を行う(概ね90分)。					
14										
15	まとめと振り返り									
教科書	使用しない。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	状況により現地調査をオンラインで実施する場合がある。また、履修者の状況により、内容や進度の調整を行うことがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位認定者	佐藤 美輪		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	①「観光ゼミⅡ」に引き続き、東日本大震災の現状についてフィールドワークを通し理解を深め、今後の課題を自ら考えることができるようになる。 ②コミュニケーションスキルを身につけ、調べたり考えた事柄を自分の言葉で的確に伝えられるようになる。									
学修者への期待等	東日本大震災について、フィールドワークに留まらず、積極的に調べ、自分の意見を持つことを期待する。グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方 東日本大震災：被災地の今、フィールドワーク準備				自己紹介で話す内容を考えてきてください（1時間程度）。					
2	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞				インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。					
3	東日本大震災：被災地のフィールドワーク									
4										
5	東日本大震災：フィールドワークの振り返り・まとめ				フィールドワークから得た内容をまとめておいてください（1時間程度）。					
6	東日本大震災：報告書作成				報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。					
7	東日本大震災：フィールドワーク報告会				報告会で得た知識をまとめておいてください。（1時間程度）					
8										
9	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞				フィールドワーク先について事前に調べてきてください（1時間程度）。					
10	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞				インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。					
11	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク									
12										
13	被災地からの復興及び観光地： フィールドワークの振り返り・まとめ				フィールドワークから得た内容をまとめておいてください（1時間程度）。					
14	被災地からの復興及び観光地：報告書作成				報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。					
15	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク報告会									
教科書	使用しない。適宜、レジュメを配布する。									
参考文献	授業中に適宜紹介する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

観光ビジネス学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員一覧

観光ビジネス学科のナンバリング

【例】TB-1-○○○-01

TB	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

観光ビジネス学科：TB

②科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門基幹科目：2

専門展開科目：3

演習科目：4

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野		
人間と文化	HCU	Human & culture
人間と社会	HSO	Human & society
人間と科学	HSC	Human & science
専門教育分野		
基礎科目	FCO	Foundation Courses
基幹科目	CCO	Core Courses
展開科目	ECO	Extended Courses
演習分野		
基礎演習	SEM	Seminar
専門演習	SEM	Seminar

④連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
法律入門	CO-0-HSO-04
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

< 2024 年度入学生ナンバリング >

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		英語 I	CO-0-HCU-02
		東北学	TB-0-HCU-03
		歴史と文化	TB-0-HCU-04
	人間と社会	法律入門	CO-0-HSO-04
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		コミュニケーション論	TB-0-HSO-01
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01
		数理リテラシー	TB-0-HSC-01
専門教育分野	基礎科目	経営学入門	TB-1-FCO-01
		マーケティング	TB-1-FCO-02
		観光概論	TB-1-FCO-03
		観光ビジネス論	TB-1-FCO-04
		国内観光地理	TB-1-FCO-05
		国際観光論	TB-1-FCO-06
		観光史と観光文化	TB-1-FCO-07
		実践文章作成演習	TB-1-FCO-08
		フィールドワーク概論	TB-1-FCO-09
		金融リテラシー入門	TB-1-FCO-10
	基幹科目	英語 II	TB-2-CCO-05
		観光ビジネス英会話	TB-2-CCO-01
		ビジネスマナー	TB-2-CCO-03
		情報機器演習	TB-2-CCO-02
	展開科目	旅行ビジネス実務	TB-3-ECO-01
		エアラインビジネス実務	TB-3-ECO-02
		エアラインサービス	TB-3-ECO-03
		鉄道ビジネス実務	TB-3-ECO-04
		宿泊ビジネス実務	TB-3-ECO-05
		ホテル・ブライダルサービス	TB-3-ECO-06
		ホテル経営	TB-3-ECO-07
		ブライダルビジネス実務	TB-3-ECO-08
		ウェディングブライダル演習	TB-3-ECO-35
		秘書実務	TB-3-ECO-09
		旅と文学	TB-3-ECO-12
		テーマパークビジネス	TB-3-ECO-13
		旅行業法	TB-3-ECO-14
		旅行業約款	TB-3-ECO-15
		国内運賃・旅費計算	TB-3-ECO-16
	国内観光資源	TB-3-ECO-19	
	旅行業務演習	TB-3-ECO-20	

専門教育分野	展開科目	海外観光地理	TB-3-ECO-22
		旅程管理	TB-3-ECO-23
		東南アジアの言語と文化	TB-3-ECO-36
		韓国語会話Ⅰ	TB-3-ECO-24
		韓国語会話Ⅱ	TB-3-ECO-37
		中国語会話Ⅰ	TB-3-ECO-25
		中国語会話Ⅱ	TB-3-ECO-38
		フランス語会話	TB-3-ECO-26
		英会話基礎	TB-3-ECO-32
		英会話応用	TB-3-ECO-39
		観光英語	TB-3-ECO-40
		TOEIC 演習	TB-3-ECO-31
		おもてなし英語	TB-3-ECO-28
		観光英語ガイド基礎	TB-3-ECO-30
		観光インターンシップ	TB-3-ECO-33
		海外研修	TB-3-ECO-34
演習分野	演習科目	基礎キャリア形成ゼミ	TB-4-SEM-01
		実践キャリア形成ゼミ	TB-4-SEM-02
		初年次ゼミ	TB-4-SEM-04
		観光研修Ⅰ	TB-4-SEM-07
		観光研修Ⅱ	TB-4-SEM-08
		観光ゼミⅠ	TB-4-SEM-09
		観光ゼミⅡ	TB-4-SEM-10
		観光ゼミⅢ	TB-4-SEM-11

観光ビジネス学科 学科教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	なるさわ ひろゆき 成澤 広幸	h_narusawa@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (副学科長)	まつざき ようこ 松崎 陽子	y_matsuzaki@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	よしの ちの 吉野 千乃	c_yoshino@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	さとう みわ 佐藤 美輪	m_satou@seiyogakuin.ac.jp

2024年度 観光ビジネス学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

観光ビジネス学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
東北学	2	黒田 清志	H6年からH23年まで仙台市経済局、および仙台市観光コンベンション協会で、また、中小企業診断士として、地域の中小企業、商店街、農業、観光の支援事業を担当。その後、山形県など各地の研修会等のセミナー講師、アドバイザーを務める。
法律入門	2	鈴木 一樹	公認会計士として上場企業等の法定監査、税理士として税務業務に従事。
実践文章作成演習	1	松崎 陽子	出版社にて編集記者として10年間勤務しフリーランス文筆業として24冊の単行本を上梓している。
ビジネスマナー	2	加藤 雅子	元大手国内航空会社国際線CA及びCA教官。機内サービスCS推進部担当経験者。
エアラインビジネス実務	2	加藤 雅子	元大手国内航空会社国際線CA及びCA教官。機内サービスCS推進部担当経験者。
鉄道ビジネス実務	2	紺野 純一	国鉄・JR職員(仙台駅長等)の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。
宿泊ビジネス実務	2	紺野 純一	国鉄・JR職員(仙台駅長等)の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。
ホテル・ブライダルサービス	2	小野寺 理恵	ブライダルコーディネーターとして実務経験を有する。
ブライダルビジネス実務	2	小野寺 理恵	ホテルや神社、ゲストハウスでのブライダル経験(美容、司会、アテンド、プランナー等)あり。
旅程管理	2	堤 博史	総合旅行業務取扱管理者、観光庁登録の旅程管理講習資格を有する。
	19	実務経験を有する職員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	